

中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会
報告書（案）

平成 28 年 6 月

はじめに

目 次

はじめに

第1章 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会について……………	1
1 高齢者の社会的孤立の背景	
2 懇談会の目的	
3 開催状況	
第2章 高齢者の閉じこもりと孤立について……………	3
1 高齢者の閉じこもりと健康	
2 男性高齢者の孤立防止と社会参加	
第3章 中央区の高齢者の状況……………	9
1 高齢化率の推移	
2 前期・後期高齢者人口の推移	
3 要支援・要介護認定者の推移	
4 高齢者単身世帯の増加	
5 高齢者の世帯及び住まいの状況	
6 住宅のたて方別世帯割合の推移	
第4章 「日常生活の状況に関するアンケート調査」からみた高齢者の状況……	16
1 調査の概要	
2 調査結果の概要	
3 社会的孤立の状況に関する分析	
第5章 高齢者の社会参加に向けて……………	33
1 基本的な考え方	
2 行政の役割	
資料……………	39
中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会設置要綱	
中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 委員名簿	
中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査 調査票	
中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査の結果	

第1章 懇談会の目的

1 高齢者の社会的孤立の背景

平成22年の国勢調査の結果によれば、中央区において65歳以上高齢者のいる一般世帯のうち、ひとり暮らし高齢者世帯の割合は38.7%であり、既に4割近くになっている。また、本区ではマンション等の集合住宅に住んでいる世帯の割合が8割を超えている。

平成26年4月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の世帯数の将来推計」によると、65歳以上の人口に占めるひとり暮らし高齢者の割合は、平成47年には東京都が全国で最も高くなり、27.7%がひとり暮らしになると予想されている。これは昭和30年代後半に首都圏へ流入してきた世代が、配偶者の死別などで「ひとり暮らし」となるケースが多いことなどが考えられる。

高齢期は、退職、配偶者との死別、身体機能の低下、子世帯への転居など、生活状況に変化が起りやすい。それらの変化は人づきあいの縮小をもたらすことがあり、それによって社会とのつながりの希薄化や健康水準の低下が懸念されているため、高齢者の閉じこもりや社会的孤立を防ぐ対策が必要となっている。

2 懇談会の目的

本区では、平成27年3月に「中央区高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画」を策定し、重点事業の一つとして高齢者の孤立防止の支援を掲げている。本懇談会は、その一環として地域団体や関係機関などで構成し、閉じこもりがちな高齢者や社会的に孤立している高齢者または今後孤立するおそれのある高齢者が、早いうちから地域と接点を持ち、社会参加し、生きがいを持って生活できるようにするための今後の区の支援策などについて、現場の意見を踏まえつつ検討することを目的としている。

また、懇談会における検討の基礎資料として、65歳以上の区民を対象とした「中央区日常生活の状況に関するアンケート調査」を実施し、高齢者の生活状況等の実態について分析を行った。

【中央区高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画】

○第3章 高齢者施策の方向性

心身ともに健やかに
いきいきとくらせるまち

社会参加と生きがいづくり
を支援します。

健康づくり（介護予防）を
推進します。

だれもが互いに支えあい
安心してくらせるまち

住み慣れた地域で生活を
継続できるサービスを充実
させます。

互いに支えあうしくみを
つくります。

重点事業
「高齢者の孤立防止の支援」

3 開催状況

本懇談会は、平成 27 年度から平成 28 年度にかけて、全 6 回開催した。日程及び各回の内容は以下のとおりである。

開催日	内 容
第 1 回 平成 27 年 4 月 28 日	・中央区高齢者の状況及び懇談会の目的 ・各委員の活動紹介等 ・アンケートの概要説明
第 2 回 平成 27 年 6 月 4 日	・現状把握と情報共有『閉じこもりと社会参加』 ①高齢者の閉じこもりと健康 ②男性高齢者の孤立防止と社会参加 ・アンケート（案）の説明
第 3 回 平成 27 年 11 月 10 日	・日常生活の状況に関するアンケート調査の結果（案）の報告 ・現状把握と情報共有『閉じこもりを予防するために必要なこと』
第 4 回 平成 28 年 2 月 4 日	・アンケート分析結果にみる社会的孤立の傾向 ・意見交換『社会的孤立を防ぎ、交流を推進するためのアプローチ』
第 5 回 平成 28 年 4 月 28 日	・「通いの場」のモデル事業について ・中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書概要（案）について
第 6 回 平成 28 年 6 月 23 日	・中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会報告書（案）について

第2章 高齢者の閉じこもりと孤立について

中央区の高齢者は、今後10年間で4,000人以上増え、中でも後期高齢者の割合は年々増加すると予測されている。このような中で、高齢者の閉じこもりや社会的孤立は見逃ごせない問題であり、特に男性高齢者は孤立しがちであると言われている。

1 高齢者の閉じこもりと健康

(1) 「閉じこもり」の定義

「閉じこもり」という言葉を耳にするが、**看護系の辞典によると**「高齢者が1日のほとんどを家の中あるいはその周辺で過ごし、日常生活範囲が非常に限定された状態像」と定義されている。一般的には外出の頻度、移動能力、活動の範囲、人との交流の頻度などにより規定されているが、統一の定義はされていない。介護保険や、さまざまな二次予防の対象のスクリーニングなどでは、「外出頻度が週1回未満の者」を閉じこもりとして判定していることが多い。

(2) 閉じこもりの出現率

閉じこもりの出現率は、65歳以上の場合は、10～20%ほどあるといわれている。地域によって異なり、また年齢が増すごとに高くなるともいわれているが、農村部の方が閉じこもりが多いといわれている調査がある一方で、逆に都市部が多いという調査もあるなど、今の段階では一概に都市部、農村部ということは言い切れないということがわかっている。

閉じこもりの出現率

65歳以上は約10～20% （渡辺他：2005、平井他：2008）

(3) 主な閉じこもりの要因

閉じこもりが発生する要因として、3つの要素があると言われている。

①身体的要因

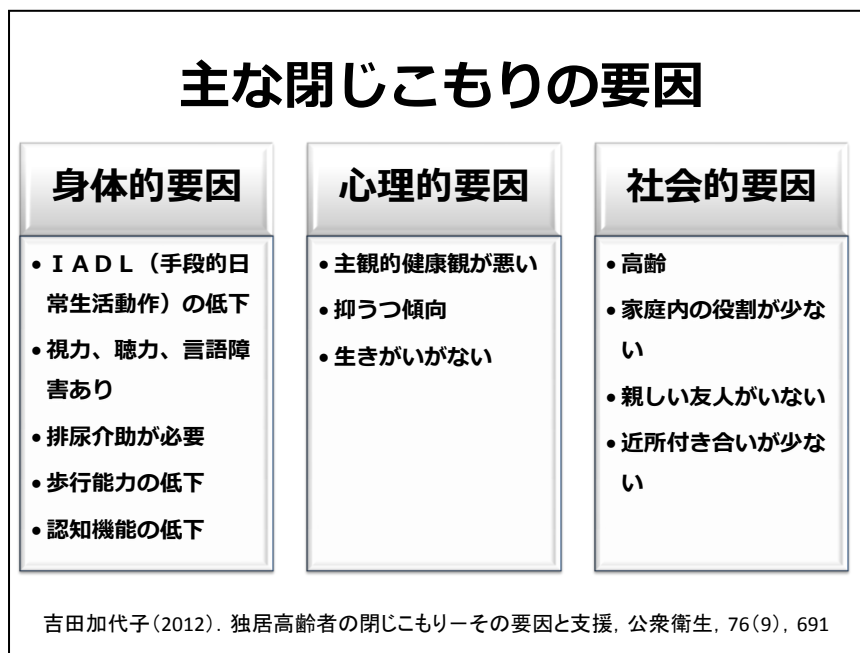
日常生活動作の低下、視力や聴力の衰え、言語障害、自力での排泄が困難、歩行能力や認知機能の低下といったことなどが挙げられる。

②心理的な要因

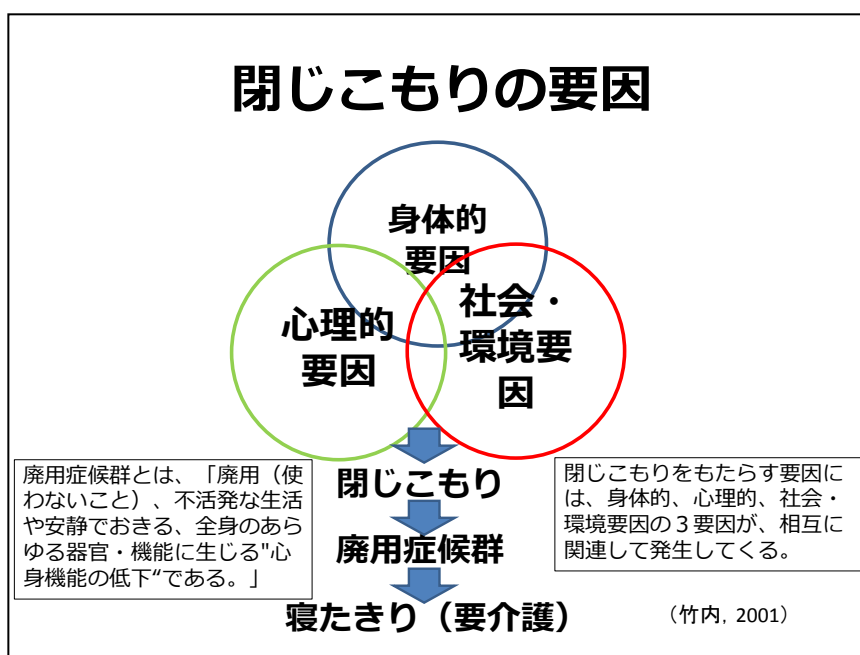
主観的健康観が悪いことや、抑うつ傾向、生きがいがいないことなどが挙げられる。

③社会的な要因

高齢になり家庭内での役割が少なくなる、親しい友人などがいなくなったり、近所付き合いが少なくなるということで、外にでかけるきっかけがなくなっていくことなどが挙げられる。



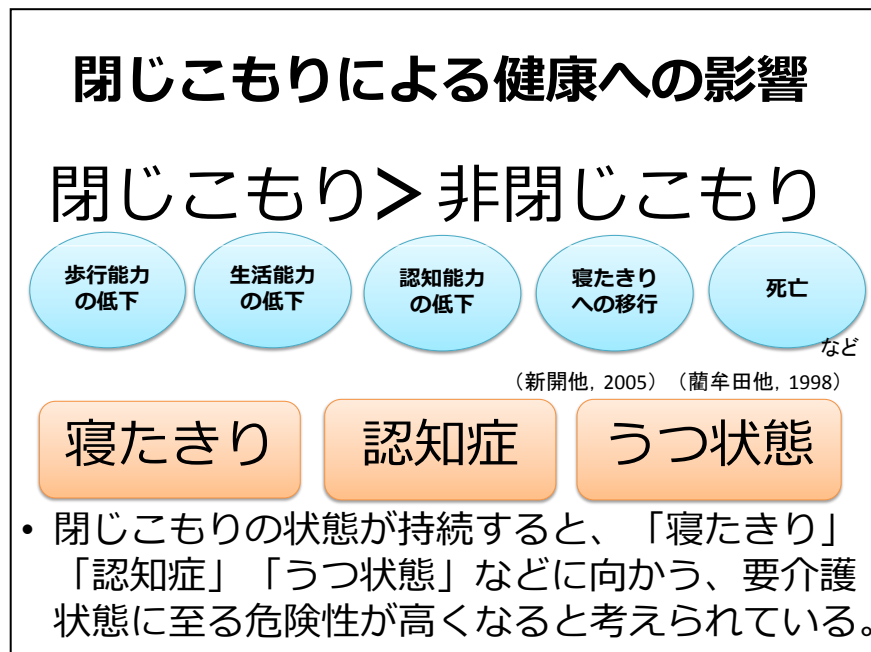
閉じこもりは、身体的、心理的、社会的な3つの要因が相互に関連して発生する。閉じこもりになると、安静にしている時間が増えて身体を動かさなくなる。それに伴い全身のあらゆる器官や機能が徐々に低下して廃用症候群という状態になると、寝たきりや介護が必要な状態になりやすい。



(4) 閉じこもりによる健康への影響

閉じこもり群と非閉じこもり群を比較した調査の中では、閉じこもり群のほうが、歩行能力や生活能力、認知能力が1年から2年の間で有意に下がっているという報告がある。また、寝たきりになる割合や死亡する割合も、閉じこもりになってから1、2年の間で有意に高くなっている。

つまり、閉じこもりによって寝たきり、認知機能の低下、抑うつ状態が進み、要介護状態になる危険性があるということが考えられている。



(5) 高齢者の心の健康を高めるために

高齢になると、閉じこもりではなくても、孤独感や抑うつ的なものを抱えたり、認知機能が低下したりするなどの症状が見られるようになる。こういった高齢期に特有の要因に伴い意欲が低下すると、外出する機会も減って閉じこもりになりやすくなるため、身体的な健康や心の健康を保ち、生きる目標を持って社会参加することなどが重要になってくる。

閉じこもりを予防するためには、リスクを持つ高齢者本人の意識啓発や生活改善だけではなく、地域社会に、外出行動を促進するような魅力的な活動を備えていくことが必要であると考えられる。

参考文献を記載

2 男性高齢者の孤立防止と社会参加

(1) 孤立しがちな男性

男性は一般的に孤立しやすい傾向があることが各国で指摘されている。日本の調査では、特に性別役割規範が強い男性ほど孤立しやすいということが指摘されている。性別役割規範とは、男性（または女性）はこういうものであり、こうすべきだというような性別の役割意識であり、このような意識が強い方ほど孤立しやすい。特に男性の場合は、弱みを見せてはならない、感情を表に出してはならないといった意識を強く持っている方ほど孤立しやすい傾向がある。自分の弱みを見せてはならないので、他者に頼ることがどうしてもできなくなってしまう。

現在孤立していない男性でも注意が必要である。頼れる相手が配偶者のみという人の割合が多いため、現在は孤立していなくても、将来、配偶者と離別・死別したときや配偶者の健康状態が悪化したときなどに、急に頼れる相手がいなくなって孤立してしまう。

孤立しがちな男性

- ・ さまざまな調査において、**男性** は、女性に比べて**孤立**しやすいことが指摘されている

特に **性別役割規範** が強い男性ほど、孤立しやすい
(弱みをみせてはならない、感情を出してはならない)

- ・ **男性** は、頼れる相手が **配偶者** のみの人が多い

いま孤立をしていなくても、将来、配偶者との離別や死別によって、孤立のリスクが高まる可能性も

(2) 男性の社会参加を促すために

孤立しやすい、孤立するリスクが将来的にあると思われる男性とどのように関わればよいのだろうか。

男性は、基本的にはあまり自分の弱みを見せたがらない、あるいは見せることを潔しとしない。そういう男性の一般的な特徴を踏まえて、どのように社会参加を促すべきかを考える必要がある。

ただ単に集まるための場に出てくるよう呼びかけるだけでは、男性はなかなか参加しようという動機を持ちにくい。一般論としてしばしば指摘されるのが、女性はストレスを抱えた時に、ある程度親しい人と会話したりすることで外部へストレスを発散できる人が多いが、男性は自分の中に秘めてしまう傾向があるということである。だからこそ、ストレスを抱えている人ほどそういった場には出たくないという心理的な傾向になりやすい。

「みんなで集まってお話をしましょう」と言うだけでなく、男性がどうしたら参加したいと思えるかを考える必要がある。

男性の社会参加を促すために

- ・（ごく親しい人を除いて）**弱みをみせたがらない**という男性の特徴を踏まえて検討する必要がある



- ・ただ集まるための場に出てくるよう呼びかけるだけでは、参加しようという**動機**が生まれにくい
- ・男性が **参加したいと思えるような場** をつくり出すことが不可欠となる

（３）求められる場

男性が孤立しやすいということはしばしば調査などで指摘されているが、どうしたらそれを解消できるかは、実はあまり学術的な研究は進んでいないというのが現状である。

支援が必要な弱い存在であるという位置付けで声掛けをする、安否確認をするということではなく、自分が必要とされている、自分の強みが生かせるといった感覚を持てるような場が必要とされる。本人の弱みにだけ注目するのではなく、逆にそれぞれの強みを丁寧に探そうとする視点が非常に重要である。

また、孤立を防ぐために有効な支援としては、特定のグループを対象にすることである。同じような苦しみや困りごとを抱えている人の中で、悲しみを表現したり愚痴をこぼしたりすることで弱みを共有し、お互いに支えあう関係性が築かれていく。

求められる“場”（１）

・被災地での例

東日本大震災の仮設住宅でベンチを組み立てる必要が生じたとき、それまで閉じこもりがちだった男性たちが、腕まくりして、トンカチを握って外に出てきた。



・人の役に立つような **役割** があれば、みずから進んで社会参加をする

弱み にだけ注目するのではなく、それぞれの **強み** を丁寧に探そうとする視点が重要

求められる“場”（２）

・農作業の例

思うように仕事が見つからず働いていない人たちが、定期的に共同作業をするうちに“仲間意識”をもち、少しずつ身の上話をするようになった。



・ **受け入れられている** という感覚をもつことで、自分の **弱み** をみせやすくなる

孤立を防ぐためには、特定のグループを対象にすること、ネガティブな感情を共有することが重要

参考文献

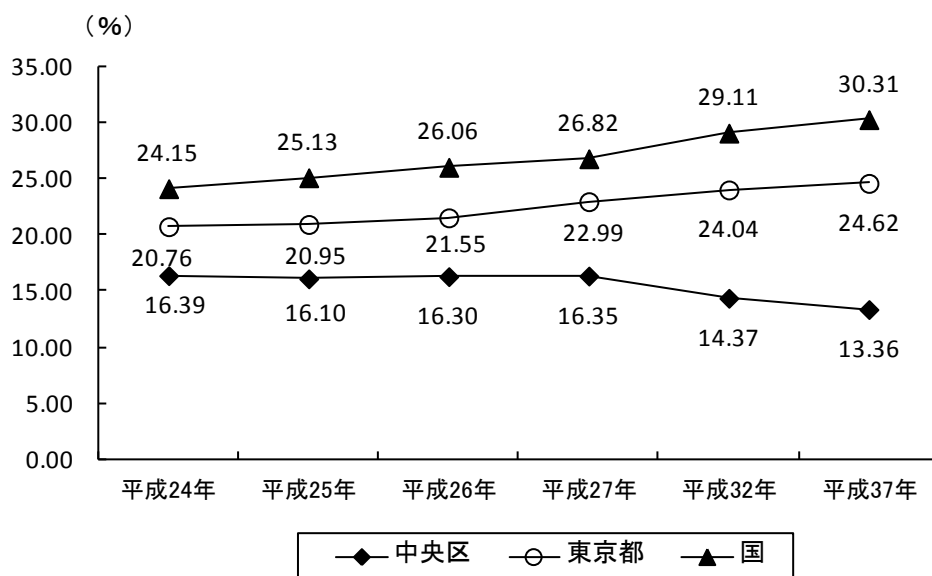
- ・石田 光規（2011）『孤立の社会学－無縁社会の処方箋』 勁草書
- ・川村 岳人（2014）「社会的孤立の関連要因－中年年齢層と高齢者層の比較分析－」
『日本の地域福祉』27：69-81
- ・湯浅 誠（2012）『ヒーローを待っていても世界は変わらない』朝日新聞出版

第3章 中央区の高齢者の状況

1 高齢化率の推移

中央区は23区で最も高齢化率が低い。高齢者人口は年々増加し、平成37年には4,000人以上増加する見込であるが、それ以上に30代、40代の人口増加が見込まれるため、高齢化率としては次第に低下すると予測されている。(図表3-1)

図表3-1 高齢化率の推移(中央区、東京都、国)



資料

中央区：平成24～27年 住民基本台帳（各年1月1日現在）、平成25年以降は外国人を含む、

平成32年以降、区作成推計（平成28年1月1日現在の人口を基準人口として作成）

東京都：平成24～26年 住民基本台帳（各年1月1日現在）、平成27年以降、東京都男女年齢（5歳階級）別人口の予測

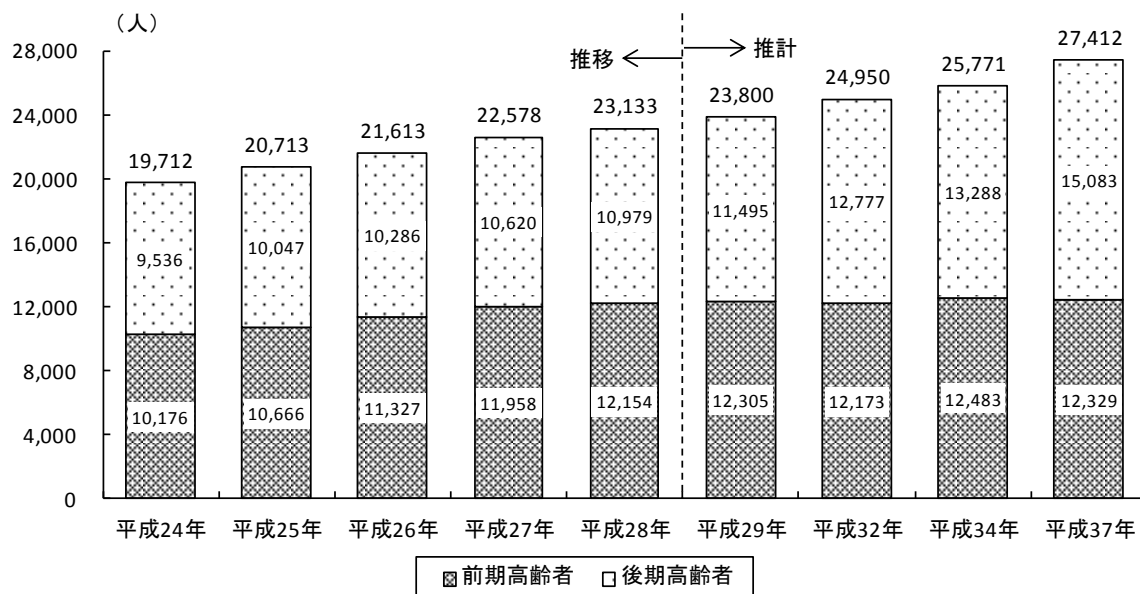
国：平成24年日本の統計人口推計、平成25年以降、平成24年1月推計による各年10月1日現在の中位推計値

2 前期・後期高齢者人口の推移

平成 27 年から平成 37 年にかけて、65 歳から 74 歳の前期高齢者は、12,000 人程度とほぼ横ばいで推移するのに対し、75 歳以上の後期高齢者は約 4,100 人増加することが予測されている。これはすなわち、今後約 10 年間で増加する高齢者人口は後期高齢者ということになる。

平成 37 年（2025 年）には団塊の世代がすべて後期高齢者になるため、若いうちから介護予防、健康づくりに取り組む必要がある。（図表 3－2）

図表 3－2 前期・後期高齢者人口の推移（中央区）

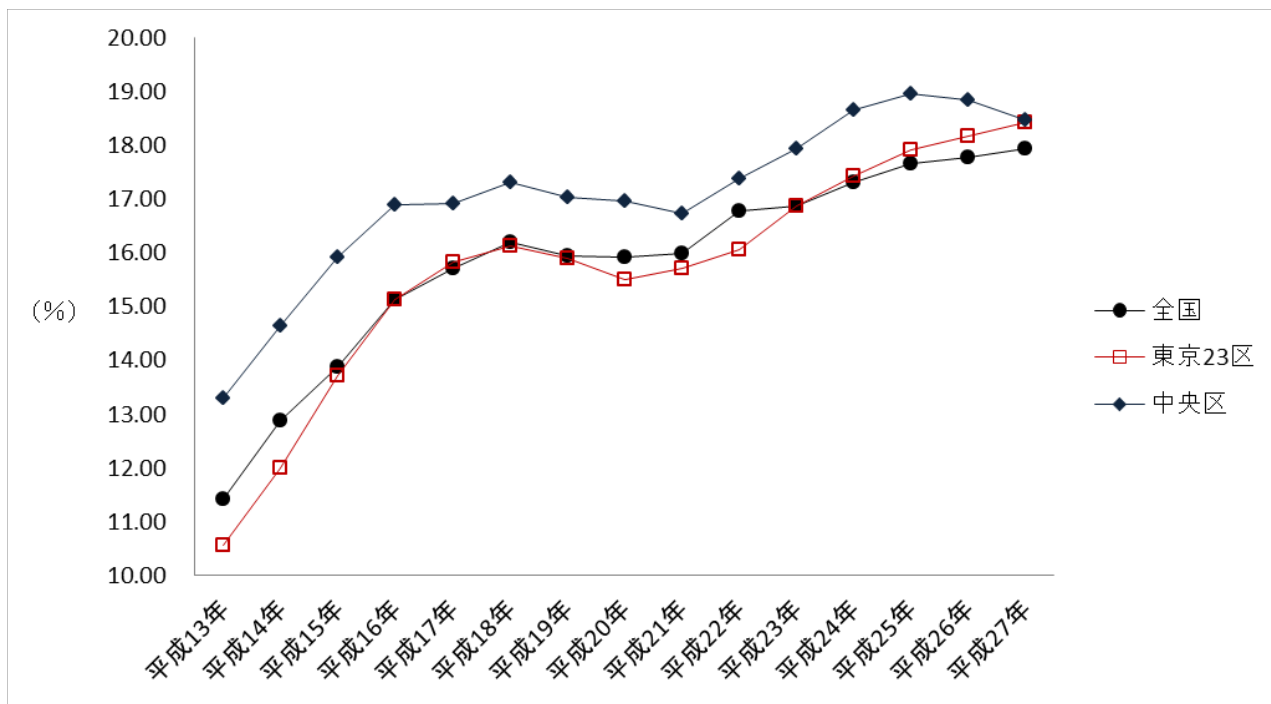


資料：住民基本台帳（各年 1 月 1 日現在） 平成 25 年以降は外国人を含む
推計は平成 28 年 1 月 1 日現在の人口を基準人口として区が作成

3 要支援・要介護認定者の推移

高齢化に伴い、国や都と同様に介護保険の認定率は上昇傾向にある。中央区は、以前から国や都に比べて認定率が高い傾向がある。健康寿命（健康で日常生活に支障がなく暮らせる期間）をいかに延ばしていくか、要支援・要介護認定者数をいかに減らしていくかということが今後の課題となっている。（図表 3－3）

図表 3－3 第 1 号被保険者の認定率の推移（中央区）



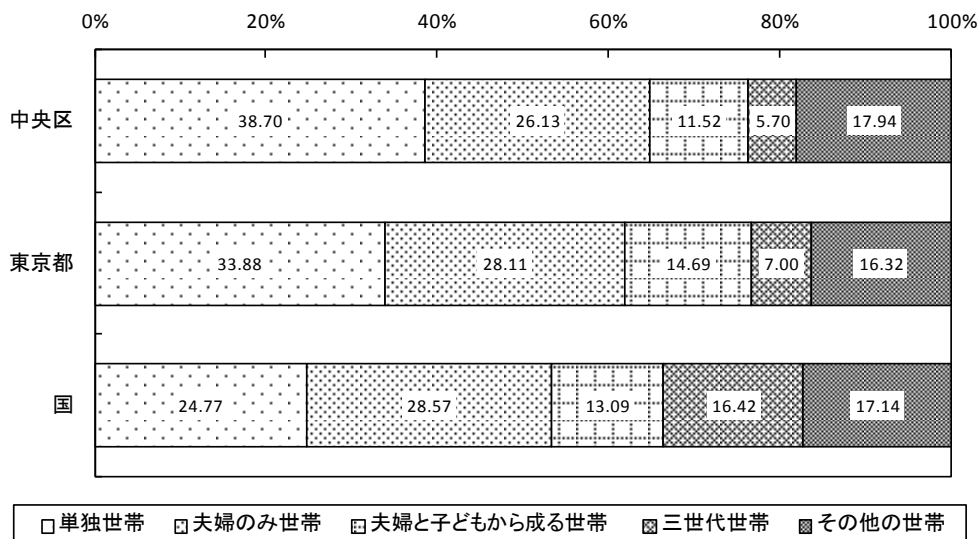
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全国	11.40	12.87	13.88	15.12	15.71	16.19	15.93	15.91	15.98	16.76	16.87	17.29	17.64	17.77	17.92
東京23区	10.55	11.98	13.70	15.12	15.81	16.12	15.89	15.50	15.70	16.05	16.87	17.42	17.91	18.16	18.42
中央区	13.30	14.64	15.91	16.89	16.90	17.31	17.03	16.95	16.73	17.37	17.93	18.64	18.95	18.84	18.45

資料：「介護保険事業状況報告」（各年 3 月末現在）

4 高齢者単身世帯の増加

平成 22 年の国勢調査によれば、65 歳以上世帯員のいる一般世帯のうち、中央区は高齢単身世帯の割合が 38.7%で全国や都よりも高い。高齢単身世帯と高齢夫婦のみ世帯をあわせると 60%を超える。特に高齢単身世帯が多いのが中央区の特徴といえる。(図表 3-4)

図表 3-4 高齢者のいる世帯の世帯構成（中央区、東京都、国）



資料：平成 22 年 国勢調査

5 高齢者の世帯及び住まいの状況

①国・都・区の比較

中央区は共同住宅に住む世帯の割合が 87.69%で、9 割に近い状況となっている。また、65 歳以上の世帯員のいる世帯割合は、全国が 37.22%、東京都が 28.79%に対し、中央区は 20.94%となっており、全国や東京都よりも低い。一方で、65 歳以上の単身世帯の割合は、中央区が 38.7%で国や都よりも高くなっている。(図表 3-5)

②地域ごとの比較（中央区）

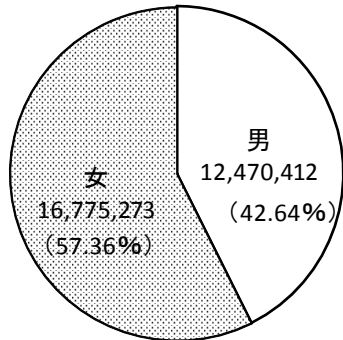
中央区内の 3 地域（京橋・日本橋・月島）の地域別特徴としては、共同住宅に住む世帯の割合が一番高いのが月島地域となっている。

世帯総数に占める 65 歳以上の世帯の割合は、月島地域が一番高く、日本橋地域が一番低い。高齢単身世帯の割合は、京橋地域が一番高く、月島地域が一番低い。(図表 3-6)

図表3－5 高齢者の世帯の状況 国・都・区の比較

【全国】

(人口 128,057,352 人)
高齢者人口 29,245,685 人

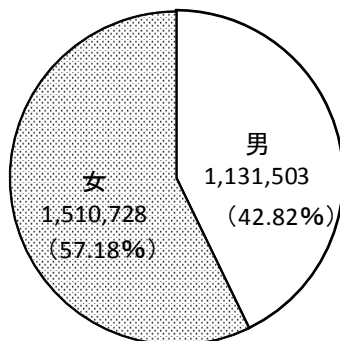


全国における高齢者の世帯の状況		
世帯総数(一般世帯)	100.00%	(51,950,504 世帯)
うち65歳以上の世帯員のいる世帯総数	37.22%	(19,337,687 世帯)
65歳以上の世帯員のいる世帯総数	100.00%	(19,337,687 世帯)
うち高齢夫婦世帯	22.44%	(4,339,235 世帯)
うち高齢単身世帯	24.77%	(4,790,768 世帯)
人口総数	100.00%	(128,057,352 人)
うち高齢者人口	22.84%	(29,245,685 人)

世帯総数のうち 共同住宅に住む世帯の割合	41.57%
-------------------------	--------

【東京都】

(人口 13,159,388 人)
高齢者人口 2,642,231 人

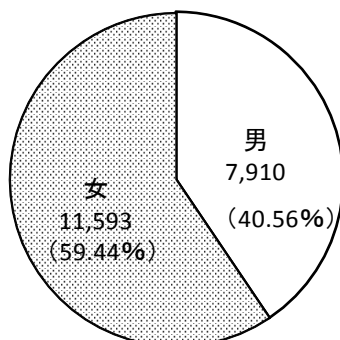


東京都における高齢者の世帯の状況		
世帯総数(一般世帯)	100.00%	(6,382,049 世帯)
うち65歳以上の世帯員のいる世帯総数	28.79%	(1,837,074 世帯)
65歳以上の世帯員のいる世帯総数	100.00%	(1,837,074 世帯)
うち高齢夫婦世帯	26.44%	(485,749 世帯)
うち高齢単身世帯	33.88%	(622,326 世帯)
人口総数	100.00%	(13,159,388 人)
うち高齢者人口	20.08%	(2,642,231 人)

世帯総数のうち 共同住宅に住む世帯の割合	67.73%
-------------------------	--------

【中央区】

(人口 122,762 人)
高齢者人口 19,503 人



中央区における高齢者の世帯の状況		
世帯総数(一般世帯)	100.00%	(67,883 世帯)
うち65歳以上の世帯員のいる世帯総数	20.94%	(14,216 世帯)
65歳以上の世帯員のいる世帯総数	100.00%	(14,216 世帯)
うち高齢夫婦世帯	23.94%	(3,404 世帯)
うち高齢単身世帯	38.70%	(5,501 世帯)
人口総数	100.00%	(122,762 人)
うち高齢者人口	15.89%	(19,503 人)

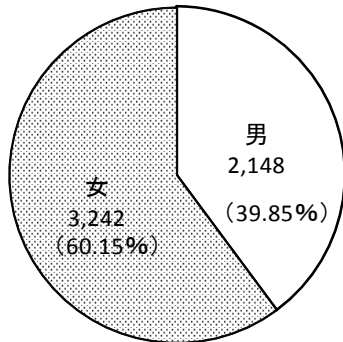
世帯総数のうち 共同住宅に住む世帯の割合	87.69%
-------------------------	--------

資料：平成22年 国勢調査

図表3-6 高齢者の世帯の状況 地域ごとの比較

【京橋地域】

(人口 31,437 人)
高齢者人口 5,390 人



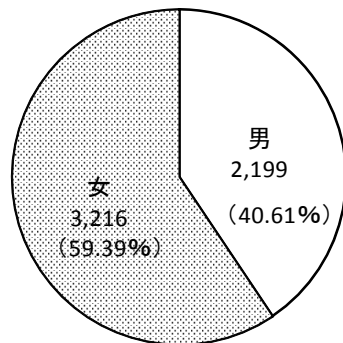
京橋地域における高齢者の世帯の状況		
世帯総数(一般世帯)	100.00%	(18,887 世帯)
うち65歳以上の世帯員のいる世帯総数	20.53%	(3,877 世帯)
65歳以上の世帯員のいる世帯総数	100.00%	(3,877 世帯)
うち高齢夫婦世帯	23.19%	(899 世帯)
うち高齢単身世帯	41.45%	(1,607 世帯)
人口総数	100.00%	(31,437 人)
うち高齢者人口	17.15%	(5,390 人)

世帯総数のうち共同住宅に住む世帯の割合

85.93%

【日本橋地域】

(人口 37,142 人)
高齢者人口 5,415 人



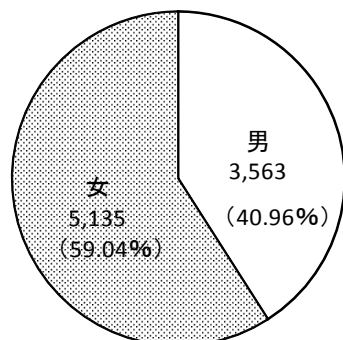
日本橋地域における高齢者の世帯の状況		
世帯総数(一般世帯)	100.00%	(22,056 世帯)
うち65歳以上の世帯員のいる世帯総数	17.85%	(3,938 世帯)
65歳以上の世帯員のいる世帯総数	100.00%	(3,938 世帯)
うち高齢夫婦世帯	22.85%	(900 世帯)
うち高齢単身世帯	38.40%	(1,512 世帯)
人口総数	100.00%	(37,142 人)
うち高齢者人口	14.58%	(5,415 人)

世帯総数のうち共同住宅に住む世帯の割合

85.35%

【月島地域】

(人口 54,183 人)
高齢者人口 8,698 人



月島地域における高齢者の世帯の状況		
世帯総数(一般世帯)	100.00%	(26,940 世帯)
うち65歳以上の世帯員のいる世帯総数	23.76%	(6,401 世帯)
65歳以上の世帯員のいる世帯総数	100.00%	(6,401 世帯)
うち高齢夫婦世帯	25.07%	(1,605 世帯)
うち高齢単身世帯	37.21%	(2,382 世帯)
人口総数	100.00%	(54,183 人)
うち高齢者人口	16.05%	(8,698 人)

世帯総数のうち共同住宅に住む世帯の割合

90.82%

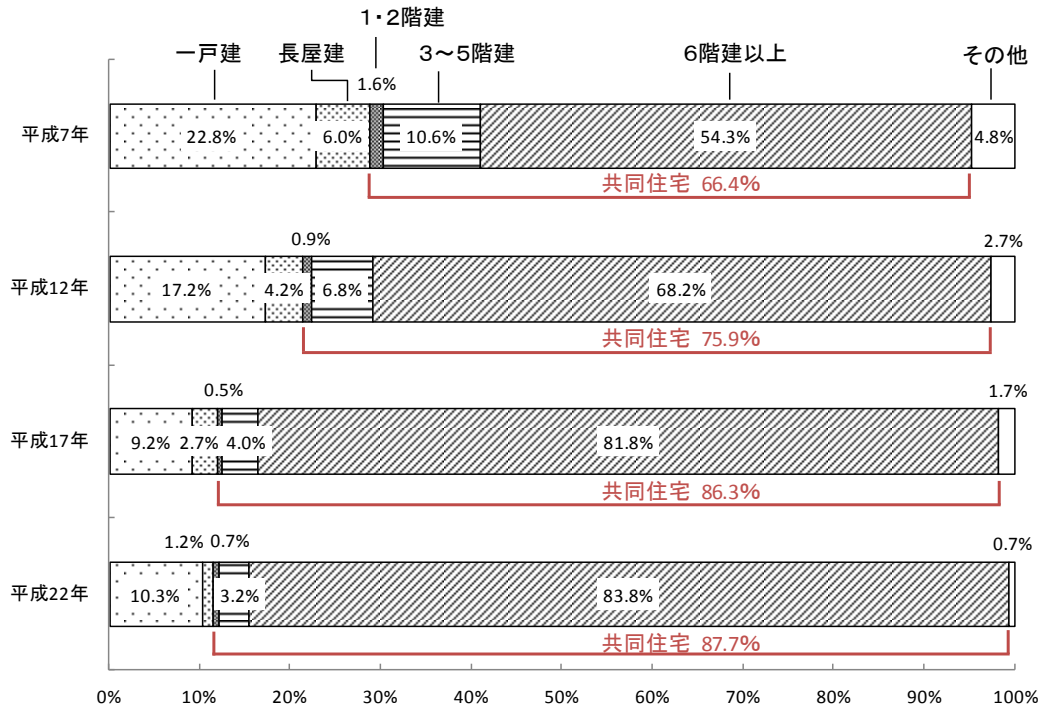
※八重洲1丁目2丁目はともに日本橋地域に含めて集計

資料：平成22年 国勢調査

6 住宅の建て方別世帯割合の推移

平成 17 年以降、中央区では共同住宅に住む世帯数が大幅に増加し、平成 22 年は 87.7% となっている。特に「6 階建以上」が 83.8% と多くなっている。(図表 3-7、3-8)

図表 3-7 住宅の建て方別世帯割合の推移（中央区：平成 7 年～平成 22 年）



資料：国勢調査

図表 3-8 住宅の建て方別世帯件数の推移（中央区：平成 7 年～平成 22 年）

	総数 ※1	一戸建	長屋建	共同住宅	(世帯)			その他 ※2
					うち 1・2階建	うち 3～5階建	うち 6階建以上	
平成 7 年	26,391	6,007	1,573	17,533	419	2,793	14,321	1,278
平成 12 年	34,067	5,870	1,418	25,851	313	2,313	23,225	928
平成 17 年	54,756	5,043	1,498	47,259	293	2,173	44,793	956
平成 22 年	66,542	6,839	783	58,349	454	2,127	55,768	470

※1 「不詳」を含む。

※2 一戸建、長屋建、共同住宅以外で、例えば、工場や事務所などの一部に住宅がある場合

資料：国勢調査

第4章 「日常生活の状況に関するアンケート調査」からみた高齢者の状況

1 調査の概要

(1) 目的

中央区内に居住する高齢者の生活状況等の実態について把握し、高齢者が社会的に孤立せず、生きがいを持って生活できるようにするための支援策等に関する検討の基礎資料とする。

(2) 調査対象

中央区内に居住する65歳以上の方のいる世帯16,706世帯

(3) 調査方法

郵送配布－郵送回収

(4) 調査時期

平成27年7月10日～8月10日

(5) 回収結果

発送数：16,706

回収数：6,325

回収率：37.9%

(6) 調査項目

調査項目	問番号	設問
1 高齢者の状況 (基本属性)	問1	性別
	問2	年齢
	問3 ①	居住地域
	問3 ②	居住年数
	問3 ③	住まい
	問3 ④	住まいの中の困りごと
	問4 ①	世帯の構成人数
	問4 ②	同居者の続柄
	問4 ③	婚姻状況
	問4 ④	現在の構成人数になってからの年数
	問5 ①	暮らし向き(経済状況)
	問5 ②	収入源
	問5 ③	収入源の割合
2 人づきあいと 健康	問6	健康状態
	問7	介護保険の認定状況
	問8 ①	外出の程度
	問8 ②	外出先
	問8 ③	外出する際の移動手段
	問9	近所づきあいの程度
3 人づきあいと 社会参加	問10	人と話をする頻度
	問11	家庭生活や地域生活に対する意識
	問12	家庭や地域での役割
	問13 ①	地域活動への参加状況
	問13 ②	参加している地域活動の内容
	問13 ③	地域活動に関する情報入手の方法
	問13 ④	参加してみたい地域活動(自由記述)
4 孤立防止	問13 ⑤	地域活動に参加しない理由
	問14	頼れる人の有無
	問15	人づきあいの頻度の変化
	問16	現在不安に感じていること(自由記述)

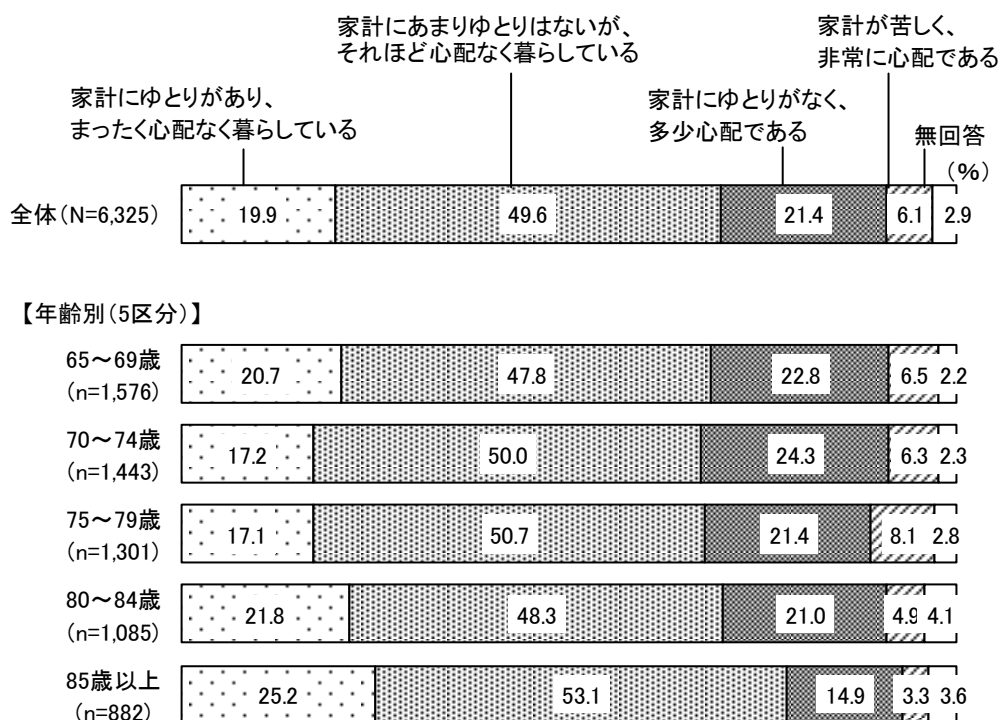
2 調査結果の概要

(1) 高齢者の状況

○暮らし向き

「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」49.6%。65～69歳、70～74歳、75～79歳は、＜ゆとりがない＞（「家計にゆとりがなく、多少心配である」と「家計が苦しく、非常に心配である」の合計）が3割程度となっている。

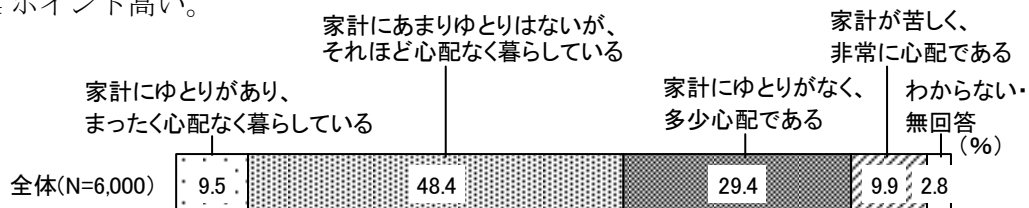
図表4-1 暮らし向き（経済状況）（全体、年齢別）



資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

◆全国調査との比較：経済的な暮らし向き

全国調査と比べ、中央区調査では「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が10.4ポイント高い。



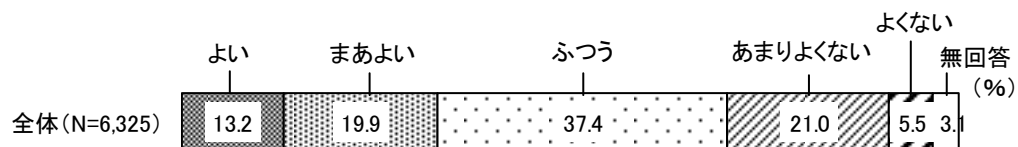
資料：平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査（内閣府）※
本調査は60歳以上の男女を対象としている。

(2) 人づきあいと健康

○健康状態

「ふつう」37.4%。＜よい（よい、まあよい）＞は33.1%、＜よくない（あまりよくない、よくない）＞は26.5%。

図表4－2 健康状態（中央区）



資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

◆全国調査との比較：健康状態

全国調査と比べ、中央区調査では、「よい」が8.1ポイント低く、「あまりよくない」が5.2ポイント高い。

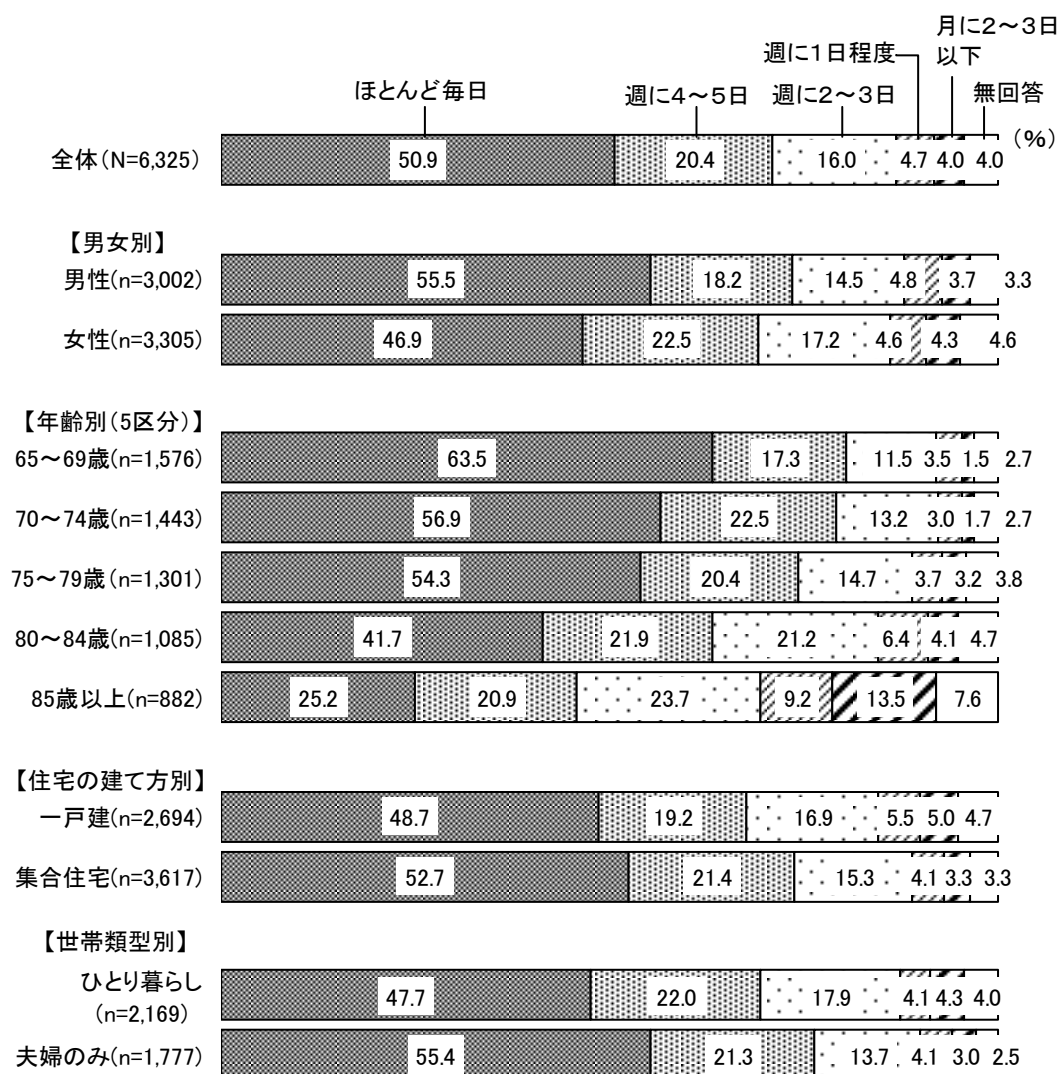


資料：平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査（内閣府）
※本調査は60歳以上の男女を対象としている。

○外出の程度

「ほとんど毎日」が 50.9%。「週に 1 日程度」と「月に 2～3 日以下」を合わせた 8.7%が閉じこもりの状態と考えられる。年齢が上がるほど、外出の程度が下がる傾向がある。全体と比べ、ひとり暮らしの外出の程度は若干低く、夫婦のみ世帯の外出の程度は若干高い。

図表 4-3 外出の程度（中央区：全体、男女別、年齢別、住宅の建て方別、世帯類型別）



◆全国調査との比較：外出程度

全国調査と比べ、中央区調査では「ほとんど毎日」が 10.9 ポイント高い。

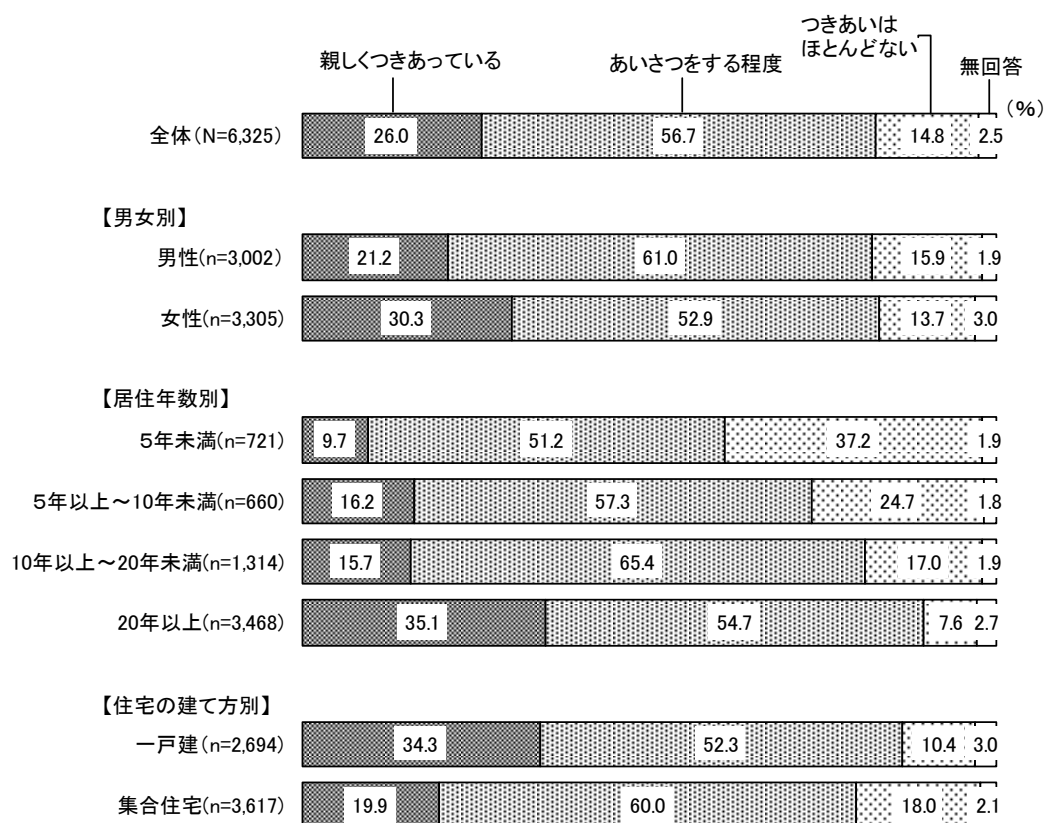


資料：平成 26 年度 高齢者の日常生活に関する意識調査（内閣府）
※本調査は 60 歳以上の男女を対象としている。

○近所づきあいの程度

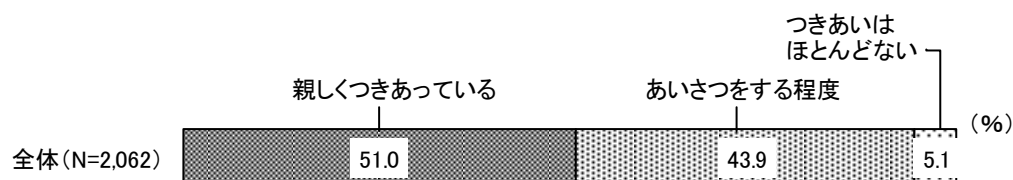
「あいさつをする程度」56.7%、「親しくつきあっている」26.0%など。女性は男性より「親しくつきあっている」の割合が高い。居住年数が長くなるほど「つきあいはほとんどない」の割合は減少する傾向にある。

図表4－4 近所づきあいの程度（中央区：全体、男女別、居住年数別、住宅の建て方別）



◆全国調査との比較：近所づきあいの程度

全国調査と比べ、中央区調査では「親しくつきあっている」が25.0ポイント低く、「あいさつをする程度」が12.8ポイント、「つきあいはほとんどない」が9.7ポイント高い。

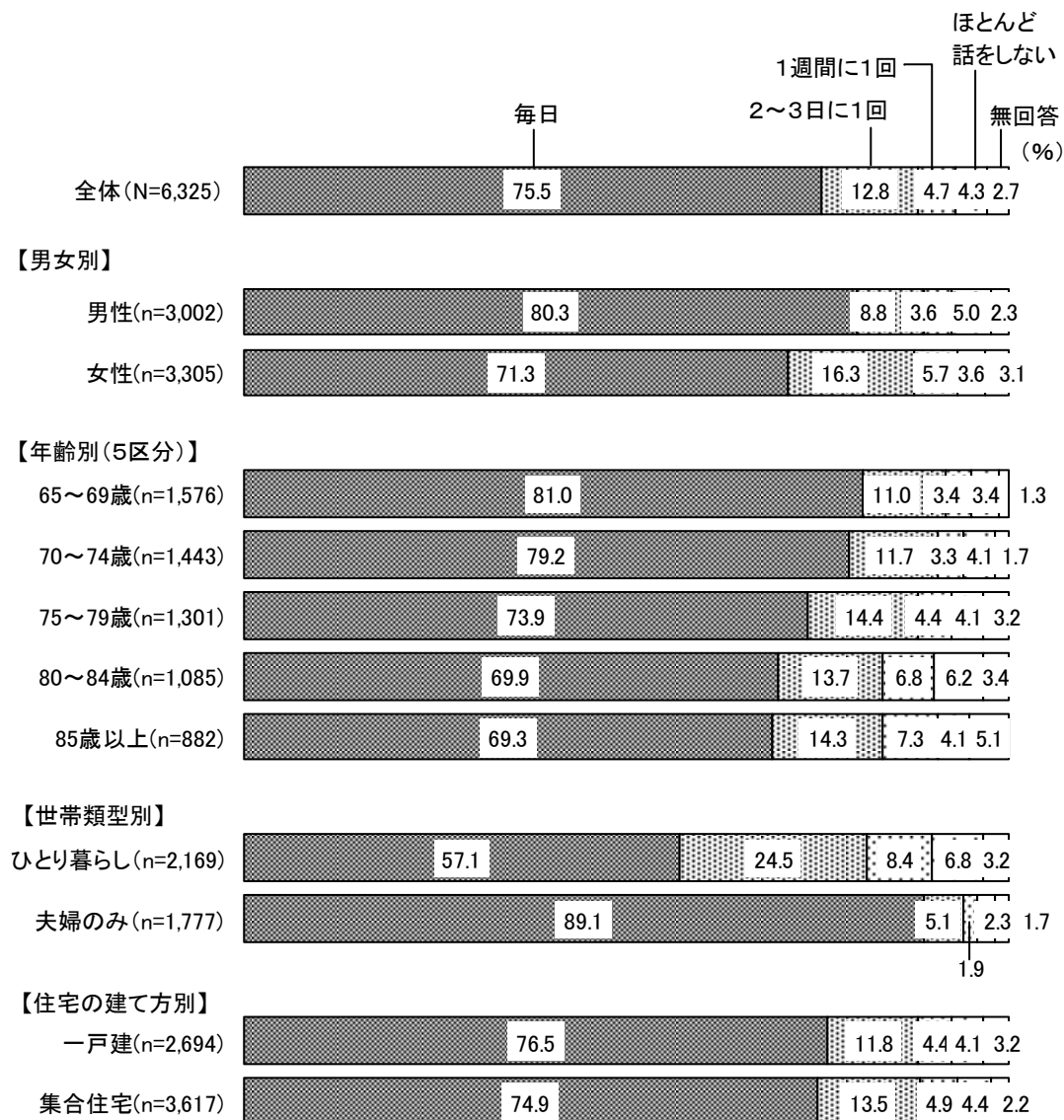


資料：平成22年 高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査（内閣府）
※本調査は60歳以上の男女を対象としている。

○人と話をする頻度

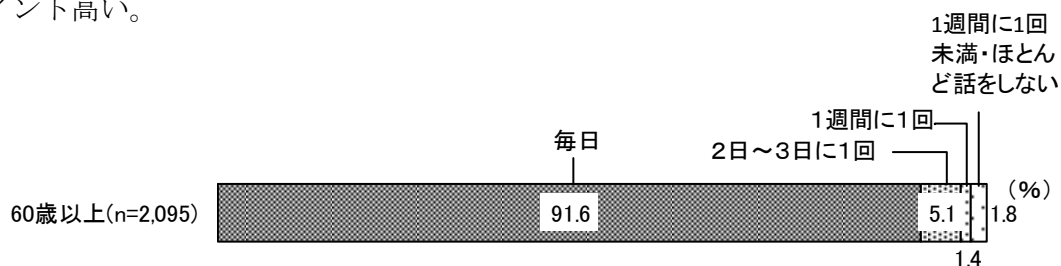
「毎日」が75.5%。年齢が上がるほど、人と話す頻度は低くなる傾向がある。ひとり暮らしでは、「毎日」が全体より18.4ポイント低い。(図表4-5)

図表4-5 人と話をする頻度（中央区：全体、男女別、年齢別、世帯類型別、住宅の建て方別）



◆全国調査との比較：人と話をする頻度

全国調査と比べ、中央区調査では「毎日」が16.1ポイント低く、「2~3日に1回」は7.7ポイント高い。



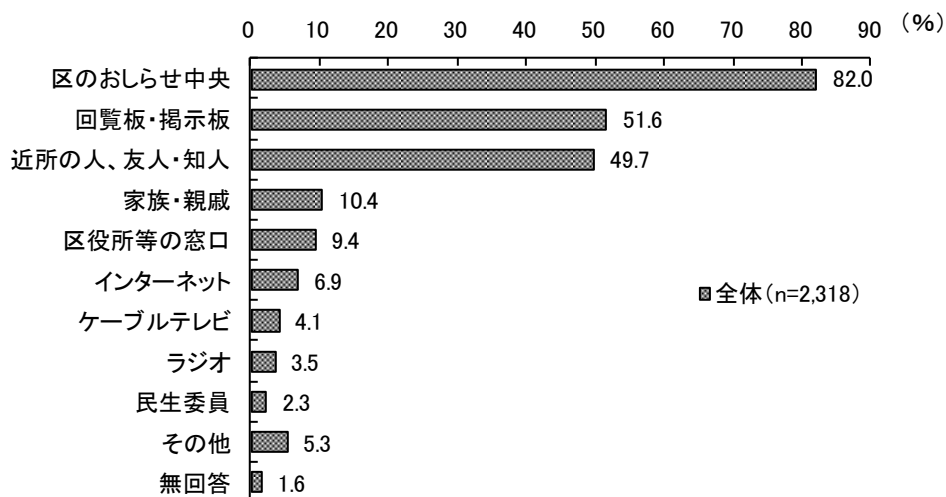
資料：平成23年 高齢者の経済生活に関する意識調査（内閣府）
※本調査は55歳以上の男女を対象としている。会話の頻度には、電話やEメールも含む。

(3) 人づきあいと社会参加

○地域活動に関する情報入手の方法

情報の入手先は「区のお知らせ中央」82.0%、「回覧板・掲示板」51.6%、「近所の人、友人・知人」49.7%など。(図表4-6)

図表4-6 地域活動に関する情報入手の方法（中央区：複数回答）

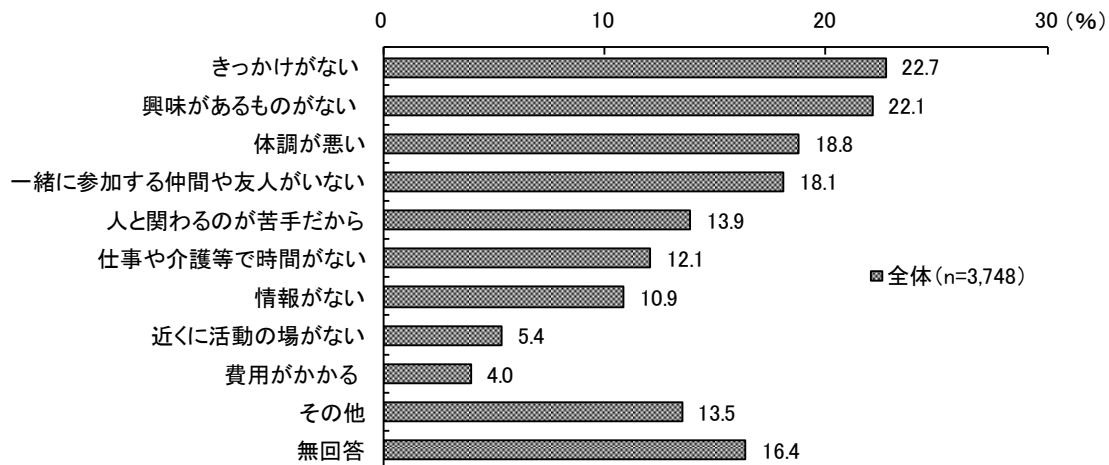


資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

○地域活動に参加しない理由

「きっかけがない」22.7%、「興味があるものがない」22.1%など。その他の理由では、仕事をしている、趣味やスポーツ等で忙しい、地域外で活動している、高齢である、介護を受けている、歩けない、目が悪い、体力的に無理がある、配偶者が参加している、めんどろ、転居して日が浅い、など。

図表4-7 地域活動に参加しない理由（中央区：複数回答）



【「その他」の主な内容（順不同）】

仕事をしている、趣味やスポーツ等で忙しい、地域外で活動している、高齢である、介護を受けている、歩けない、目が悪い、体力的に無理がある、配偶者が参加している、めんどろ、転居して日が浅い、など

資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

地域活動に参加しない理由を年齢別にみると、前期高齢者では「興味があるものがない」、「仕事や介護で時間がない」、「きっかけがない」、後期高齢者では「体調が悪い」が全体より5ポイント以上高い。

居住年数5年未満と5年以上～10年未満では「きっかけがない」が全体より5ポイント以上高い。

暮らしむきに余裕がない人では「費用がかかる」、「体調が悪い」が全体より5ポイント以上高い。

図表4-8 地域活動に参加しない理由（中央区：複数回答）
（全体、男女別、年齢別、地域別、居住年数別、住宅の建て方別、世帯類型別、暮らし向き別）

		(%)										
		興味があるものがない	費用がかかる	近くに活動の場がない	間一や一緒に参加する仲間がいない	仕事や介護等で時間がない	情報がない	きっかけがない	体調が悪い	手だか関わるのが苦	その他	無回答
全 体(n=3,748)		22.1	4.0	5.4	18.1	12.1	10.9	22.7	18.8	13.9	13.5	16.4
男女別	男性(n=1,834)	26.9	3.8	5.5	20.1	12.8	12.3	23.7	15.8	13.4	11.5	14.9
	女性(n=1,904)	17.5	4.2	5.4	16.2	11.4	9.6	21.8	21.6	14.3	15.6	17.8
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=1,784)	27.2	4.2	5.8	20.0	18.0	13.5	28.5	10.3	15.0	13.1	12.6
	後期高齢者(n=1,942)	17.4	3.8	5.1	16.3	6.7	8.6	17.3	26.7	12.9	14.1	19.8
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=972)	29.1	4.0	5.9	20.6	19.0	14.8	30.0	8.1	13.8	14.2	11.1
	70～74歳(n=812)	24.9	4.4	5.7	19.3	16.7	11.8	26.7	12.9	16.4	11.7	14.4
	75～79歳(n=745)	22.0	5.5	6.0	19.5	8.1	11.4	23.2	18.9	12.5	11.9	19.5
	80～84歳(n=608)	18.4	4.3	5.4	15.6	7.7	8.7	16.8	26.8	13.8	12.2	19.2
	85歳以上(n=589)	10.5	1.2	3.6	12.9	3.9	4.9	10.4	36.3	12.4	18.8	20.9
地域別	京橋地域(n=863)	21.9	3.6	5.8	18.3	11.6	10.3	22.0	19.6	14.0	12.5	18.1
	日本橋地域(n=989)	21.3	3.0	5.9	18.0	13.2	10.6	22.2	17.3	12.8	14.4	18.2
	月島地域(n=1,826)	22.9	4.8	5.0	18.2	11.9	11.6	23.3	19.5	14.4	13.4	14.1
	5年未満(n=530)	20.9	4.3	4.3	22.5	9.4	14.7	30.9	13.6	11.5	15.7	15.8
居住年数別	5年以上～10年未満(n=466)	22.7	3.9	6.2	20.8	11.4	11.6	27.7	17.6	15.5	14.6	13.5
	10年以上～20年未満(n=861)	25.4	4.2	7.0	19.0	12.8	14.6	26.8	17.4	12.2	13.2	13.4
	20年以上(n=1,800)	21.1	3.9	4.9	15.6	12.7	8.1	17.6	21.2	14.8	13.1	18.3
住宅の 建て方別	一戸建(n=1,454)	20.0	4.1	5.0	16.0	11.1	9.4	17.7	21.5	13.8	13.1	18.2
	集合住宅(n=2,288)	23.4	3.9	5.6	19.4	12.7	11.9	25.9	17.1	14.0	13.9	15.2
世帯類型別	ひとり暮らし(n=1,349)	21.3	4.6	5.6	17.9	10.2	12.2	23.6	21.3	14.5	15.2	15.0
	夫婦のみ(n=1,033)	24.5	2.4	5.6	19.9	14.4	10.8	22.9	16.1	12.8	12.4	15.6
	(2人)本人と親(n=26)	34.6	3.8	7.7	19.2	50.0	-	19.2	-	11.5	3.8	7.7
	(2人)本人と子ども(n=294)	13.6	5.1	2.7	16.7	6.1	9.9	23.1	20.4	18.0	14.3	19.7
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=6)	16.7	-	-	33.3	16.7	-	-	16.7	16.7	-	50.0
	(2人)本人と孫(n=9)	11.1	-	-	44.4	-	11.1	44.4	-	11.1	33.3	11.1
	(2人)本人とその他の続柄(n=98)	19.4	2.0	7.1	16.3	9.2	6.1	18.4	19.4	15.3	16.3	14.3
	(3人以上)その他(n=708)	25.6	4.7	5.5	16.2	15.0	10.3	22.0	17.8	12.0	13.1	16.8
暮らし向き別	余裕がある(n=2,554)	22.2	1.1	5.0	17.9	12.0	10.4	23.0	16.7	13.7	13.7	17.6
	余裕がない(n=1,103)	22.7	11.0	6.3	19.1	12.9	12.6	22.3	23.8	14.4	13.1	12.4

0.0 太字・太枠は、全体より5ポイント以上高い項目

資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

(4) 孤立防止

○頼れる人の有無

頼れる人について、7項目中6項目で「同居している家族・親族」、「同居していない家族・親族」が1位・2位を占めている。“さみしいときに話し相手になってもらう”では、「友人・知人・隣人」が36.9%と最も多い。

図表4-9 頼れる人の有無（中央区：複数回答）

全体(N=6,325)	(%)								
	同居している家族・親族	同居していない家族・親族	友人・知人・隣人	おとしより相談センターなどの行政窓口	民生委員・自治会・町会	かかりつけ医・歯科医・薬局	ケアマネジャー・ホームヘルパー	頼れる人はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	52.2	34.8	7.7	10.0	2.1	11.6	9.8	9.1	5.3
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	40.8	31.5	11.4	2.9	0.6	0.2	2.1	13.7	11.5
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	35.8	27.4	12.9	13.5	2.3	29.0	8.7	5.6	9.8
◆愚痴を聞いてもらう	35.9	23.0	30.7	1.1	0.6	0.9	2.0	8.8	19.1
◆災害時に手助けをしてもらう	41.4	31.7	21.8	4.3	9.8	0.8	2.2	12.7	12.8
◆さみしいときに話し相手になってもらう	36.5	25.7	36.9	1.0	0.8	0.6	1.8	9.2	17.6
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	36.4	31.3	24.9	4.6	1.6	0.6	1.7	10.7	17.5

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

頼れる人について、単身世帯は、7項目中5項目で「同居していない家族・親族」が最も多く、“愚痴を聞いてもらう”、“さみしいときに話し相手になってもらう”では「友人・知人・隣人」が最も多い。7項目中6項目で「頼れる人はいない」が全体より5ポイント以上高い。

図表4-10 世帯分類別（単身）：頼れる人の有無（中央区：複数回答）

世帯類型別 単身(n=2,169)	(%)								
	同居している家族・親族	同居していない家族・親族	友人・知人・隣人	おとしより相談センターなどの行政窓口	民生委員・自治会・町会	かかりつけ医・歯科医・薬局	ケアマネジャー・ホームヘルパー	頼れる人はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	3.8	51.9	12.8	12.5	2.6	10.6	12.3	19.2	7.5
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	3.3	41.1	16.4	4.6	0.9	0.3	3.7	24.2	14.5
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	2.7	38.0	16.9	15.5	3.0	27.0	9.5	10.1	10.7
◆愚痴を聞いてもらう	2.2	31.4	38.9	0.9	0.6	1.3	2.7	15.1	21.4
◆災害時に手助けをしてもらう	3.1	37.5	24.4	5.5	10.4	0.7	3.3	22.7	13.9
◆さみしいときに話し相手になってもらう	2.0	31.1	44.6	1.0	0.7	0.7	2.5	15.5	19.7
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	2.6	41.5	28.5	5.0	2.1	0.6	2.2	16.8	18.5

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

資料：日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年 中央区）

(5) まとめ

アンケート結果からわかること

- ・「ほとんど毎日外出」が全国より 10 ポイント高い (p. 19 図表 4-3)
- ・回答者の 8.7% に閉じこもりの傾向が見られ、80 歳以上になると閉じこもりの傾向が強くなる (p. 19 図表 4-3)
- ・近所の方と「親しくつきあっている」が全国より 25 ポイント低い (p. 20 図表 4-4)
- ・人と「毎日話す」が全国より 16.1 ポイント低い (p. 22 図表 4-5)



中央区の高齢者の特徴として、 閉じこもりは少ないが、社会的孤立の傾向が見られる

ただし、80 歳以上では外出の頻度が減少し、閉じこもりの傾向が見られる。
高齢になり、健康状態などさまざまな理由から外に出ることができなくなったとしても、周囲から必要な情報や支援の手が行き届くよう、若いうちから地域とのつながりを持つことが重要である。

【補足：閉じこもりと社会的孤立】

「閉じこもりとは、外出の頻度が極端に少ないこと」
「社会的孤立とは、人づきあいが極端に少ないこと」

例えば「電話やメールで頻繁に人づきあいをしているけれど、持病があるためほとんど外出しない人」は閉じこもりであるが、社会的孤立ではない。

一方、「毎日コンビニに行くために外出はするけれど、プライベートな会話をしたり、困ったときに頼る相手がいない人」は、閉じこもりではないが社会的孤立である。

3 社会的孤立の状況に関する分析

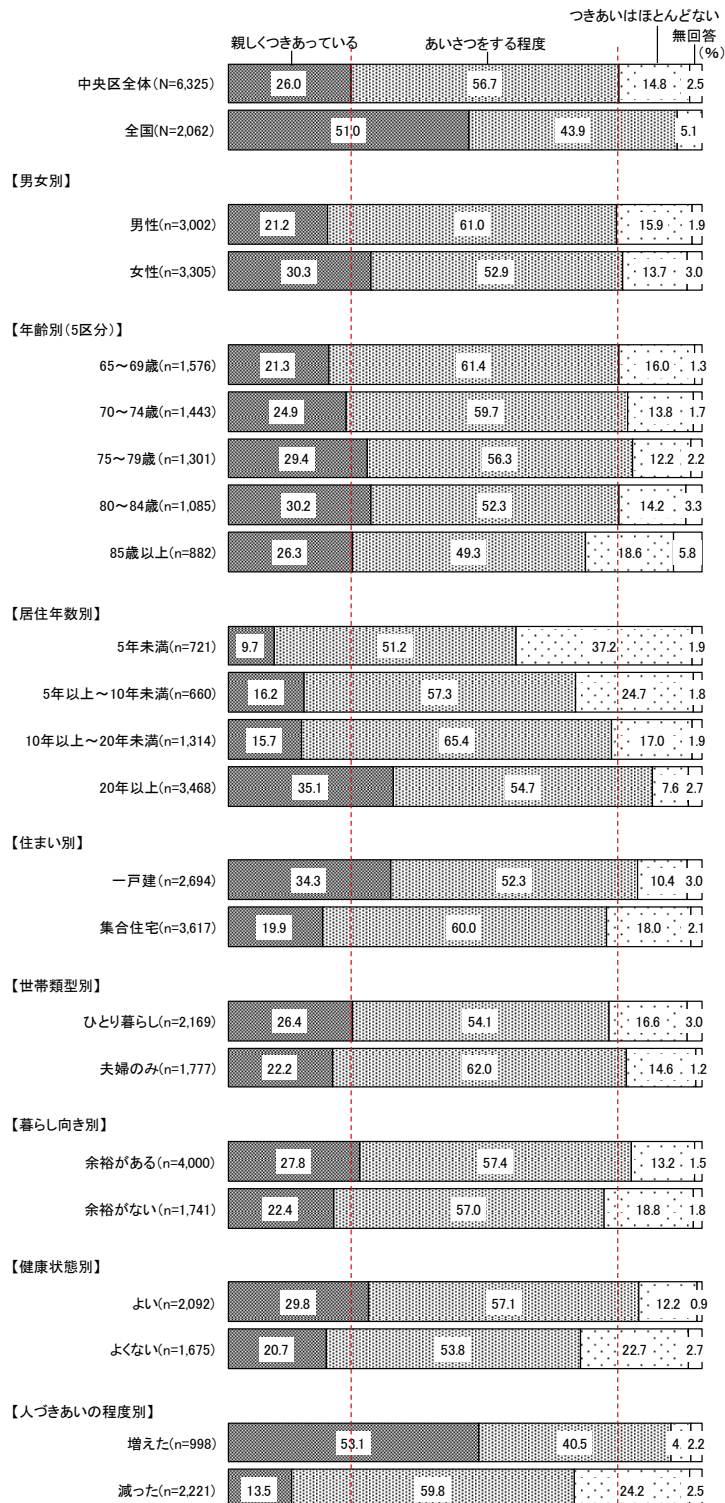
(1) クロス集計

アンケート調査では、中央区の高齢者に社会的孤立の傾向が見られることがわかった。そこで、孤立を高める要因とその傾向を見るため、アンケート調査の中から孤立に関係する項目を5つ選び、クロス集計の結果を分析した。

図表4-11 近所づきあいの程度（クロス集計）

問9 あなたは、近所の方と、どの程度おつきあいをしていますか。(〇はひとつ)

1) 親しくつきあっている 2) あいさつをする程度 3) つきあいはほとんどない



男性は女性に比べ、「親しくつきあっている」が少ない。

◎ポイント

「親しくつきあっている」と回答した人は、中央区全体で26.0%に対し、男性は21.2%、健康感が低い人は20.7%、集合住宅は19.9%と、全体より低い割合でみられた。

全体と比べ、集合住宅は「つきあいはほとんどない」が多い。

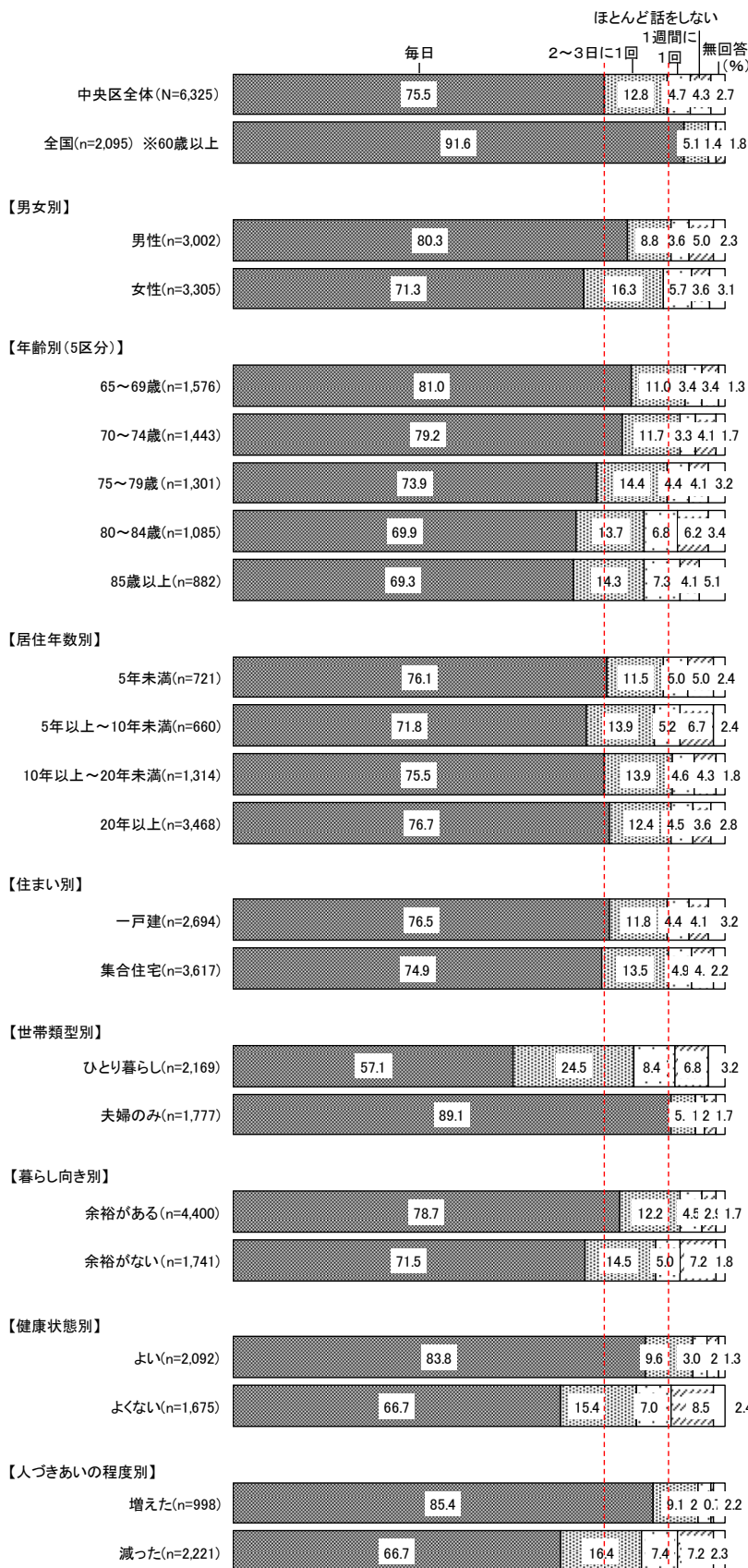
健康感が低い人は高い人に比べ「つきあいはほとんどない」が多い。

資料：中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査 (平成27年)

図表4-12 人と話をする頻度（クロス集計）

問 10 あなたはふだんの程度、人（同居の家族を含む）と話をしますか。電話やEメール（電子メール）も含めてお答えください。（○はひとつ）

1) 毎日 2) 2～3日に1回 3) 1週間に1回 4) ほとんど話をしない



◎ポイント

「毎日」と回答した人は、中央区全体で75.5%に対し、ひとり暮らしは57.1%、健康感が低い人は66.7%で、人と話す頻度が少ない。

ひとり暮らしは、全体と比べ、人と話す頻度が少ない。

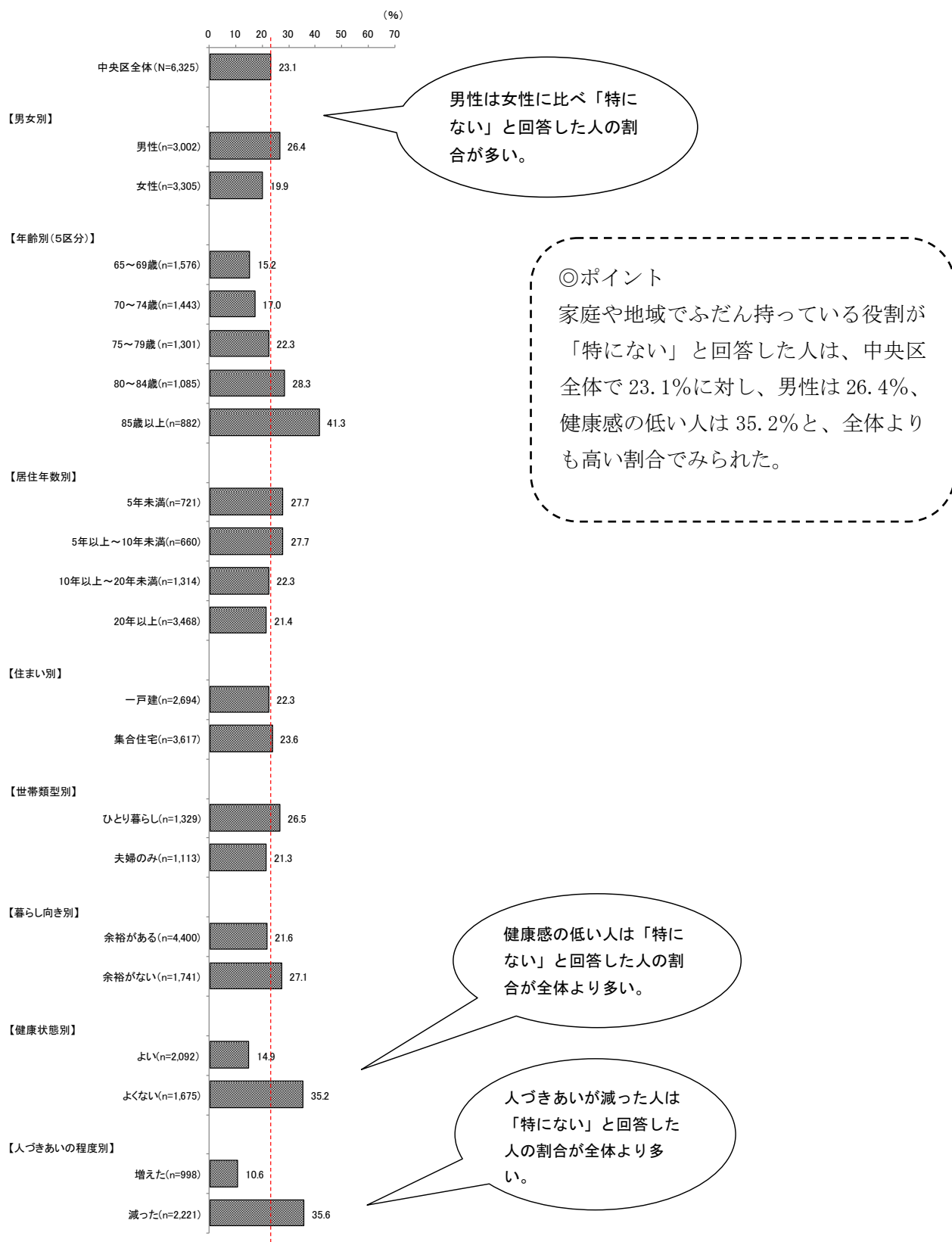
健康感が低い人は高い人に比べ人と話す頻度が少ない。

資料：中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年）

図表4-13 家庭や地域での役割（クロス集計）
 ＜「特にない」と回答した人＞

問 12 あなたは家庭や地域で、ふだんどんな役割を持って生活していますか。（〇はいくつでも）

- 1) 収入のともなう仕事 2) 家事全般 3) 孫や子どもの世話 4) 同居の家族の介護 5) 町会・自治会等の仕事
 6) ボランティア 7) ペットの世話 8) 特にない 9) その他



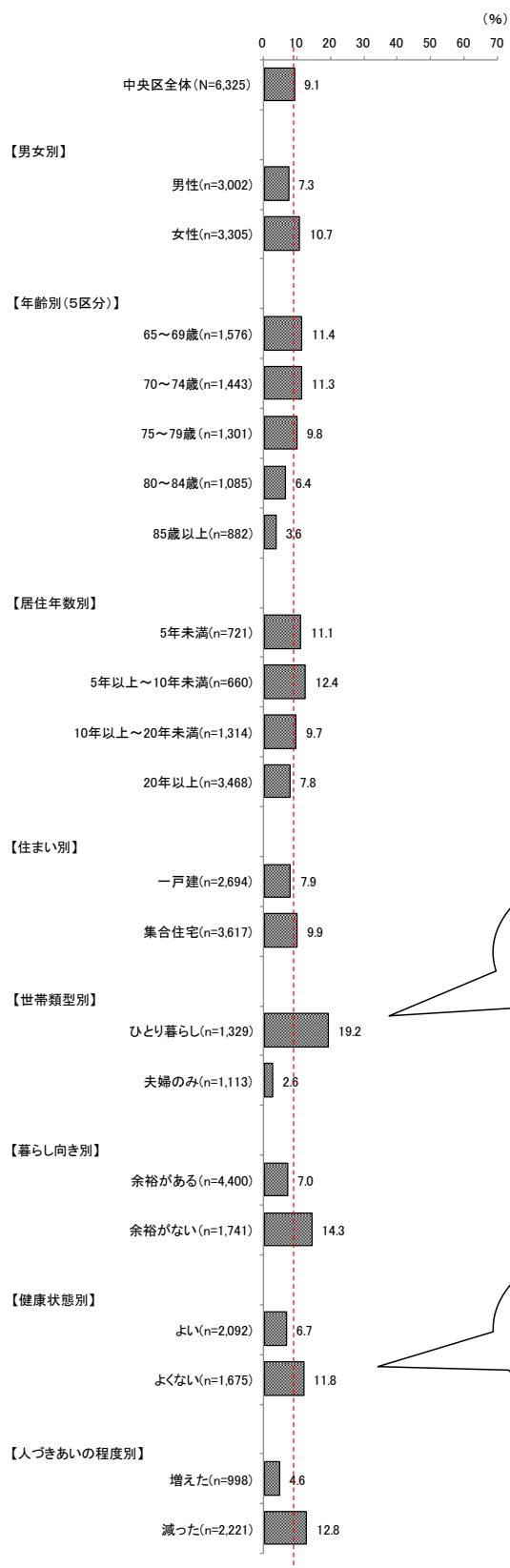
資料：中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査（平成 27 年）

図表4-14 自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう人の有無（頼れる人の有無）
 ＜「頼れる人はいない」と回答した人＞

問 14① あなたは次のことについて、頼れる人はいますか。（それぞれについて、あてはまるものすべての数字に○）

◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう

- 1) 同居している家族・親族 2) 同居していない家族・親族 3) 友人・知人・隣人
 4) おとしより相談センターなどの行政窓口 5) 民生委員・自治会・町会 6) かかりつけ医・歯科医・薬局
 7) ケアマネジャー・ホームヘルパー 8) 頼れる人はいない



◎ポイント

「頼れる人はいない」と回答した人は、中央区全体で9.1%に対し、ひとり暮らしの人は19.2%、経済的に余裕がない人は14.3%と、全体よりも高い割合でみられた。

ひとり暮らしは「頼れる人がいない」と回答した人の割合が高い。

経済的に余裕がない人は「頼れる人がいない」と回答した人の割合が高い。

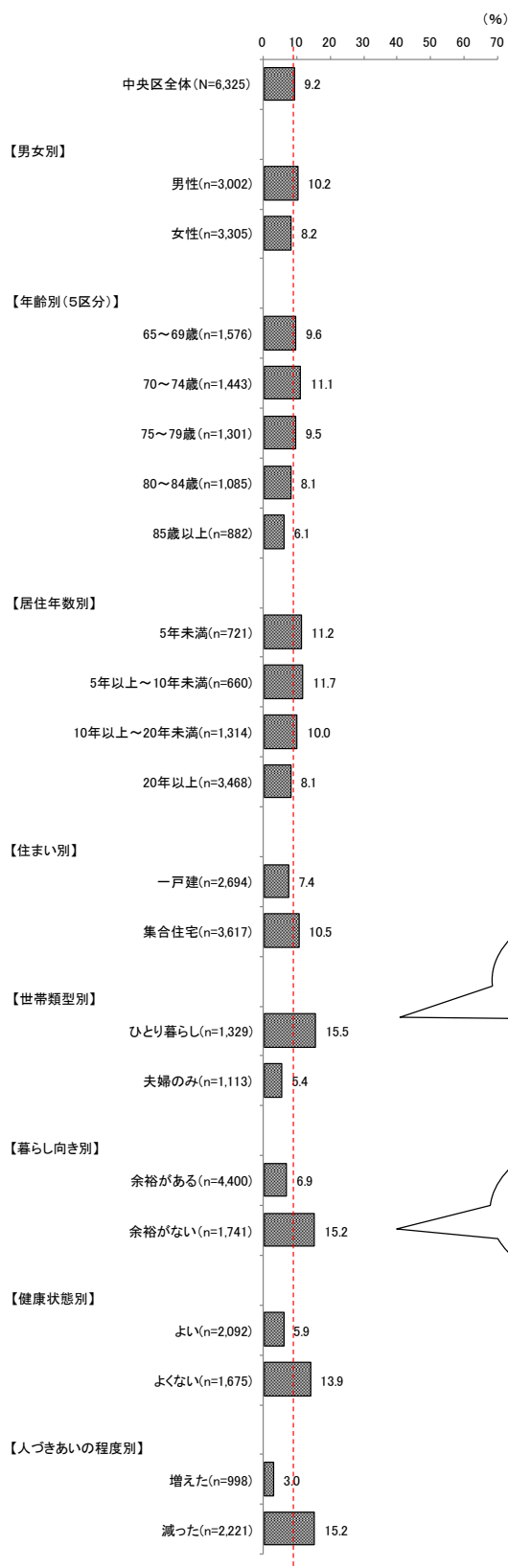
資料：中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年）

図表4-15 さみしいときに話し相手になってもらう人の有無（頼れる人の有無）
 ＜「頼れる人はいない」と回答した人＞

問 14⑥ あなたは次のことについて、頼れる人はいますか。（それぞれについて、あてはまるものすべての数字に○）

◆さみしいときに話し相手になってもらう

- 1) 同居している家族・親族 2) 同居していない家族・親族 3) 友人・知人・隣人
 4) おとしより相談センターなどの行政窓口 5) 民生委員・自治会・町会 6) かかりつけ医・歯科医・薬局
 7) ケアマネジャー・ホームヘルパー 8) 頼れる人はいない



◎ポイント

「頼れる人はいない」と回答した人は、中央区全体で9.2%に対し、ひとり暮らしの人は15.5%、経済的に余裕がない人は15.2%と、全体よりも高い割合でみられた。

ひとり暮らしは「頼れる人がいない」と回答した人の割合が高い。

経済的に余裕がない人は「頼れる人がいない」と回答した人の割合が高い。

資料：中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査（平成27年）

(2) ロジスティック回帰分析

クロス集計のほかに、どのような特徴を持った人が孤立に陥る傾向があるのかについて、より詳細な分析をロジスティック回帰分析という手法で行った。この分析手法は、「他の変数の影響を取り除いた上でも、その変数は孤立のリスクを高める要因となっているのか」を明らかにすることができるものである。

縦軸は性別や年齢などの孤立に関連すると思われる項目（変数）で、横軸は社会的孤立を表す項目（変数）を示している。数字の横に「*（アスタリスク）」がついている項目は、統計的に見て、社会的孤立に陥るリスクとの関連性が認められ、「*」の数は統計的な関連性の強弱を表している。つまり、「*」の数が多いほど、その項目が社会的孤立か否かに強く関連していることを意味している。言い換えれば、「*」がついていない項目は、ある人が社会的孤立の状態にあるか否かについて関連性がないと考えられる。

また、表中の数字は「オッズ比」といい、「社会的孤立に与える影響の大きさ」を示している。例えば「病気の世話」についてみると、男性は「*」が1つつき、1.295となっている。これは、病気の世話を頼む人がいないというリスクが、男性は女性よりも1.295倍高いことを示している。オッズ比の値が大きいほどその影響も大きくなる。

図表4-16 孤立傾向の強い人に関する分析

	カテゴリー	病気の世話	家具等の移動	健康等に関する相談	愚痴の相手
性別	男性(ref. 女性)	1.295 *	1.353 **	2.137 ***	2.860 ***
年齢		0.942 ***	0.952 ***	0.945 ***	0.978 **
暮らし向き	苦しい(ref. その他)	1.950 ***	1.705 ***	2.312 ***	2.116 ***
主観的健康感	健康でない(ref. その他)	1.559 ***	1.425 ***	1.417 *	1.684 ***
世帯類型	ひとり暮らし	9.787 ***	6.828 ***	5.367 ***	4.853 ***
	夫婦のみ	0.807	1.714 ***	1.035	0.975
居住年数	5年未満(ref. 5年以上)	0.922	0.982	0.863	1.031
住居	集合住宅(ref. 戸建て)	1.068	1.404 ***	1.372 *	1.368 **
	10階以上(ref. 10階未満)	1.181	1.076	1.006	1.075
外出頻度	週1以下(ref. 週2日以上)	0.653 *	1.044	1.268	1.222
定数		1.413	1.111	0.603	0.071 ***

	カテゴリー	災害時の手助け	話し相手	人生の相談	会話週1回以下
性別	男性(ref. 女性)	1.323 **	2.248 ***	2.104 ***	2.011 ***
年齢		0.961 ***	0.979 **	0.978 **	1.015 *
暮らし向き	苦しい(ref. その他)	1.796 ***	2.040 ***	2.077 ***	1.403 **
主観的健康感	健康でない(ref. その他)	1.797 ***	1.941 ***	1.685 ***	1.910 ***
世帯類型	ひとり暮らし	6.279 ***	3.981 ***	3.789 ***	4.652 ***
	夫婦のみ	1.673 ***	0.812	1.021	0.798
居住年数	5年未満(ref. 5年以上)	1.114	1.046	0.900	1.121
住居	集合住宅(ref. 戸建て)	1.410 ***	1.451 **	1.458 ***	1.332 *
	10階以上(ref. 10階未満)	0.969	0.942	0.926	0.671 **
外出頻度	週1以下(ref. 週2日以上)	1.054	1.161	0.982	2.996 ***
定数		0.492	0.089 ***	0.127 ***	0.005 ***

【分析結果】

① ひとり暮らし

ひとり暮らしは、すべての項目で「*」が3つついており、かつオッズ比の値も大きい。中央区においては、ひとり暮らしの人は、孤立のリスクが非常に高いことがいえる。

② 男性

男性はすべての項目で「*」がついており、どの項目でも孤立のリスクを高める要因となっている。年齢や暮らし向きがどうであれ、男性は女性よりも孤立に陥りやすいことがいえる。

③ 暮らし向き（経済状況）

経済的に余裕がない人については、ほぼ全ての項目で「*」が3つついており、オッズ比の値も比較的大きく、孤立との関連性が強い。

④ 主観的健康感

健康状態が良くないと答えている人も、ほとんどの項目で「*」が3つついており、各項目において孤立に陥りやすいということがわかる。

⑤ 集合住宅に居住

集合住宅に住んでいる人のほうが、そうでない人よりもいくつかの項目において孤立をする傾向があることがわかった。ただし、集合住宅の何階に住んでいるかということはあまり関係がない。

社会的孤立のすべての指標に関連を示していたのは、上記の①～④であった。なかでも、「ひとり暮らし」はすべての指標において最も関連が強く、またオッズ比をみると、孤立のリスクが他と比べて最も大きい。

それ以外では、⑤集合住宅に居住していることも、「病気の世話」以外の場合に関連を示していた。

（３）まとめ

クロス集計及びロジスティック回帰分析双方の結果から、次のことがいえる。

中央区では、ひとり暮らしの人、男性、経済的に余裕がない人、健康状態がよくない人、集合住宅に居住している人などで、孤立の傾向が強くみられる。

このような孤立のリスクが高い人が人間関係を増やせるような仕組みをどうやって地域に作っていくかが今後の課題である。

第5章 高齢者の社会参加に向けて

中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会では、アンケート調査結果などを踏まえ、毎回テーマを決めて日頃の活動内容や現場で感じていることなどについて自由に話し合いを行った。

ここでは懇談会での議論を課題ごとに整理し、高齢者の社会参加に向けた基本的な考え方を示す。

1 基本的な考え方

（課題1）社会的孤立の傾向が見られる人に、どのような居場所を提供すればよいか

◆身近なところに居場所を提供する

ひとつの事例として、公園の特定の場所で数人の高齢者がおしゃべりを楽しんでいる姿をよく見かけ、そこがその人たちのサロン・居場所になっているのではないかと、この報告があった。この事例のように、たとえ規模は小さくても、そこに行けば顔見知りの誰かがいて、費用をかけなくても楽しく過ごせる居場所が身近にたくさんあれば、経済的な余裕や健康上の理由により活動に参加したくても行けない人が、気軽に参加できると考えられる。

◆それぞれの人にとって居心地の良い場所を提供する

「自分の健康は自分で守る」ということを目指して主に健康相談や区民向けの健康講座、コンサートなどのイベントをあわせて行うサロンでは、60代から70代の多くの高齢者がそれぞれの時間を楽しんでいる。高齢者にとって、「今日行くところがある（キョウイク）」、「今日用事がある（キョウヨウ）」が、元気な毎日を送る秘訣だということを教えてもらったという報告があった。一人ひとりにとって居心地のよい場所を地域の中に増やしていく必要がある。

◆多様な居場所を提供し、選べるようにする

ラジオ体操の仲間や喫茶店の朝食仲間、公園でのおしゃべりを楽しむ小さなグループなど、自然発生したさまざまな交流の場がある。その中から自分が行けるところ、行きたいと思うところを自由に選べるようにすることが大事である。公共施設ばかりではなく、空き家を活用した居場所づくり、居酒屋のデイユースなど、既存の民間施設の活用も考えられる。

提言 1

身近なところで誰もが気軽に参加できる交流の場をつくる（居場所づくり）

決まった人が集う場所ではなく、身近なところにあり、参加費が安く誰でも参加できる交流の場が求められる。特に孤立のリスクが高い特定の参加者にターゲットを絞ったり、好みで自由に選べるよう多様な居場所を提供したりするなど、参加促進のための工夫も必要である。

（課題２）社会とつながりを築くための有効なアプローチ方法とは何か

◆こちらから出向いて、生の声で誘う

アンケート調査によれば、活動に参加しない理由として、「きっかけがない」、「興味が無い」という回答が多い。活動に関する情報入手の方法は「区のお知らせ」が多いが、区報で活動を知ったとしても、生の声で誘われないとなかなか踏み込めないのではないかな。

区内には、いきいき館や地域の高齢者クラブ等さまざまな交流の場があるため、こちらから出向いて直接声をかけるなど、高齢者に情報を届ける仕掛けが必要である。

◆住民同士がつながりをもてる活動を通して働きかける

集合住宅へのアプローチが成功した事例として、町内の清掃活動への参加をきっかけに個人的なつきあいができるようになった事例、マンション内の自治会が朝のラジオ体操や小学校入学のお祝いなどの活動を通して、活発な交流を生み出している事例が報告された。

住民が気軽に参加でき、地域のさまざまな人とのつながりをもてる活動を定期的を実施し、参加を働きかけていくことが効果的と考えられる。

◆行きたくても行けない人への支援に焦点をあてる

閉じこもりの人にもさまざまな理由があるが、健康状態や経済状況などにより、外に行きたくても行けない人へのアプローチは大変難しく、大きな課題と言える。

懇談会では、外出できなくなった人へのサポートのあり方として、ケアマネジャーやヘルパーなどが、ひとつのノートをつくり、その人が関心・興味を持っていることを書き込み、共有化することで、支援できることがあるのではないかなという提案もあった。

◆その人の生き方や価値観を尊重しつつ、アプローチする

高齢者の生き方や価値観も多様化しており、一人暮らしを楽しみ、充実した毎日を送っている人もいるため、一括りに孤立のリスクがあるとみなすことを疑問視する意見もあった。人付き合いの必要性を感じていない人がいることは当然だが、そのような人に対しても簡単に関係性を断ち切らず、その人の生き方や価値観を尊重し遠くから見守りながら、いざ支援が必要になったときにアプローチできる関係性を残しておくことが大切である。

提言 2

交流が少ない人にこちらから声をかける仕組みをつくる（アプローチの工夫）

心身の機能や経済状況の悪化などにより、交流の機会が少なくなった高齢者に対して、ただ声をかけて出てくるのを待つのではなく、本人の意思を尊重しつつこちらから交流を働きかける仕組みをつくる必要がある。各地域の民生委員、高齢者クラブ、町会・自治会などとともに、地域の身近な交流の場やいきいき館等への参加を促す働きかけを行う。

（課題3）地域コミュニティの中に、どのように溶け込んでいけばよいのか

◆日頃から、顔と名前のわかる関係をつくる

いきいき館や高齢者クラブでの集まり、町会・自治会によるラジオ体操などの集まり、喫茶店や公園などでの個人的な集まりなど、中央区には社会参加の資源が豊富にある。これらの資源を有効活用することにより、社会的孤立のリスクを減らしていくことが課題である。

道で会った時に挨拶を交わすなど、日ごろの人づきあいは非常に重要である。中には、ふれあい福祉委員会の訪問活動に子育て世代を巻き込むことで顔見知りの関係を築くことに成功した事例があった。さらに、町会・自治会がふれあい福祉委員会や高齢者クラブの活動を支援し、住民同士のかかわりが密になるように協力しあっている事例があった。

地域の中で、このような顔と名前のわかる関係を日頃から築いていくことが大切である。

◆若いうちから地域とのかかわりを持てるようにする

男性は、現役時代には仕事中心の生活を送っており、地域活動と接触するチャンスが少ないことから、定年退職後は地域活動への第一歩がなかなか踏み出せない。

懇談会では、仕事をしている若いうちから、地域との接点を持つことの必要性が指摘された。例えば、30代から80代くらいまでの多様な世代の男性が誘いあって店や自宅等で定期的に飲み会を行っている町会の事例などもある。また、子育て世代の男性の場合は、同じ小学校に通う子どもの父親同士による「おやじの会」のようなものもある。このような場への参加をきっかけに、地域にソフトランディングしていくことで、そのつながりが50代、60代、70代になったときにもある程度つながっていくことが期待できる。

◆新住民に対して町会・自治会から積極的に働きかける

町会・自治会では、転入者に加入を呼びかけてもなかなか効果が上がらないことが悩みとなっているが、新しくできたマンションに町会の総会のチラシを配布したところ、複数の住民が参加した成功事例もあり、町会・自治会からの積極的な働きかけが重要であることがわかる。

また、長く住んでいる人たちの方から溶け込みやすい雰囲気をつくる、声かけや訪問などの気遣いをする、盆踊りや餅つきなどの催しの機会をとらえて積極的に勧誘するなどの意見も出された。新住民が興味を持ちやすく参加しやすい交流の場を設け、町会・自治会から積極的に働きかけていくことが効果的と考えられる。

提言 3

若いうちから、近隣との人間関係の和を広げていけるよう働きかける（地域デビュー）

高齢者になってから地域で活動しようと思ってもなかなか難しいため、若いうちから徐々に近隣との人間関係の和を広げ、「地域デビュー」の準備を進めることが大切である。

例えば、町会・自治会の仕事にかかわるなど、できることから少しずつ地域とかかわりを持つ機会を増やしていけるよう、若い世代に働きかける。

（課題４）元気な高齢者が、地域の中でいきいきとした毎日を送るために何ができるか

◆一人ひとりの強みや好みを把握して、その人がしたいことを手助けする

懇談会では、勉強して資格をとった成果を生かしてボランティアをしたい、講座や講演会を開きたいと考えている高齢者の願いを受け、支援することで、それを実現した事例の報告があった。自分の役割がある、これまでに培ったスキルや経験が生かせる、好みに合うなど、高齢者本人が主体的に活動したいと思えるような工夫や支援が必要である。

◆役割を持ち、仲間と協働しながら、主体的に活動に関われるようにする

参加者が役割を分担しながら協力して運営し、みんなで活動を盛り上げているサロンなどのように、高齢者自身が主体的に活動に関わることを通して、役割や生きがいを感じられるように支援することは重要である。仲間と協働することで「受け入れられている」、「みんなの役に立っている」という感覚を持つことができ、かけがえのない自分の活動になっていく。

ただ集まるためだけの場では、参加しようという動機は生まれにくい。役割があることで、自ら進んで参加しようと思えるような働きかけが不可欠である。

◆男性のキャリアや興味、特技を把握し、活動に結びつける

地域のさまざまな活動において男性の参加は比較的少なく、男性の参加促進が課題となっている。これについて、男性が得意とすることで協力を求めて成功した事例、夫婦で参加する催しでは妻以外の人となるべく話ができるような運営の工夫、自慢話を聞かせてくださいという働きかけにより興味や特技を聞き出して活動につなげるアイデアなどが出された。

このように、男性の活動促進には、一人ひとりのキャリアや興味、特技に応じてターゲットを絞ったプログラムの提供や、男性が参加しやすい場にするための工夫を検討していかなければならない。

◆その人の強みや好みを汲み取り、ふさわしい居場所につなげる人材を確保する

懇談会では、地域メディアへの投稿・相談をきっかけに個人の趣味・特技を活かした活動に展開した事例の報告があった。

高齢者が地域の中で孤立することなく、役割を持って主体的に活動できるように支援していくためには、その人の強み、スキル、好みを丁寧にしっかりと汲み取ることができ、その人をふさわしい居場所につなげる役割を果たす人材（コーディネーター）の確保が鍵となる。まずはそのような人がどこにいるのかを把握し、空白地域があれば、コーディネーターを育てる努力が必要である。

提言 4

元気な高齢者が、いきいきと支える側にまわるための支援をする（役割・生きがい）

高齢者にとって、これまでの人生で培った知識や経験を活かし、地域の中で役割を持てる場を用意することが、高齢者の生きがいづくりを進める上で有効である。元気な高齢者が地域のさまざまな資源とつながり、支援を必要とする人を支える側として活動し、社会に参画することを促進する。

（課題５）高齢者が、地域の中で取り残されないようにするためにはどうするか

◆高齢者に伝わる方法で、情報を届ける

アンケート調査では、地域活動に関する情報入手の方法として、「区のお知らせ」が最も多かったが、懇談会では高齢者に情報を伝えきれているのか疑問視する意見もあった。また、「こんな活動がある」と直接声をかけたことで参加につながった事例の報告もあった。

アプローチの方法とも関連するが、生の声で誘う、高齢者の視点で新聞を作って届けるなど、高齢者に伝わる方法で情報を届けることが必要である。今後は、団塊の世代など、情報通信技術を使いこなす高齢者も増えることが予想され、スマートフォンやタブレットによる情報提供なども効果的な手段の一つではないか。

◆集合住宅との交流を促進し、地域コミュニティを強化する

集合住宅（高層マンションなど）はセキュリティが高く、簡単には中に入れないため、地域住民との交流がなかなか進まないこともある。町会・自治会などとマンション居住者とのつながりが少ないところも多く、マンションに住んでいる高齢者の見守りに頭を悩ませているとの意見があった。集合住宅の高齢者が地域の中で孤立しないよう、いかにして必要な情報を届けるか、日頃から交流する機会をつくることができるかなどが課題である。

◆地域全体の連携・ネットワークを強化する

孤立防止に向けて、事態が深刻になる前に情報をキャッチし、有効な支援が迅速にできるような仕組みづくりが求められている。支援を必要とする高齢者のまわりにさまざまな支援者がいても、情報が共有されていなければ、結局、有効な手立てが取れないことにもなりかねない。一組織でその人を見るのではなく、関連機関が連携し、地域全体で見るという仕組みづくりが必要である。

提言 5

行政・地域の魅力的な情報を隅々まで行き届かせる工夫をする（情報伝達・収集）

地域のさまざまな場所で魅力的な活動が行われているが、高齢者本人に情報が届かなければ活動に結びつかない。また、手助けを必要とする高齢者にいち早く支援の手を差し伸べるためには、さまざまな関係機関・支援者どうしの横のつながりが重要である。高齢者を孤立させないために、必要な情報を伝える力、集める力をつける必要がある。

2 行政の役割

1 活動団体の自主性を尊重する仕組みづくり

高齢者に身近な場所に、外出を促進するような魅力的な活動を作っていくためには、活動団体が個性を生かして自主的に運営していける環境を行政が後押ししていく必要がある。

区は、住民主体の活動への補助の仕組みや、活動者同士が交流したり意見交換したりする場の提供、地域の自主的な活動の情報を集めて発信するなど、地域の多様な居場所づくりを広げていくためのアプローチをする。

2 地域づくりにかかわる多様な関係機関との連携

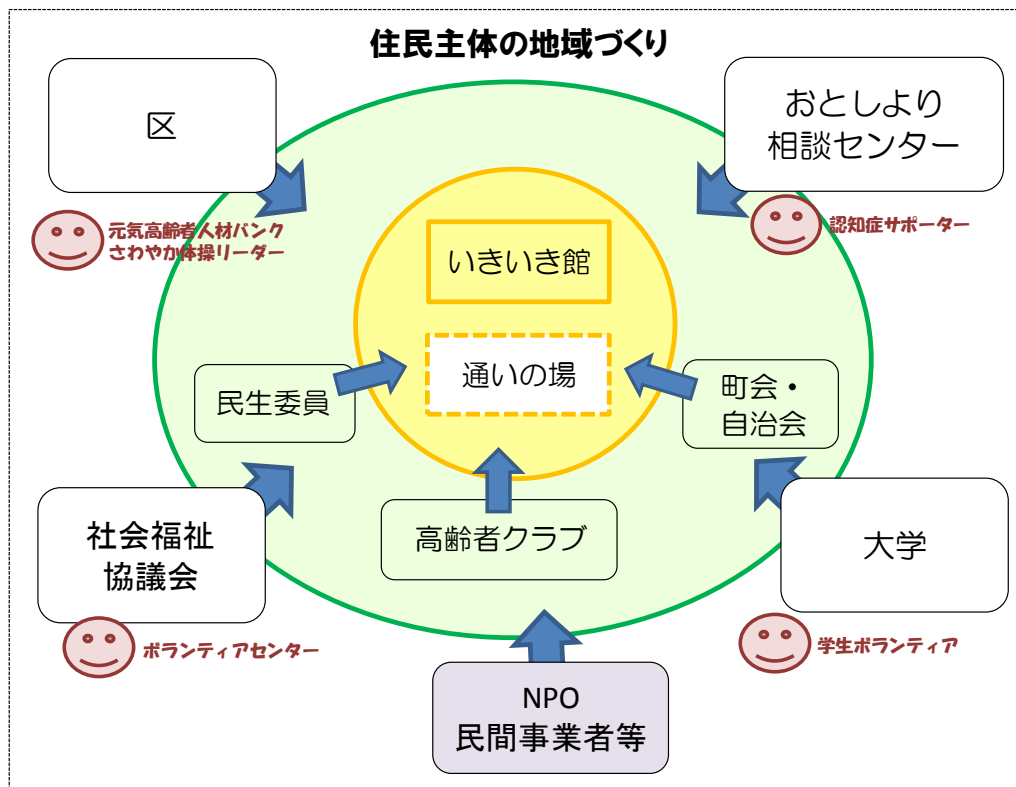
地域づくりは一つの主体で実現できるものではなく、様々なかかわりを持つ多様な主体が地域づくりのビジョンを共有し、連携しながら進めていく必要がある。

区は、懇談会での議論を踏まえた5つの提言に基づき、既存施設・事業を体系的・効率的に活用しながら、新たな交流の場の創出に取り組む。

○取組事例：「通いの場」事業

高齢者が歩いて行けるような身近な地域に、気軽に交流できる「通いの場」をつくる。5つの提言を生かし、住民主体の地域づくりを行う。

図表 中央区の「通いの場」について



資 料

中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会設置要綱

平成 27 年 3 月 31 日

26 中福高第 3371 号

(設置)

第 1 条 高齢者が社会的に孤立せず、生きがいを持って生活できるようにするための支援策を講ずるため、中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 懇談会は、次に掲げる事項について検討を行い、その結果を区長に報告する。

- (1) 区の区域内（以下「区内」という。）に住所を有する高齢者（以下「区内高齢者」という。）の生活状況の把握に関すること。
- (2) 区内高齢者の孤立防止及び生きがいの推進に関すること。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、区長が必要と認めること。

(組織)

第 3 条 懇談会は、23 人以内の委員をもって組織する。

2 委員は次に掲げる者のうちから、区長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者 2 人以内
- (2) 区内において行われる高齢者に関する事業に従事する職員 6 人以内
- (3) 町会役員及び民生委員 6 人以内
- (4) 企画部長
- (5) 区民部長
- (6) 福祉保健部長
- (7) 高齢者施策推進室長
- (8) 前各号に掲げるもののほか、区長が必要と認める者 5 人以内

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年以内とする。

2 委員に欠員が生じた場合における後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長等及びその職務)

第 5 条 懇談会に、会長及び副会長を置く。

2 会長は委員の互選により選出し、副会長は委員の中から会長が指名する。

3 会長は、懇談会を代表し、会務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(招集)

第 6 条 懇談会は、会長が招集する。

(定足数及び表決)

第 7 条 懇談会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

2 懇談会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(関係者等の出席)

第 8 条 懇談会は、必要があると認めるときは、専門的事項について学識経験を有する者その他関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(会議の公開)

第9条 懇談会の会議は、公開とする。ただし、会長が適当でないと認めるときは、この限りでない。

(庶務)

第10条 懇談会の庶務は、福祉保健部高齢者福祉課において処理する。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この要綱は、平成29年3月31日限り、その効力を失う。

中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 委員名簿

(敬称略：順不同)

役職名	区 分	氏 名	所 属 団 体
会長	学識経験者	川村 岳人	大分大学福祉健康科学部講師（平成28年4月～） 健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授（～平成28年3月）
副会長	学識経験者	高橋 恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
委員	区内の高齢者に関する事業に従事する職員	鈴木 健一	中央区立敬老館統括館長
委員	区内の高齢者に関する事業に従事する職員	吉田 千晴	京橋おとしより相談センター管理者
委員	区内の高齢者に関する事業に従事する職員	八木 英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
委員	町会役員及び民生委員	木村 和代	民生委員（京橋地域）
委員	町会役員及び民生委員	平賀 淳子	民生委員（日本橋地域）
委員	町会役員及び民生委員	立岩 絹子	民生委員（月島地域）
委員	町会役員及び民生委員	川端 武二	町会役員（京橋地域）
委員	町会役員及び民生委員	安西 暉之	町会役員（日本橋地域）
委員	町会役員及び民生委員	鹿島 新吾	町会役員（月島地域）
委員	その他、区長が必要と認める者（懇談会に関連する団体等）	小倉 さなゑ	ほがらかサロン構成員
委員	その他、区長が必要と認める者（懇談会に関連する団体等）	小川 京子	高齢者クラブ連合会役員
委員	その他、区長が必要と認める者（懇談会に関連する団体等）	佐久間 保人	天空新聞製作委員会構成員
委員	区職員	田中 武	企画部長（～平成27年12月）
委員	区職員	新治 満	区民部長（～平成27年12月）
委員	区職員	平林 治樹	企画部長（平成28年1月～） 福祉保健部長（～平成27年12月）
委員	区職員	黒川 眞	福祉保健部長（平成28年1月～）
委員	区職員	長嶋 育夫	区民部長（平成28年4月～） 高齢者施策推進室長（～平成28年3月）
委員	区職員	古田島 幹雄	高齢者施策推進室長（平成28年4月～）

中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査

別紙の送付文2ページを参考に、65歳以上の方がご記入ください。

なお、65歳以上の方が2名以上いらっしゃる世帯は、7月31日以降で、次の誕生日を最初に迎える方についてご記入ください。このアンケートは、4ページ構成となっております。
ご記入後、同封の返信用封筒に入れ、区役所までご返送ください。ご協力をお願いいたします。

問1. あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1) 男性

2) 女性

問2. あなたのご年齢をご記入ください。

満 歳

問3. ① あなたはどの地域にお住まいですか？(○はひとつ)

1) 京橋地域

2) 日本橋地域

3) 月島地域

② あなたは現在の住居の地域に何年お住まいですか。

(年)

③ あなたが現在お住まいの住居は以下のどれに当たりますか？(○はひとつ)

1) 一戸建て → 1) 持家 2) 賃貸 3) その他

2) 集合住宅 → 1) 分譲 2) 賃貸(民間) 3) 賃貸(都営・区営) 4) 賃貸(公社・UR) 5) その他



() 階建ての () 階

④ お住まいの中で困りごとがありますか。(○はいくつでも)

1) 階段の昇り降りが大変

2) 自宅での入浴が大変

3) 室内に段差がある

4) 冷房がない

5) 掃除が大変

6) 食事づくりが大変

7) トイレが使いにくい

8) その他(具体的に:)

問4. ① あなたの世帯は、あなたを含めて何名で構成されていますか。

(名) (1名の場合③・④へ 2名以上の場合は②～④へ)

② 同居している方の続柄は、次のうちどれに該当しますか。(○はいくつでも)

1) 配偶者

2) 親(義理の親を含む)

3) 子ども

4) 子どもの配偶者

5) 孫

6) その他(具体的に:)

③ あなたの現在の婚姻状況は、次のうちどれに該当しますか。

1) 既婚

2) 離別

3) 死別

4) 未婚

④ 現在の構成人数になってからどのくらいですか。

(年)

問5.① 現在のあなたの暮らし向き（経済状況）は、次のうちどれに該当しますか。（○はひとつ）

- 1) 家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている
- 2) 家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている
- 3) 家計にゆとりがなく、多少心配である
- 4) 家計が苦しく、非常に心配である

② 現在のあなたの世帯の収入源は、次のうちどれに該当しますか。（○はいくつでも）

- 1) 年金（恩給を含む）
- 2) 預貯金や資産など
- 3) 給与や家賃収入等の所得
- 4) 家族・親族からの仕送り
- 5) 生活保護
- 6) その他（具体的に： _____）

③ 現在のあなたの世帯の収入源のうち、（ア）～（エ）では、それぞれ、どの程度の割合を占めていますか。

- | | |
|----------------|---------------|
| （ア）年金（恩給を含む） | → () 割 |
| （イ）預貯金や資産など | → () 割 |
| （ウ）給与や家賃収入等の所得 | → () 割 |
| （エ）それ以外 | → () 割 |

全部で10割になるように
ご記入ください。

問6. あなたは、ご自分の現在の健康状態をどのように感じていますか。（○はひとつ）

- 1) よい
- 2) まあよい
- 3) ふつう
- 4) あまりよくない
- 5) よくない

問7. 現在、あなたの世帯の中で介護保険制度の認定を受けている方はいますか。（○をつける）

あなた

- 1) 受けている

- 2) 受けていない

記入例：要支援 (1)・要介護 (2)・要介護 (1・2・3・4・5)

要支援 (1・2)・要介護 (1・2・3・4・5)

あなた以外の方

- 1) 受けている

- 2) 受けていない

要支援 (1・2)・要介護 (1・2・3・4・5)

問8. ① あなたはふだん、外出（近所の散歩などを含む）をどの程度していますか。（○はひとつ）

- 1) ほとんど毎日
- 2) 週に4～5日
- 3) 週に2～3日
- 4) 週に1日程度
- 5) 月に2～3日以下

② あなたがよく行く場所はどこですか。（○はいくつでも）

- 1) デパート
- 2) スーパー・コンビニ
- 3) 近隣にある商店
- 4) 病院
- 5) 公園
- 6) 親族や友人の家
- 7) 喫茶店
- 8) 映画館・美術館
- 9) いきいき館（敬老館）
- 10) 銭湯
- 11) その他（具体的に： _____）

③ あなたが外出する際の移動手段は何ですか。（○はいくつでも）

- 1) 徒歩
- 2) 自転車
- 3) バイク・スクーター
- 4) 自動車（自分で運転）
- 5) 自動車（人に乗せてもらう）
- 6) 電車
- 7) 路線バス・江戸バス
- 8) 車いす
- 9) 歩行器・シルバーカー
- 10) タクシー
- 11) その他（具体的に： _____）

問9. あなたは、近所の方と、どの程度おつきあいをしていますか。(○はひとつ)

- 1) 親しくつきあっている 2) あいさつをする程度 3) つきあいはほとんどない

問10. あなたはふだんの程度、人(同居の家族を含む)と話をしますか。電話やEメール(電子メール)も含めてお答えください。(○はひとつ)

- 1) 毎日 2) 2～3日に1回 3) 1週間に1回 4) ほとんど話をしない

問11. 次のことについて、あなたの考えにもっともあてはまるものはどれですか。

(それぞれについて○はひとつ)

	とても 思う	やや 思う	どちらとも 言えない	あまり 思わない	まったく 思わない
・私は、地域の人達と共通点が多い	1	2	3	4	5
・夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
・生活上の困りごとは、本人や家族が努力して克服すべきだ	1	2	3	4	5
・この地域に誇りや愛着のようなものを感じる	1	2	3	4	5
・私の趣味や考え方は、地域の人達とは違う	1	2	3	4	5
・私は、自分や家族が福祉・介護のサービスを必要とする状態になったときは、積極的にサービスを利用する	1	2	3	4	5

問12. あなたは家庭や地域で、ふだんどんな役割を持って生活していますか。(○はいくつでも)

- 1) 収入のともなう仕事 2) 家事全般 3) 孫や子どもの世話
4) 同居の家族の介護 5) 町会・自治会等の仕事 6) ボランティア
7) ペットの世話 8) 特にない
9) その他(具体的に)

問13. ① あなたは何らかの地域活動に参加していますか。(○はひとつ)

- 1) よく参加している (②～④へ) 2) ときどき参加している (②～④へ)
3) あまり参加していない (④・⑤へ) 4) ほとんど参加していない (④・⑤へ)

② どんな地域活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- 1) 祭り等のイベント 2) 生涯学習講座 3) サークルや趣味の活動
4) 健康づくりにつながる活動 5) 高齢者クラブや自治会・町会等での近隣住民との交流の場
6) ボランティア活動 7) その他(具体的に:)

③ 地域活動の情報はどこで入手していますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------------|------------|---------------|
| 1) 区のおしらせ中央 | 2) 回覧板・掲示板 | 3) ケーブルテレビ |
| 4) ラジオ | 5) インターネット | 6) 区役所等の窓口 |
| 7) 民生委員 | 8) 家族・親戚 | 9) 近所の人、友人・知人 |
| 10) その他（具体的に： _____） | | |

④ 今後どんな活動だったら参加してみたいと思いますか。

[_____]

⑤ (①で 3) 4) に○をつけた場合のみ)

地域活動に参加しない理由はなんですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------------|-----------------|---------------|
| 1) 興味があるものがない | 2) 費用がかかる | 3) 近くに活動の場がない |
| 4) 一緒に参加する仲間や友人がいない | 5) 仕事や介護等で時間がない | |
| 6) 情報がない | 7) きっかけがない | 8) 体調が悪い |
| 9) 人と関わるのが苦手だから | | |
| 10) その他（具体的に： _____） | | |

問14. あなたは次のことについて、頼れる人はいますか。

(それぞれについて、**あてはまるものすべての数字**に○をつけてください。)

	家族・親族 同居している	家族・親族 同居していない	友人・知人・隣人	おとしより相談 センターなどの 行政窓口	民生委員・ 自治会・町会	歯科医・薬局	かかりつけ医・ ホームヘルパー・ ケアマネジャー	頼れる人は いない
・自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	1	2	3	4	5	6	7	8
・重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	1	2	3	4	5	6	7	8
・健康、介護に関する相談に乗ってもらう	1	2	3	4	5	6	7	8
・愚痴を聞いてもらう	1	2	3	4	5	6	7	8
・災害時に手助けをしてもらう	1	2	3	4	5	6	7	8
・さみしいときに話し相手になってもらう	1	2	3	4	5	6	7	8
・仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	1	2	3	4	5	6	7	8

問15. あなたは、10年前に比べて、人づきあいの頻度が変化しましたか。(○はひとつ)

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 1) かなり増えた | 2) 増えた | 3) あまり変わらない |
| 4) 減った | 5) かなり減った | |

問16. あなたが不安に感じていることはなんですか。具体的に書いてください。

不安に感じること

[_____]

以上で質問はすべて終わりです。ご協力いただき、ありがとうございました。

中央区 日常生活の状況に関するアンケート調査の結果

1 調査の目的

中央区内に居住する高齢者の生活状況等の実態について把握し、高齢者が社会的に孤立せず、生きがいを持って生活できるようにするための支援策等に関する検討の基礎資料とする。

2 調査対象

中央区内に居住する 65 歳以上の方のいる世帯 16,706 世帯

3 調査方法

郵送配布－郵送回収

4 調査時期

平成 27 年 7 月 10 日～8 月 10 日

5 回収結果

発送数：16,706

回収数：6,325

回収率：37.9%

6 調査項目

調査項目	問番号	設問
1 高齢者の状況 (基本属性)	問 1	性別
	問 2	年齢
	問 3 ①	居住地域
	問 3 ②	居住年数
	問 3 ③	住まい
	問 3 ④	住まいの中の困りごと
	問 4 ①	世帯の構成人数
	問 4 ②	同居者の続柄
	問 4 ③	婚姻状況
	問 4 ④	現在の構成人数になってからの年数
	問 5 ①	暮らし向き(経済状況)
	問 5 ②	収入源
	問 5 ③	収入源の割合
2 人づきあいと 健康	問 6	健康状態
	問 7	介護保険の認定状況
	問 8 ①	外出の程度
	問 8 ②	外出先
	問 8 ③	外出する際の移動手段
	問 9	近所づきあいの程度
3 人づきあいと 社会参加	問 10	人と話をする頻度
	問 11	家庭生活や地域生活に対する意識
	問 12	家庭や地域での役割
	問 13 ①	地域活動への参加状況
	問 13 ②	参加している地域活動の内容
	問 13 ③	地域活動に関する情報入手の方法
4 孤立防止	問 13 ④	参加してみたい地域活動(自由記述)
	問 13 ⑤	地域活動に参加しない理由
	問 14	頼れる人の有無
	問 15	人づきあいの頻度の変化
	問 16	現在不安に感じていること(自由記述)

7 調査の結果

【調査結果の見方】

- ・回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN(Number of case)、それ以外の場合にはnと表記している。
- ・％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100.0％にならない場合がある。
- ・年代別の集計などでは、無回答の方がいる場合など、合計が全体と一致しないことがある。
- ・複数回答は、％の合計が100％を超えることがある。

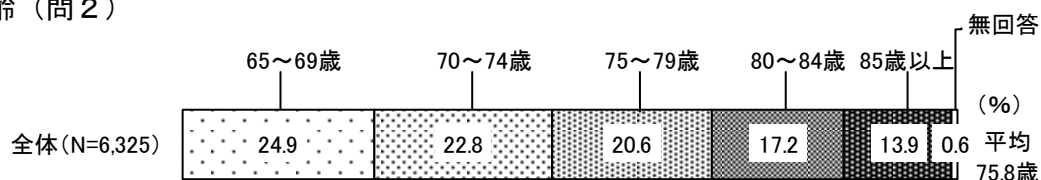
7-1 高齢者の状況

- ・回答者は「男性」47.5％、「女性」52.3％。平均年齢は75.8歳。
- ・居住地域は「月島地域」が46.6％で最も多い。
- ・居住年数は「20年以上」が54.8％と最も多く、平均居住年数は32.2年。
- ・住まいは、「集合住宅（分譲）」34.2％、「戸建て（持家）」30.4％など。集合住宅では「10～14階建」が47.4％で最も多く、居住階数は「5～9階」が36.4％で最も多い。
- ・住まいの困りごとの上位3位は「掃除」17.3％、「階段の昇り降り」14.2％、「食事づくり」12.7％など。「その他」の記載で主なものは、老朽化、狭い、エレベーターが少ない、地震対策、家具の移動、高所の作業、買い物、収納・片づけ、騒音など。
- ・世帯の構成人数は「1人」34.3％、「2人」40.5％など。同居者の続柄は「配偶者」67.1％、「子ども」42.8％など。婚姻状況は「既婚」42.4％、「死別」30.9％など。現在の構成人数になってからの年数は平均18.5年。
- ・暮らし向きは、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」49.6％。
- ・収入源は「年金」5.6割、「給与や家賃収入等の所得」2.3割など。

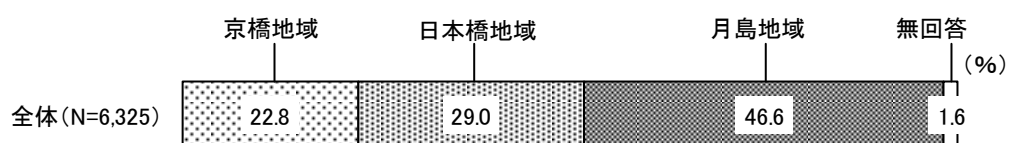
（1）性別（問1）



（2）年齢（問2）



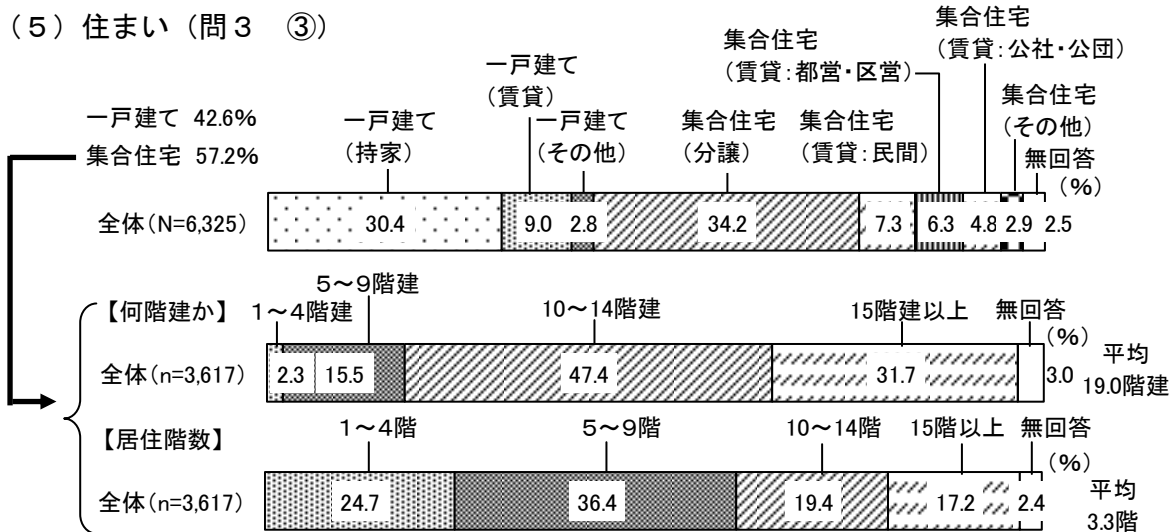
（3）居住地域（問3 ①）



(4) 居住年数 (問3 ②)

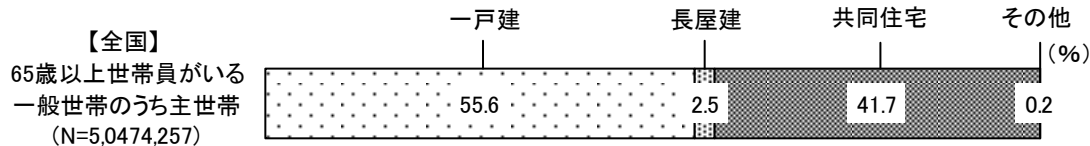


(5) 住まい (問3 ③)



◆全国調査との比較: 住宅の建て方 (65歳以上世帯員がいる世帯)

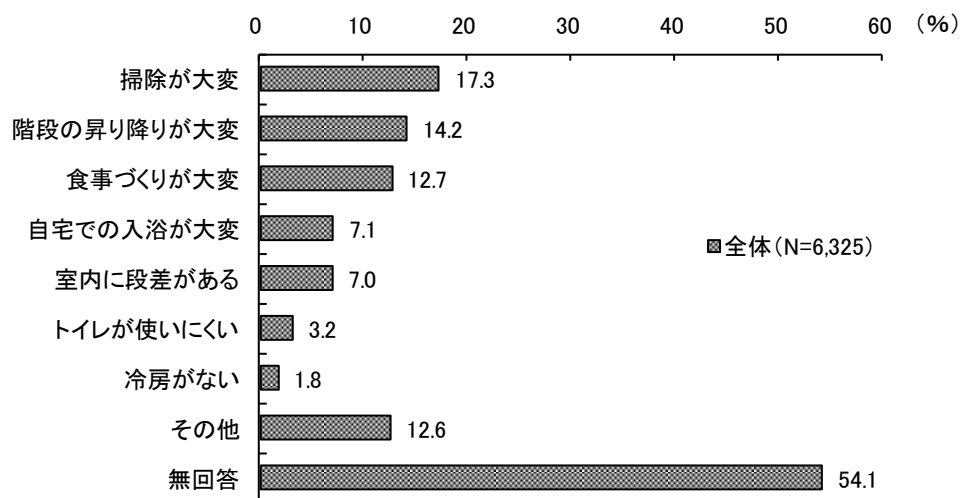
全国調査と比べ、中央区は一戸建ての割合が低く、集合住宅の割合が高い。



※主世帯＝「間借り」以外の次の5区分(持ち家、公営の借家、都市再生機構・公社の借家、民営の借家、給与住宅)に居住する世帯。延べ面積不詳を除く。

資料: 平成22年 国勢調査

(6) 住まいの中の困りごと (問3 ④) ※複数回答

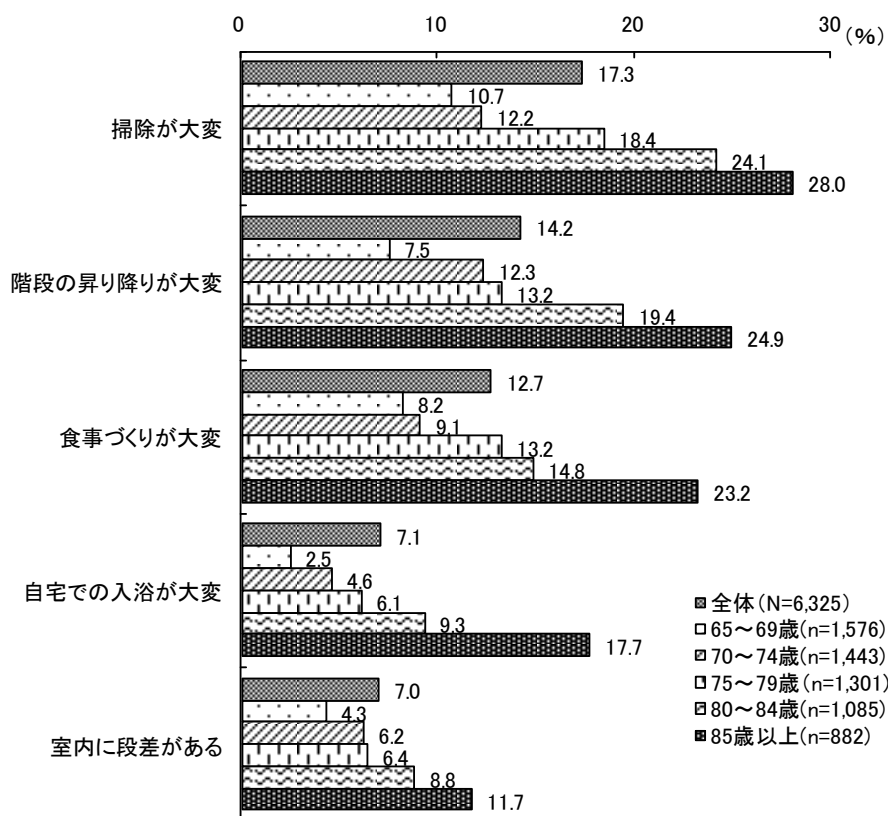


【「その他」の主な内容 (順不同)】

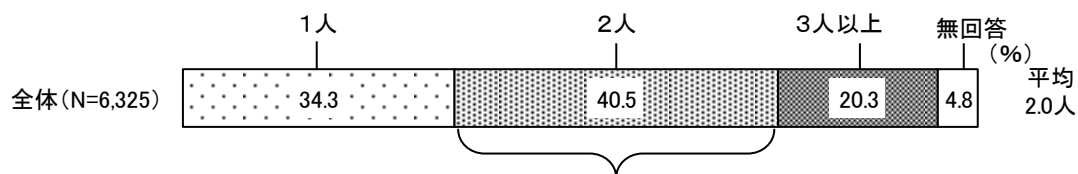
老朽化、狭い、エレベータが少ない、地震対策、家具の移動、高所の作業 (電球交換、換気扇の掃除、窓拭き等) 買い物、収納・片づけ、騒音など

◇年齢別：住まいの中の困りごと(問3 ④)※複数回答

上位5位の項目では、年代が上がるほど、困っている人の割合が増えている。



(7) 世帯の構成人数 (問4 ①)



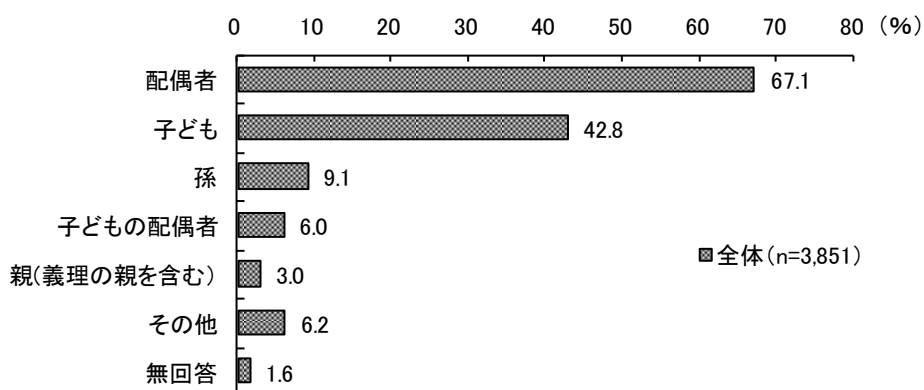
【世帯類型別】

全体 (N=6,325)

夫婦のみ世帯 (n=1,777) 28.1%

本人と親世帯 (n=35) 0.6%

(8) 同居者の続柄 (問4 ②) ※複数回答

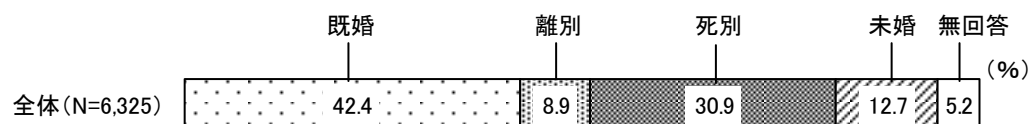


(9) 婚姻状況 (問4 ③)

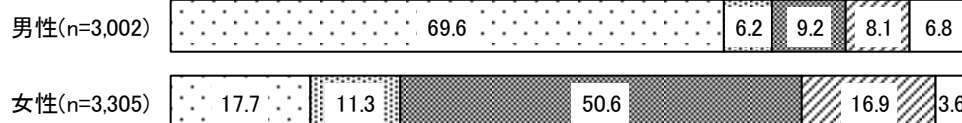
◇男女別、年齢別：婚姻状況 (問4 ③)

男性は「既婚」、女性は「死別」が最も多い。

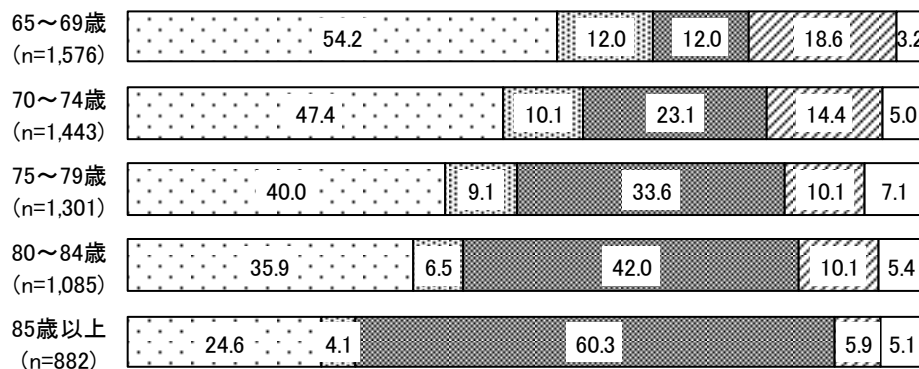
ただし、一世帯で1名のみ回答という形式の調査のため、実態とずれが生じている可能性がある。



【男女別】

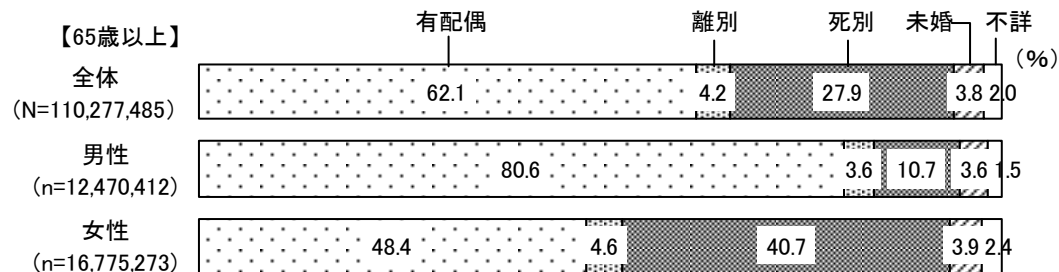


【年齢別 (5区分)】



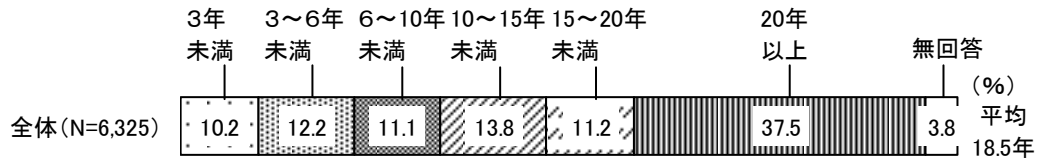
◆全国調査との比較：高齢者の配偶関係別の割合 (65 歳以上)

全国調査と比べ、中央区調査では、既婚（有配偶）の割合が低く、離別・死別・未婚の割合が高い。



資料：平成 22 年 国勢調査

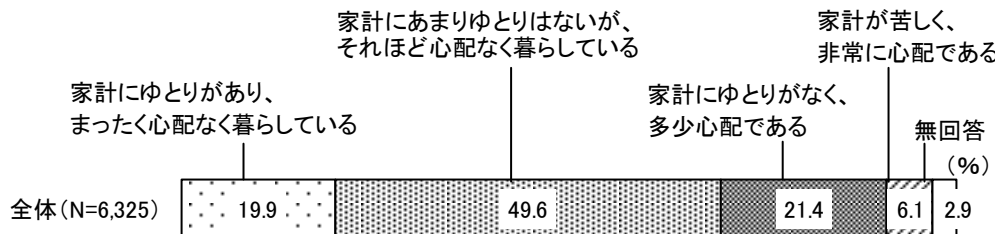
(10) 現在の構成人数になってからの年数 (問4 ④)



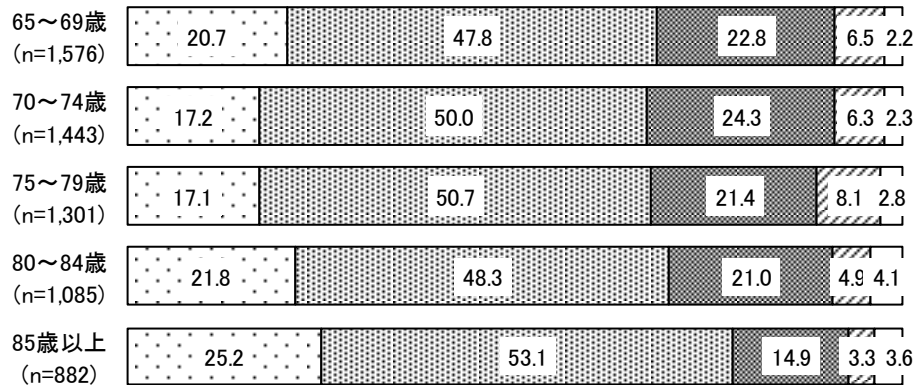
(11) 暮らし向き (経済状況) (問5 ①)

◇年齢別: 暮らし向き (経済状況) (問5 ①)

65～69歳、70～74歳、75～79歳は、<ゆとりがない> (「家計にゆとりがなく、多少心配である」と「家計が苦しく、非常に心配である」の合計) が3割程度となっている。

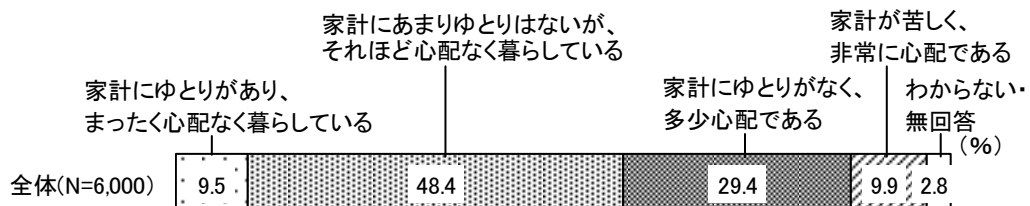


【年齢別(5区分)】



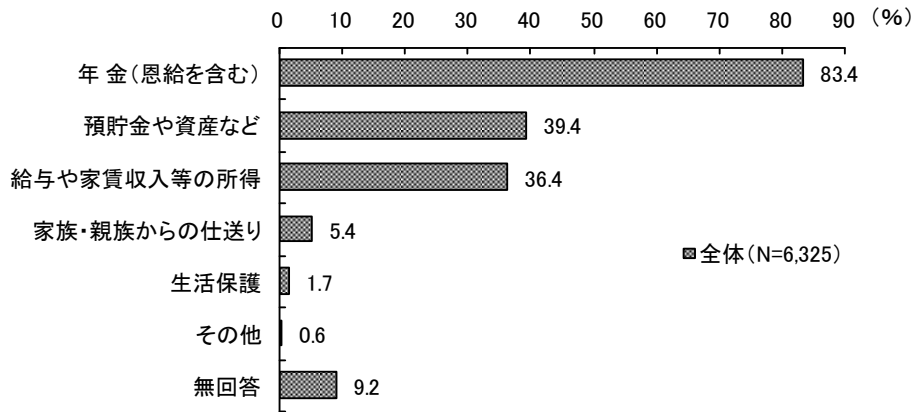
◆全国調査との比較: 経済的な暮らし向き

全国調査と比べ、中央区調査では「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」が10.4ポイント高い。



資料: 平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査(内閣府)※
本調査は60歳以上の男女を対象としている。

(12) 収入源（問5 ②）※複数回答

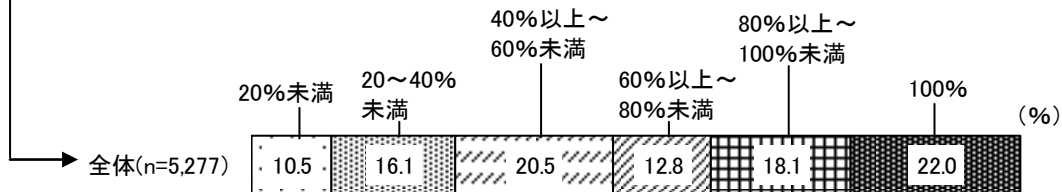


(13) 収入源の割合（問5 ③）

【全体 (N=6,325)】※各項目の平均

(ア) 年金（恩給を含む）	→ 5.6割
(イ) 預貯金や資産など	→ 1.5割
(ウ) 給与や家賃収入等の所得	→ 2.3割
(エ) それ以外	→ 0.6割

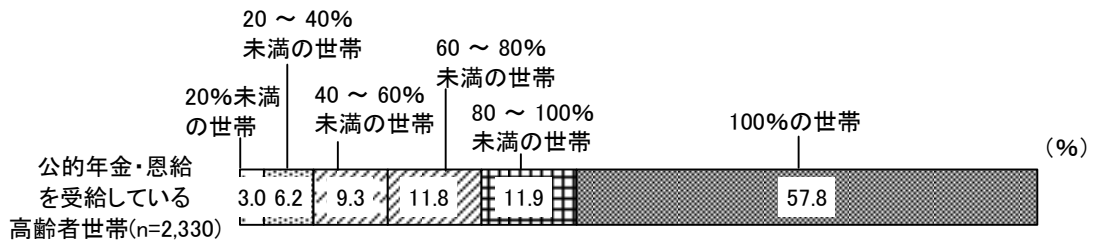
【世帯の収入源のうち、年金(恩給を含む)が占める割合(中央区)】



※0割、無回答を除く。

◆全国調査との比較:高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合

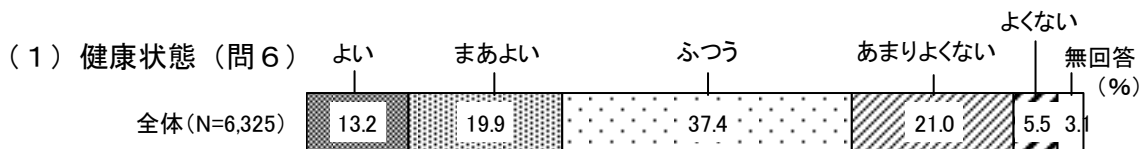
全国調査では、公的年金・恩給の総所得に占める割合が100%の高齢者世帯は57.8%、中央区調査では22.0%となっている。



資料:平成24年 国民生活基礎調査(厚生労働省)
※本調査における平成23年1年間の所得。福島県を除く。

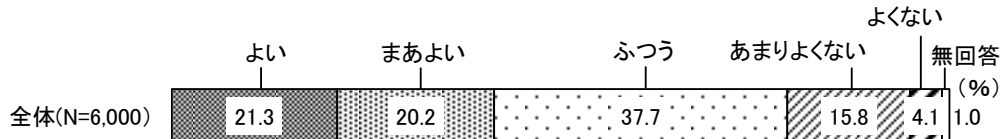
7-2 人づきあいと健康

- ・健康状態は「ふつう」37.4%。＜よい（よい、まあよい）＞は33.1%、＜よくない（あまりよくない、よくない）＞は26.5%。
- ・介護保険の認定状況は、回答者本人は15.1%（要支援1：21.8%、要支援2：19.8%、要介護1：16.6%などの順）。回答者以外は10.4%（要介護3：18.0%、要介護1：16.2%、要介護2：15.7%などの順）。
- ・外出頻度は「ほとんど毎日」が50.9%。
- ・外出先は「スーパー・コンビニ」、「病院、デパート」、「近隣にある商店」など。「その他」では、仕事（自営業）、デイサービス、図書館、趣味の習い事など。
- ・外出の移動手段は「徒歩」78.0%、「電車」49.8%、「路線バス・江戸バス」48.4%。
- ・近所づきあいは「あいさつをする程度」56.7%、「親しくつきあっている」26.0%など。
- ・人と話をする頻度は、「毎日」が75.5%。



◆全国調査との比較：健康状態

全国調査と比べ、中央区調査では、「よい」が8.1ポイント低く、「あまりよくない」が5.2ポイント高い。



資料：平成26年度 高齢者の日常生活に関する意識調査（内閣府）
※本調査は60歳以上の男女を対象としている。

(2) 介護保険の認定状況（問7）

	上段：実数、下段：%		
	介護認定を受けている	介護認定を受けていない	無回答
あなた(N=6,325)	953	4,450	922
	15.1	70.4	14.6
あなた以外の方(n=3,851)	401	2,555	895
※複数回答	10.4	66.3	23.2

「介護認定を受けている」の内訳

	要支援		要介護					介護度不明
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
あなた(n=953)	208	189	158	139	99	71	41	48
	21.8	19.8	16.6	14.6	10.4	7.5	4.3	5.0
あなた以外の方(n=401)	51	46	65	63	72	43	43	24
※複数回答	12.7	11.5	16.2	15.7	18.0	10.7	10.7	6.0

※「あなた以外の方」は、2人以上の世帯について集計している。

※「あなた以外の方」の「介護度不明」の人数の内訳は、下記のとおり。

- ①要介護認定を「受けている」が、要支援または要介護に○がなく、介護度が無回答(20件)
 - ②要介護認定を「受けている」に○、要支援に○、要介護は無回答で、介護度が無回答(3件)
 - ③要介護認定を「受けている」に○、要支援に○(介護度は無回答)、要介護に○(要介護5)をつけている(1件)
- なお、③は、要支援(介護度不明)は「介護度不明」、要介護(要介護5)は「要介護5」として集計している。

※「あなた以外の方」は、複数回答のため、回答の合計は100%にならない。

(3) 外出の程度 (問8 ①)

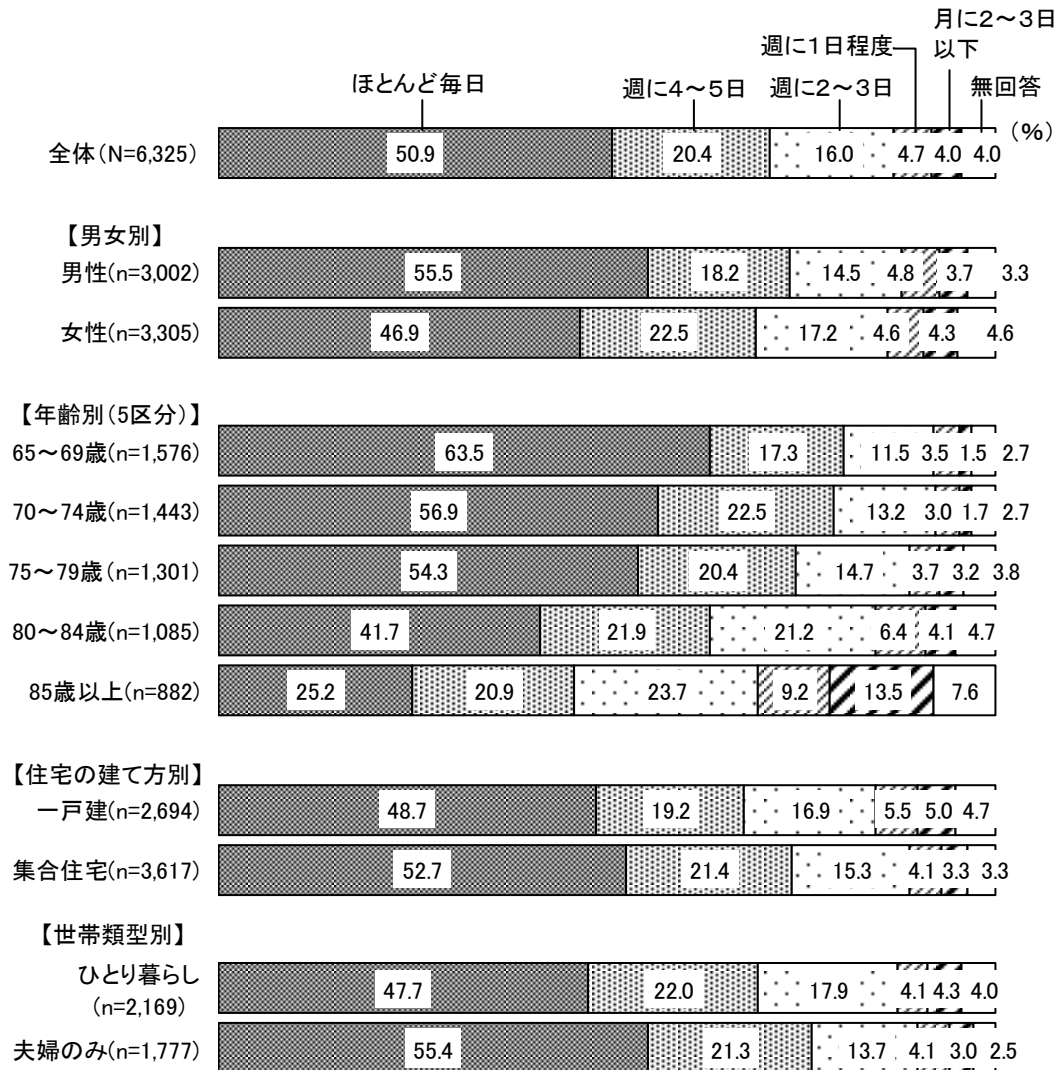
◇男女別、年齢別、住宅の建て方別：外出の程度(問8 ①)

女性より男性の方が、外出頻度が高い。

年齢が上がるほど、外出頻度が下がる傾向がある。

一戸建より集合住宅の方が外出頻度が高い。

全体と比べ、ひとり暮らしの外出頻度は若干低く、夫婦のみ世帯の外出頻度は若干高い。



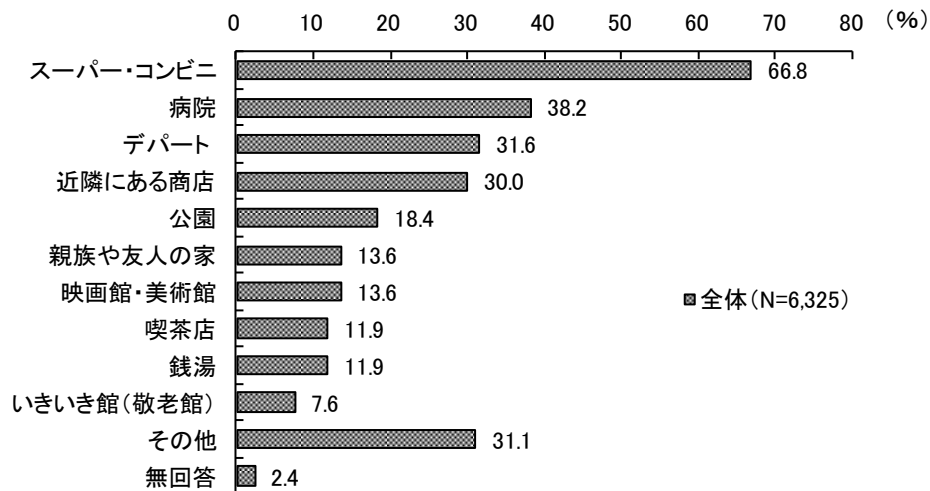
◆全国調査との比較：外出程度

全国調査と比べ、中央区調査では「ほぼ毎日」が 10.9 ポイント高い。



資料：平成 26 年度 高齢者の日常生活に関する意識調査(内閣府)
※本調査は 60 歳以上の男女を対象としている。

(4) 外出先 (問8 ②) ※複数回答



【「その他」の主な内容 (順不同)】

仕事 (自営業)、会合・会議、病院の見舞い、デイサービス、マッサージ、スポーツ施設、図書館、書店、博物館、劇場、趣味の習い事、カラオケ、パチンコ、外食 (レストラン)、理・美容院、散歩、寺院、旅行、ボランティア など

◇男女別：外出先 (問8 ②) ※複数回答

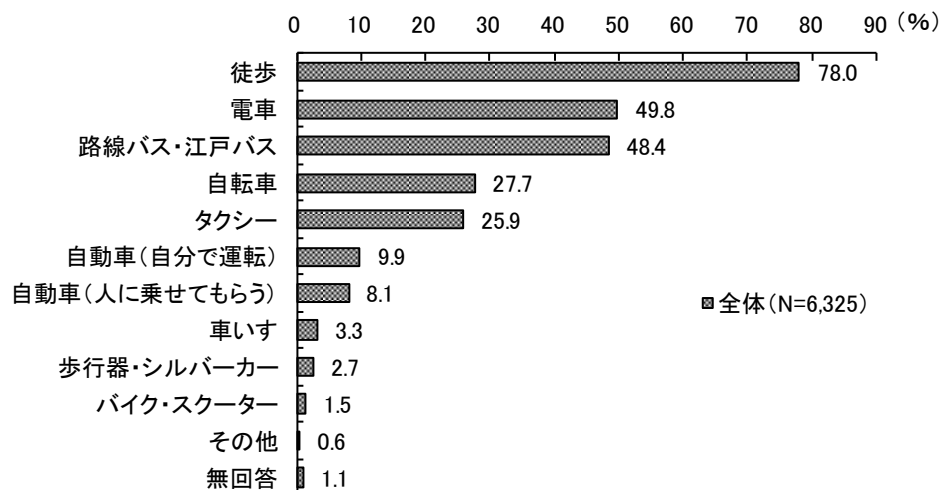
男性は「公園」、女性は「デパート」、「スーパー・コンビニ」で、全体より5ポイント以上高い。

女性より男性の方が高い項目は、「公園」、「喫茶店」、「銭湯」、「その他」である。

													(%)
		デパート	スーパー・コンビニ	近隣にある商店	病院	公園	親戚や友人の家	喫茶店	映画館・美術館	いきいき館（敬老館）	銭湯	その他	無回答
全 体(N=6,325)		31.6	66.8	30.0	38.2	18.4	13.6	11.9	13.6	7.6	11.9	31.1	2.4
男女別	男性(n=3,002)	22.1	60.4	25.7	33.1	25.2	8.7	12.5	10.7	5.2	13.1	35.0	2.9
	女性(n=3,305)	40.2	72.8	33.8	42.9	12.3	18.1	11.4	16.3	9.8	10.9	27.7	1.9

0.0 太字・太枠は、全体より5ポイント以上高い項目

(5) 外出する際の移動手段 (問8 ③) ※複数回答



(6) 近所づきあいの程度 (問9)

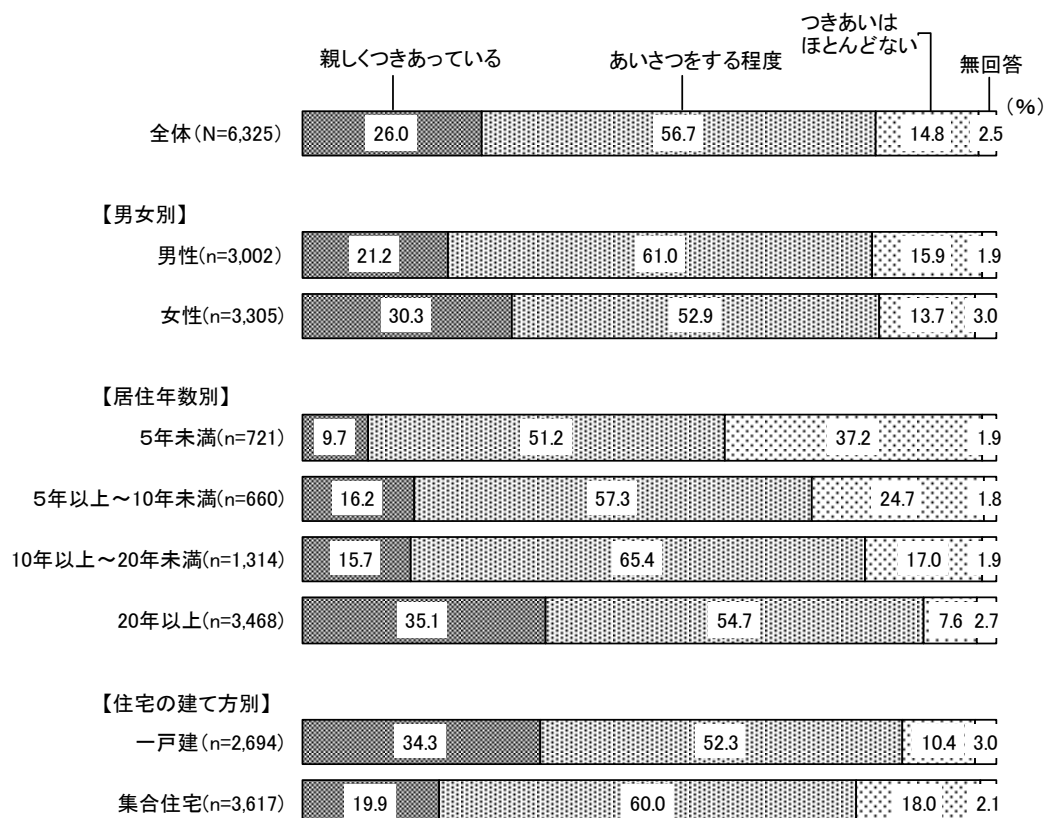
◇男女別、居住年数別、住宅の建て方別：近所づきあいの程度(問9)

女性は男性より「親しくつきあっている」の割合が高い。

居住年数別にみると、「つきあいはほとんどない」は、全体と比べて5年未満は22.4ポイント、5年以上～10年未満は9.9ポイント高い。居住年数が長くなるほど「つきあいはほとんどない」の割合は減少する傾向にある。

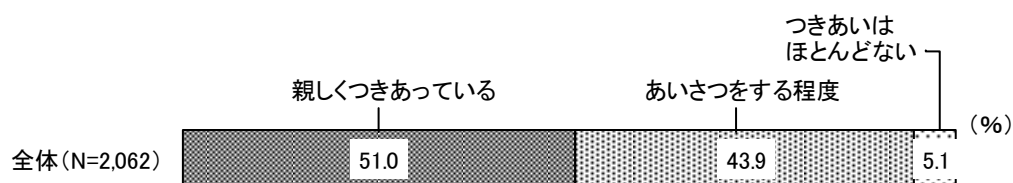
一戸建は「親しくつきあっている」が全体より8.3ポイント高い。

集合住宅は「親しくつきあっている」が全体より6.1ポイント低い。



◆全国調査との比較：近所づきあいの程度

全国調査と比べ、中央区調査では「親しくつきあっている」が25.0ポイント低く、「あいさつをする程度」が12.8ポイント、「つきあいはほとんどない」が9.7ポイント高い。



資料：平成22年 高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査(内閣府)
※本調査は60歳以上の男女を対象としている。

(7) 人と話をする頻度 (問 10)

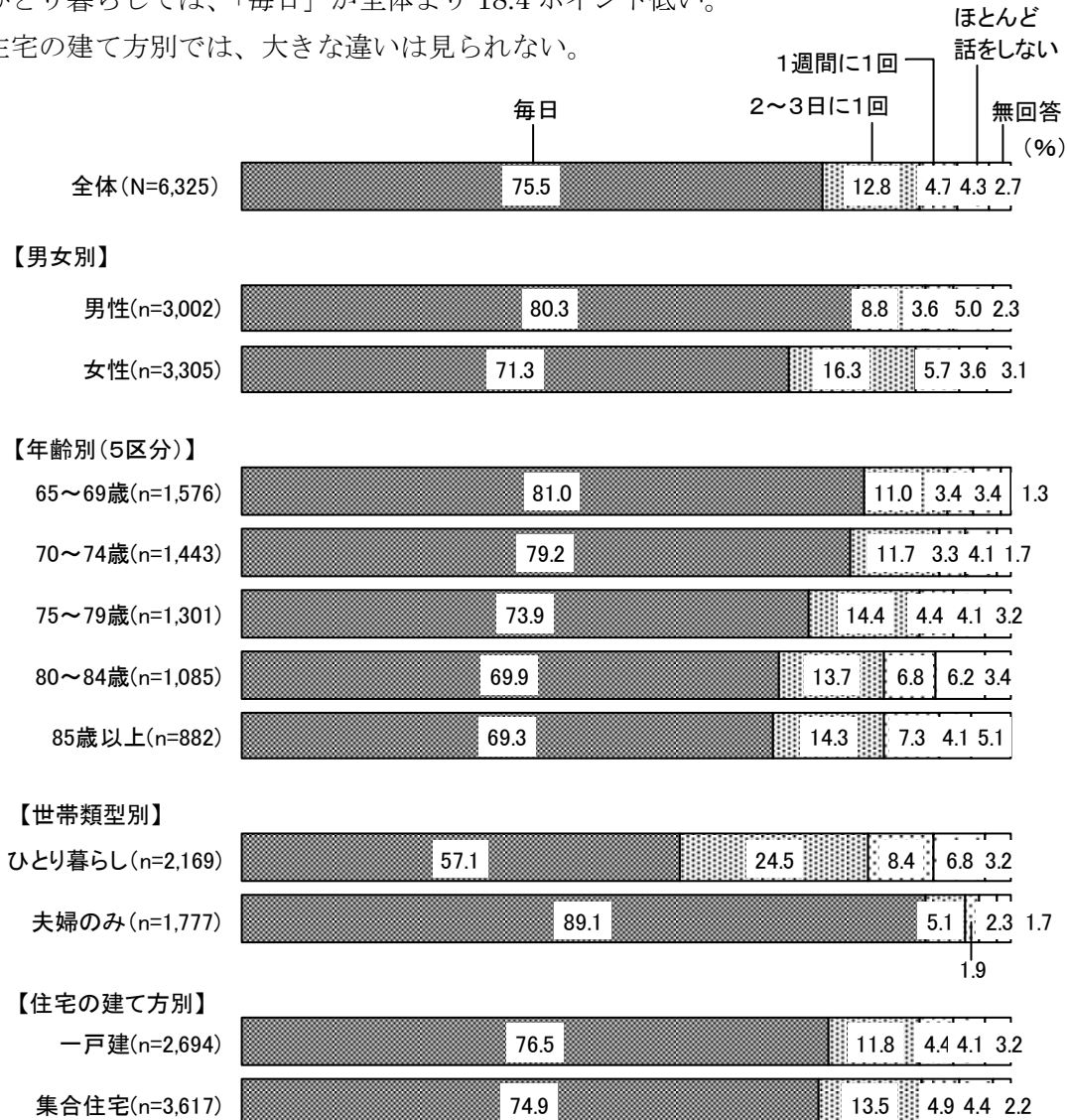
◇世帯類型別: 人と話をする頻度(問 10)

男性は女性より人と話す頻度が高い。

年齢が上がるほど、人と話す頻度は低くなる傾向がある。

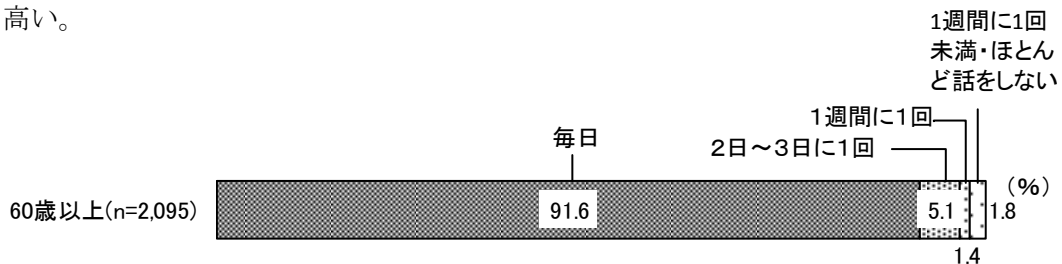
ひとり暮らしでは、「毎日」が全体より 18.4 ポイント低い。

住宅の建て方別では、大きな違いは見られない。



◆全国調査との比較: 人と話をする頻度

全国調査と比べ、中央区調査では「毎日」が 16.1 ポイント低く、「2~3日に1回」は 7.7 ポイント高い。

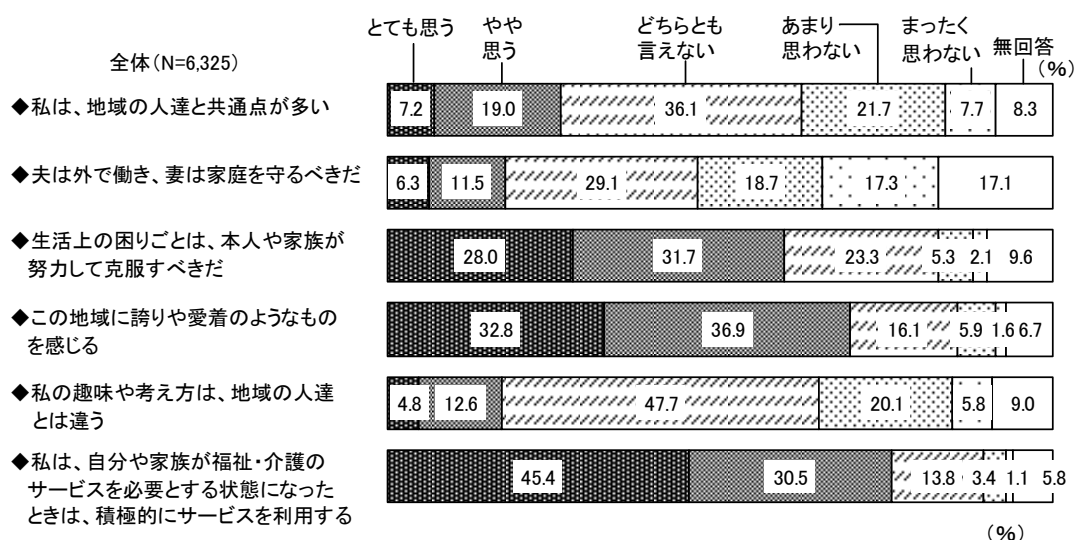


資料: 平成 23 年 高齢者の経済生活に関する意識調査 (内閣府)
 ※本調査は 55 歳以上の男女を対象としている。会話の頻度には、電話やEメールも含む。

7-3 人づきあいと社会参加

- ・家庭生活や地域生活について、肯定（とても思う・やや思う）が多い項目は、「私は、自分や家族が福祉・介護のサービスを必要とする状態になったときは、積極的にサービスを利用する」75.9%、「この地域に誇りや愛着のようなものを感じる」69.6%、「生活上の困りごとは、本人や家族が努力して克服すべきだ」59.7%の3項目。一方、否定（あまり思わない・まったく思わない）が多い項目は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」36.0%、「私は、地域の人達と共通点が多い」29.4%、「私の趣味や考え方は、地域の人達とは違う」25.9%の3項目。
- ・家庭や地域での役割は「家事全般」43.9%、「収入のともなう仕事」27.1%など。
- ・地域活動に＜参加している（「よく参加している」、「ときどき参加している」）＞は36.6%。参加している地域活動の内容は「祭り等のイベント」44.7%、「高齢者クラブや自治会・町会等での近隣住民との交流の場」43.1%など。参加してみたい地域活動の自由記述では、同年代・世代間・外国人等との交流活動、自分の知識や経験を活かせる活動、IT能力の向上に関する活動等の記載も見られる。
- ・地域活動に関する情報の入手先は「区のお知らせ中央」82.0%、「回覧板・掲示板」51.6%、「近所の人、友人・知人」49.7%など。
- ・地域活動に＜参加していない（「あまり参加しない」、「ほとんど参加していない」）＞は59.3%。参加しない理由は、「きっかけがない」22.7%、「興味があるものがない」22.1%など。その他の理由では、仕事をしている、趣味やスポーツ等で忙しい、地域外で活動している、高齢である、介護を受けている、歩けない、目が悪い、体力的に無理がある、配偶者が参加している、めんどろ、転居して日が浅い、など。

（1）家庭生活や地域生活に対する意識（問11）



	肯定※	否定※
◆私は、地域の人達と共通点が多い	26.2	29.4
◆夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	17.8	36.0
◆生活上の困りごとは、本人や家族が努力して克服すべきだ	59.7	7.4
◆この地域に誇りや愛着のようなものを感じる	69.6	7.5
◆私の趣味や考え方は、地域の人達とは違う	17.5	25.9
◆私は、自分や家族が福祉・介護のサービスを必要とする状態になったときは、積極的にサービスを利用する	75.9	4.5

※肯定は「とても思う」と「やや思う」の計。否定は「あまり思わない」と「まったく思わない」の計。

※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。

◇男女別、年齢別、地域別、居住年数別、住宅の建て方別、世帯類型別、暮らし向き別：家庭生活や地域生活に対する意識(問 11)

◆私は、地域の人達と共通点が多い

居住年数が長いほど＜肯定＞が増える。一戸建は＜肯定＞、集合住宅は＜否定＞が多い。

		(%)	
		肯定	否定
全	体(N=6,325)	26.2	29.4
男女別	男性(n=3,002)	26.4	30.5
	女性(n=3,305)	25.8	28.4
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	24.9	31.1
	後期高齢者(n=3,268)	27.4	27.9
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	23.5	32.6
	70～74歳(n=1,443)	26.3	29.5
	75～79歳(n=1,301)	27.0	29.4
	80～84歳(n=1,085)	28.4	26.0
	85歳以上(n=882)	26.9	28.1
地域別	京橋地域(n=1,442)	26.8	28.4
	日本橋地域(n=1,832)	29.4	28.5
	月島地域(n=2,950)	24.1	30.4
居住年数別	5年未満(n=721)	※13.0	41.3
	5年以上～10年未満(n=660)	※19.5	38.9
	10年以上～20年未満(n=1,314)	※19.5	35.0
	20年以上(n=3,468)	32.7	※23.3
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	32.3	25.6
	集合住宅(n=3,617)	21.7	32.3
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	22.9	33.1
	夫婦のみ(n=1,777)	28.0	27.7
	(2人)本人と親(n=35)	※11.4	51.4
	(2人)本人と子ども(n=504)	26.2	28.6
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	22.2	※22.2
	(2人)本人と孫(n=20)	30.0	35.0
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	24.4	38.8
	(3人以上)その他(n=1,269)	30.6	25.3
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	29.0	26.5
	余裕がない(n=1,741)	※20.2	37.9

※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。
※太字・太枠は、全体より5ポイント以上多い項目。
※赤字・※印は、全体より5ポイント以上低い項目。

◆夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

年齢別（5区分）の85歳以上を除き、＜否定＞が多い。

		(%)	
		肯定	否定
全	体(N=6,325)	17.8	36.0
男女別	男性(n=3,002)	22.0	35.5
	女性(n=3,305)	13.9	36.5
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	15.2	44.2
	後期高齢者(n=3,268)	20.3	※28.4
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	15.2	49.2
	70～74歳(n=1,443)	15.2	38.7
	75～79歳(n=1,301)	17.7	34.0
	80～84歳(n=1,085)	19.8	※27.3
	85歳以上(n=882)	24.6	※21.5
地域別	京橋地域(n=1,442)	17.5	35.5
	日本橋地域(n=1,832)	18.4	37.0
	月島地域(n=2,950)	17.7	36.0
居住年数別	5年未満(n=721)	17.9	39.5
	5年以上～10年未満(n=660)	16.5	40.0
	10年以上～20年未満(n=1,314)	17.3	40.3
	20年以上(n=3,468)	18.3	33.7
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	18.9	31.6
	集合住宅(n=3,617)	17.0	39.3
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	14.0	35.8
	夫婦のみ(n=1,777)	22.8	39.6
	(2人)本人と親(n=35)	※2.9	42.9
	(2人)本人と子ども(n=504)	14.9	35.5
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	-	※11.1
	(2人)本人と孫(n=20)	※5.0	35.0
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	15.6	32.5
	(3人以上)その他(n=1,269)	20.9	35.3
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	18.8	36.8
	余裕がない(n=1,741)	16.0	35.9

※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。
※太字・太枠は、全体より5ポイント以上多い項目。
※赤字・※印は、全体より5ポイント以上低い項目。

◆生活上の困りごとは、本人や家族が努力して克服すべきだ

男性、夫婦のみ世帯では＜肯定＞の割合が全体より５ポイント以上高い。

		(%)	
		肯定	否定
全	体(N=6,325)	59.7	7.4
男女別	男性(n=3,002)	65.6	6.2
	女性(n=3,305)	※54.5	8.5
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	58.3	9.1
	後期高齢者(n=3,268)	61.1	5.8
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	56.2	10.9
	70～74歳(n=1,443)	60.6	7.3
	75～79歳(n=1,301)	60.8	7.1
	80～84歳(n=1,085)	62.6	4.7
	85歳以上(n=882)	59.9	5.4
地域別	京橋地域(n=1,442)	60.5	6.9
	日本橋地域(n=1,832)	61.1	6.8
	月島地域(n=2,950)	58.8	8.0
居住年数別	5年未満(n=721)	58.4	8.5
	5年以上～10年未満(n=660)	60.6	8.8
	10年以上～20年未満(n=1,314)	59.1	7.9
	20年以上(n=3,468)	60.5	6.9
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	60.5	6.4
	集合住宅(n=3,617)	59.2	8.2
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	※53.0	8.7
	夫婦のみ(n=1,777)	67.3	6.6
	(2人)本人と親(n=35)	60.0	5.7
	(2人)本人と子ども(n=504)	58.5	6.2
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	55.6	11.1
	(2人)本人と孫(n=20)	※50.0	-
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	55.6	11.3
	(3人以上)その他(n=1,269)	65.9	6.6
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	63.1	6.8
	余裕がない(n=1,741)	※54.1	9.3

※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。
※太字・太枠は、全体より５ポイント以上多い項目。
※赤字・※印は、全体より５ポイント以上低い項目。

◆この地域に誇りや愛着のようなものを感じる

京橋地域と日本橋地域、居住年数 20 年以上では、＜肯定＞が全体より５ポイント以上高い。

		(%)	
		肯定	否定
全	体(N=6,325)	69.6	7.5
男女別	男性(n=3,002)	69.5	8.4
	女性(n=3,305)	69.9	6.7
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	71.1	7.8
	後期高齢者(n=3,268)	68.4	7.3
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	71.5	7.8
	70～74歳(n=1,443)	70.7	7.8
	75～79歳(n=1,301)	69.5	7.8
	80～84歳(n=1,085)	68.6	6.7
	85歳以上(n=882)	66.4	7.4
地域別	京橋地域(n=1,442)	74.8	6.7
	日本橋地域(n=1,832)	74.9	5.7
	月島地域(n=2,950)	※64.6	9.0
居住年数別	5年未満(n=721)	※53.4	14.6
	5年以上～10年未満(n=660)	※62.0	10.8
	10年以上～20年未満(n=1,314)	67.9	8.3
	20年以上(n=3,468)	75.7	5.2
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	72.8	6.1
	集合住宅(n=3,617)	67.5	8.7
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	66.9	8.7
	夫婦のみ(n=1,777)	72.3	7.1
	(2人)本人と親(n=35)	65.7	8.6
	(2人)本人と子ども(n=504)	69.4	7.1
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	66.7	-
	(2人)本人と孫(n=20)	85.0	-
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	73.1	10.6
	(3人以上)その他(n=1,269)	72.0	6.4
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	73.6	6.3
	余裕がない(n=1,741)	※62.4	10.9

※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。
※太字・太枠は、全体より５ポイント以上多い項目。
※赤字・※印は、全体より５ポイント以上低い項目。

◆私の趣味や考え方は、地域の人達とは違う

本人とその他の続柄では、＜肯定＞が全体より5ポイント以上高い。

		(%)	
		肯定	否定
全	体(N=6,325)	17.5	25.9
男女別	男性(n=3,002)	19.3	24.0
	女性(n=3,305)	15.8	27.7
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	17.0	26.9
	後期高齢者(n=3,268)	17.9	24.9
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	16.4	26.8
	70～74歳(n=1,443)	17.6	27.0
	75～79歳(n=1,301)	19.2	25.7
	80～84歳(n=1,085)	17.5	25.2
	85歳以上(n=882)	16.6	23.5
地域別	京橋地域(n=1,442)	17.6	26.9
	日本橋地域(n=1,832)	18.1	26.1
	月島地域(n=2,950)	17.2	25.3
居住年数別	5年未満(n=721)	16.1	25.1
	5年以上～10年未満(n=660)	18.5	23.3
	10年以上～20年未満(n=1,314)	17.5	25.2
	20年以上(n=3,468)	17.8	27.0
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	17.9	25.5
	集合住宅(n=3,617)	17.1	26.2
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	17.9	25.4
	夫婦のみ(n=1,777)	17.1	26.1
	(2人)本人と親(n=35)	17.1	※17.1
	(2人)本人と子ども(n=504)	17.9	27.0
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	22.2	※11.1
	(2人)本人と孫(n=20)	※10.0	45.0
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	23.1	23.1
	(3人以上)その他(n=1,269)	15.8	28.0
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	17.3	28.1
	余裕がない(n=1,741)	18.5	21.5

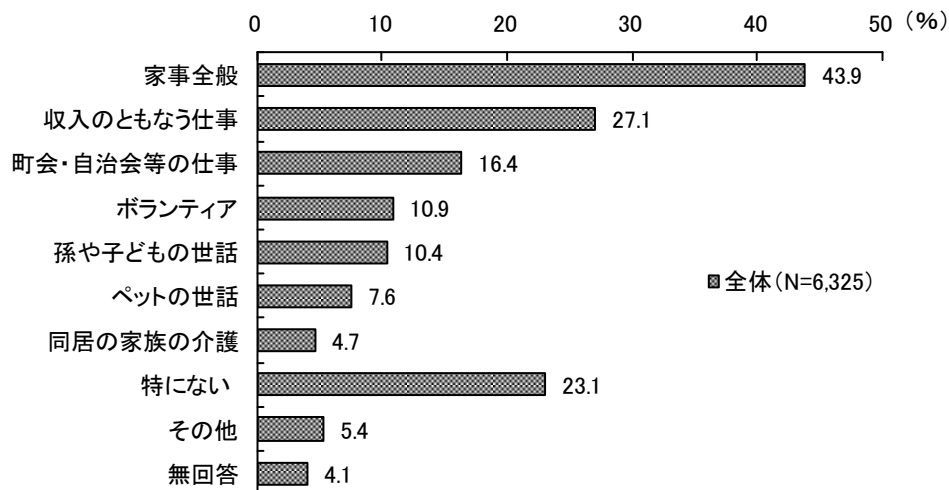
※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。
※太字・太枠は、全体より5ポイント以上多い項目。
※赤字・※印は、全体より5ポイント以上低い項目。

◆私は、自分や家族が福祉・介護のサービスが必要とする状況になったときは、積極的にサービスを利用する いずれも＜肯定＞が＜否定＞より多く、あまり違いが見られない。

		(%)	
		肯定	否定
全	体(N=6,325)	75.9	4.5
男女別	男性(n=3,002)	73.9	5.2
	女性(n=3,305)	77.7	3.9
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	77.2	4.1
	後期高齢者(n=3,268)	74.7	4.8
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	78.4	3.7
	70～74歳(n=1,443)	76.0	4.6
	75～79歳(n=1,301)	75.5	5.2
	80～84歳(n=1,085)	75.9	4.1
	85歳以上(n=882)	72.2	5.2
地域別	京橋地域(n=1,442)	77.7	4.9
	日本橋地域(n=1,832)	75.5	4.0
	月島地域(n=2,950)	75.9	4.5
居住年数別	5年未満(n=721)	74.1	4.6
	5年以上～10年未満(n=660)	76.1	5.0
	10年以上～20年未満(n=1,314)	75.3	4.9
	20年以上(n=3,468)	77.1	4.2
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	74.2	5.0
	集合住宅(n=3,617)	77.3	4.1
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	73.0	5.5
	夫婦のみ(n=1,777)	78.4	3.7
	(2人)本人と親(n=35)	80.0	8.6
	(2人)本人と子ども(n=504)	79.4	4.4
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	※66.7	11.1
	(2人)本人と孫(n=20)	75.0	—
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	73.1	6.3
	(3人以上)その他(n=1,269)	78.8	3.5
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	77.7	4.3
	余裕がない(n=1,741)	74.0	5.2

※網かけした部分は、肯定、否定のうち、多い方。
※太字・太枠は、全体より5ポイント以上多い項目。
※赤字・※印は、全体より5ポイント以上低い項目。

(2) 家庭や地域での役割 (問 12) ※複数回答



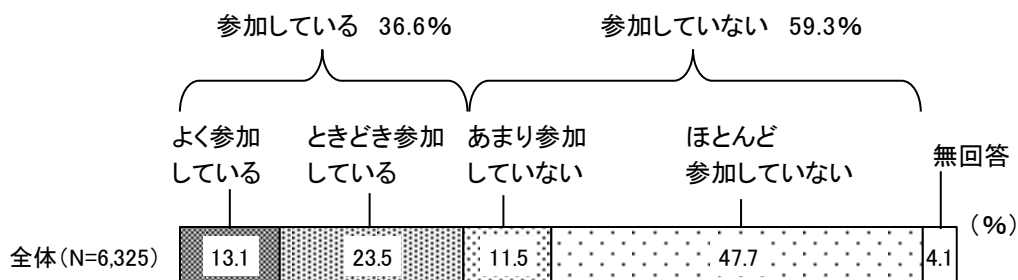
◇男女別、年齢別、地域別、居住年数別、住宅の建て方別、世帯類型別、暮らし向き別：家庭や地域での役割(問 12)

- ・男性は「収入のともなう仕事」、女性は「家事全般」が全体より5ポイント以上高い。
- ・前期高齢者は「収入のともなう仕事」、後期高齢者は「特にない」が全体より5ポイント以上高い。
- ・80～84歳、85歳以上は「特にない」が全体より5ポイント以上高い。
- ・日本橋地域は「収入のともなう仕事」が全体より5ポイント以上高い。
- ・居住年数が20年以上は「町会・自治会等の仕事」が全体より5ポイント以上高い。
- ・「特にない」は、男女別では男性、地域別では月島地域、居住年数別では5年未満および5年以上～10年未満、住宅の建て方別では集合住宅で、全体より高い。

		収入のともなう仕事	家事全般	孫や子どもの世話	同居の家族の介護	町会・自治会等の仕事	ボランティア	ペットの世話	特にない	その他	無回答
全体(N=6,325)		27.1	43.9	10.4	4.7	16.4	10.9	7.6	23.1	5.4	4.1
男女別	男性(n=3,002)	34.2	26.1	8.8	4.9	19.7	11.3	7.5	26.4	4.9	4.0
	女性(n=3,305)	20.6	60.1	12.0	4.5	13.5	10.6	7.7	19.9	5.8	4.2
年齢別(2区分)	前期高齢者(n=3,019)	40.1	47.4	14.1	4.6	18.4	12.8	9.9	16.1	4.5	2.2
	後期高齢者(n=3,268)	14.9	40.9	7.1	4.7	14.6	9.1	5.3	29.4	6.2	5.9
年齢別(5区分)	65～69歳(n=1,576)	45.4	46.5	13.5	4.3	16.5	11.9	11.2	15.2	4.8	2.0
	70～74歳(n=1,443)	34.2	48.4	14.8	4.9	20.5	13.9	8.5	17.0	4.2	2.5
	75～79歳(n=1,301)	19.5	45.7	9.7	3.9	17.5	12.7	7.0	22.3	6.1	5.3
	80～84歳(n=1,085)	14.0	42.8	7.1	5.9	16.1	9.5	5.3	28.3	6.4	5.3
	85歳以上(n=882)	9.2	31.4	3.3	4.5	8.4	3.4	2.9	41.3	6.3	7.4
地域別	京橋地域(n=1,442)	29.6	43.4	9.1	5.6	18.0	11.7	9.1	22.3	4.9	3.3
	日本橋地域(n=1,832)	32.2	44.0	11.4	3.8	21.1	11.1	7.9	20.2	5.6	3.7
	月島地域(n=2,950)	22.8	44.4	10.6	4.8	13.1	10.5	6.6	25.1	5.5	4.4
居住年数別	5年未満(n=721)	25.9	42.4	14.3	2.6	5.5	7.4	7.4	27.7	5.1	4.3
	5年以上～10年未満(n=660)	25.3	42.0	11.2	3.5	7.3	9.4	7.0	27.7	7.3	3.5
	10年以上～20年未満(n=1,314)	28.5	44.8	10.5	4.0	10.1	10.8	8.2	22.3	5.1	2.6
	20年以上(n=3,468)	27.5	44.6	9.5	5.7	22.9	12.1	7.3	21.4	5.3	4.4
住宅の建て方別	一戸建(n=2,694)	28.9	40.9	10.3	5.3	21.0	11.4	8.0	22.3	5.6	4.9
	集合住宅(n=3,617)	25.8	46.3	10.5	4.2	13.1	10.6	7.2	23.6	5.3	3.3

0.0 太字・太枠は、全体より5ポイント以上高い項目 0.0 太字・太点線枠は、全体より高い項目

(3) 地域活動への参加状況 (問 13 ①)



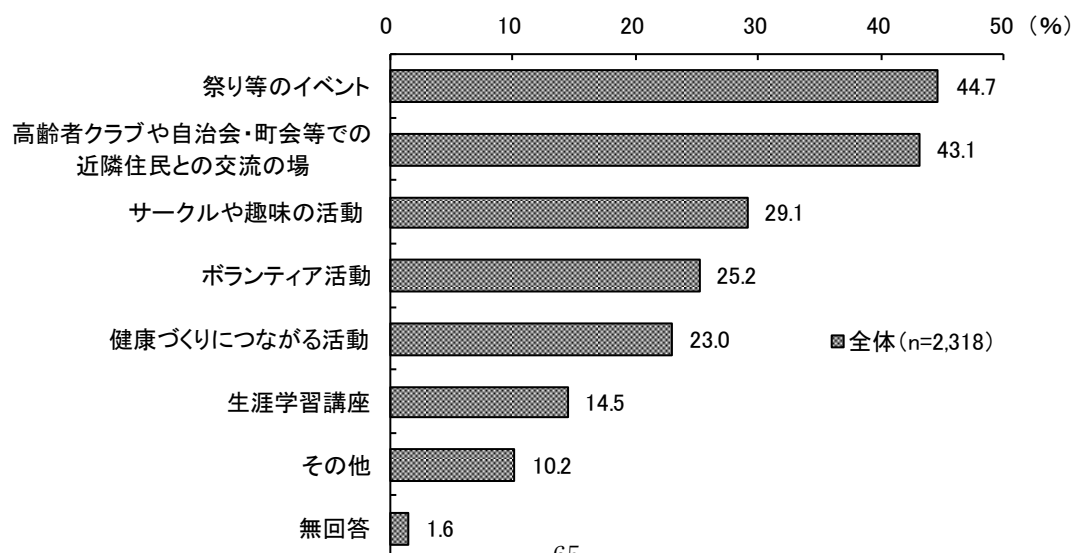
◇居住年数別:地域活動への参加状況(問 13 ①)

居住年数が短いほど、地域活動への参加率は低い。

		(%)	
		参加している (よく参加している+ときどき参加している)	参加していない (あまり参加していない+ほとんど参加していない)
全 体 (N=6,325)		36.6	59.3
男女別	男性(n=3,002)	35.9	61.1
	女性(n=3,305)	37.3	57.6
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	38.8	59.1
	後期高齢者(n=3,268)	34.7	59.4
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	36.9	61.7
	70～74歳(n=1,443)	41.0	56.3
	75～79歳(n=1,301)	39.0	57.3
	80～84歳(n=1,085)	38.6	56.0
	85歳以上(n=882)	23.6	66.8
地域別	京橋地域(n=1,442)	35.6	59.8
	日本橋地域(n=1,832)	42.8	54.0
	月島地域(n=3,268)	33.9	61.9
居住年数別	5年未満(n=721)	21.9	73.5
	5年以上～10年未満(n=660)	27.0	70.6
	10年以上～20年未満(n=1,314)	31.4	65.5
	20年以上(n=3,468)	43.9	51.9
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	41.4	54.0
	集合住宅(n=3,617)	33.2	63.3

0.0 太字・太枠は、全体よりも5ポイント以上高い項目

(4) 参加している地域活動の内容 (問 13 ②) ※複数回答



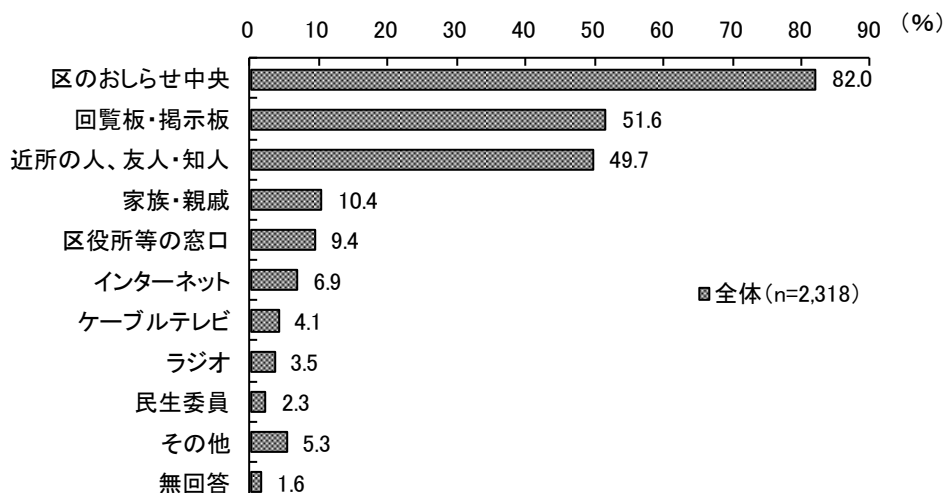
◇男女別、年齢別、地域別、居住年数別：参加している地域活動の内容（問 13 ②）※複数回答

- ・男性は「祭り等のイベント」、女性は「高齢者クラブや自治会・町会等での近隣住民との交流の場」が最も多い。
- ・前期高齢者は「祭り等のイベント」、後期高齢者は「高齢者クラブや自治会・町会等での近隣住民との交流の場」が最も多い。
- ・京橋地域、日本橋地域は「祭り等のイベント」、月島は「高齢者クラブや自治会・町会等での近隣住民との交流の場」が最も多い。
- ・居住年数が5年未満は「サークルや趣味の活動」、5年以上～10年未満、10年以上～20年未満は「高齢者クラブや自治会・町会等での近隣住民との交流の場」、20年以上は「祭り等のイベント」が最も多い。

		(%)								
		祭り等のイベント	生涯学習講座	活動サークルや趣味の活動	健康づくりにつな	近隣住民との交流の場	高齢者クラブや自治会・町会等での交流	ボランティア活動	その他	無回答
全 体(n=2,318)		44.7	14.5	29.1	23.0	43.1	25.2	10.2	1.6	
男女別	男性(n=1,079)	54.8	10.5	21.6	16.5	41.5	28.3	10.3	1.1	
	女性(n=1,234)	35.9	18.2	35.7	28.8	44.4	22.5	10.1	2.0	
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=1,172)	49.9	17.3	30.1	20.5	35.2	30.4	10.5	0.9	
	後期高齢者(n=1,134)	39.3	11.7	27.9	25.6	51.4	19.8	9.9	2.3	
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=581)	52.5	17.9	31.5	16.7	29.4	29.1	9.8	0.3	
	70～74歳(n=591)	47.4	16.8	28.8	24.2	40.9	31.6	11.2	1.5	
	75～79歳(n=507)	42.2	15.0	28.6	24.1	45.8	25.4	9.7	2.4	
	80～84歳(n=419)	39.4	9.3	28.4	29.1	54.4	18.1	8.8	2.9	
	85歳以上(n=208)	32.2	8.7	25.0	22.1	59.1	9.1	12.5	1.0	
地域別	京橋地域(n=514)	53.1	16.1	28.4	20.8	43.8	23.0	9.1	0.4	
	日本橋地域(n=785)	58.5	12.9	27.1	22.5	43.8	24.2	10.7	1.4	
	月島地域(n=1,000)	29.9	15.2	31.0	24.6	42.2	27.1	10.0	2.3	
居住年数別	5年未満(n=158)	26.6	21.5	30.4	27.2	26.6	22.2	13.3	1.9	
	5年以上～10年未満(n=178)	24.7	20.2	37.6	27.0	37.6	25.8	10.7	0.6	
	10年以上～20年未満(n=413)	31.7	22.8	30.8	25.2	32.4	25.4	13.3	1.2	
	20年以上(n=1521)	52.5	11.3	27.7	21.3	47.9	25.3	9.2	1.6	
住宅の 建て方別	一戸建(n=1,115)	55.3	10.6	26.3	21.2	48.8	24.6	9.1	1.9	
	集合住宅(n=1,202)	34.8	18.2	31.8	24.8	37.9	25.7	11.1	1.3	
		0.0 最も多い項目								

0.0 最も多い項目

(5) 地域活動に関する情報入手の方法（問 13 ③）※複数回答



◇年齢別：地域活動に関する情報入手の方法（問 13 ③）※複数回答

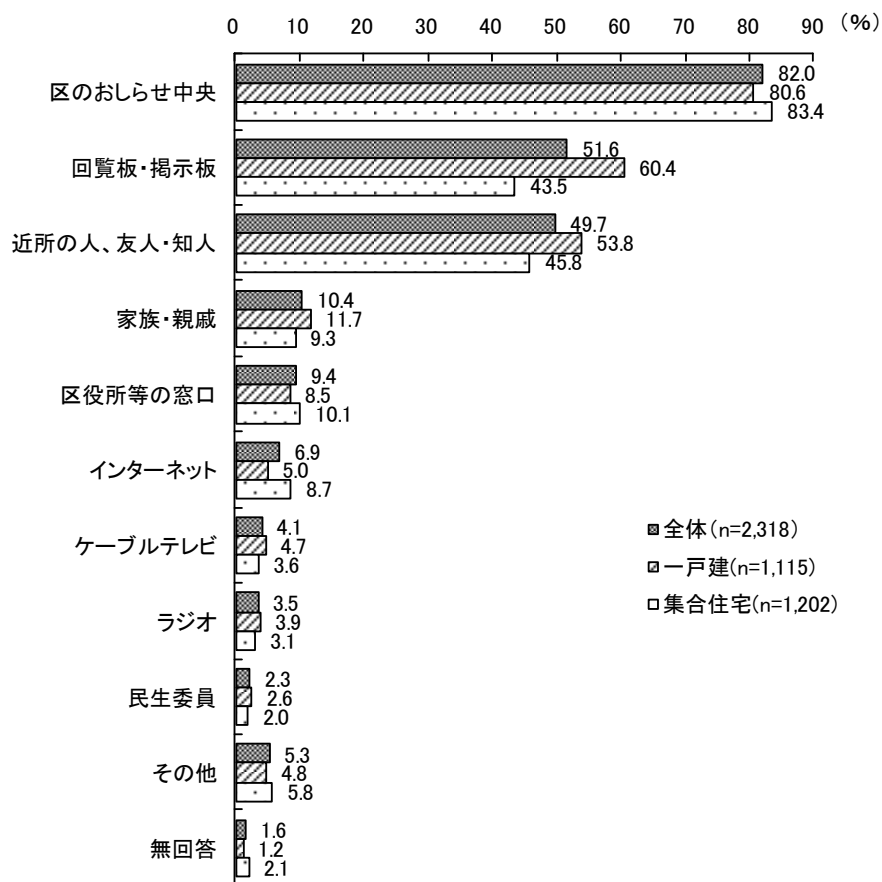
65～69 歳は「インターネット」が全体より 5 ポイント以上高い。

		(%)										
		区のお知らせ中央	回覧板・掲示板	ケーブルテレビ	ラジオ	インターネット	区役所等の窓口	民生委員	家族・親戚	近所の人、友人・知人	その他	無回答
全	体(n=2,318)	82.0	51.6	4.1	3.5	6.9	9.4	2.3	10.4	49.7	5.3	1.6
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=581)	79.5	47.8	3.8	3.6	12.0	6.9	2.9	12.4	46.1	3.1	1.5
	70～74歳(n=591)	82.4	55.2	3.4	1.5	7.1	9.6	1.7	7.4	50.3	4.2	1.0
	75～79歳(n=507)	85.0	54.4	5.1	3.2	6.5	11.4	2.2	10.8	49.3	6.7	1.2
	80～84歳(n=419)	82.6	49.4	3.6	5.0	1.9	12.2	2.4	9.8	53.7	6.7	2.4
	85歳以上(n=208)	79.8	50.5	5.8	5.3	2.4	4.8	1.9	13.0	50.5	9.1	2.9

0.0 太字・太枠は、全体より5ポイント以上高い項目

◇住宅の建て方別：地域活動に関する情報入手の方法（問 13 ③）※複数回答

一戸建は、「回覧板・掲示板」、「近所の人、友人・知人」が全体より多い。集合住宅では「回覧板・掲示板」、「近所の人、友人・知人」は全体より少ない。この 2 項目は、一戸建と集合住宅の間で大きな開きがある。



(6) 参加してみたい地域活動（問 13 ④）※自由記述

全体で 1,660 件の回答があった。問 13②（参加している地域活動）の選択肢の具体的な内容の他、同年代・世代間・外国人等との交流活動、自分の知識や経験を活かせる活動、IT 能力の向上に関する活動などの記載もあった。

【同年代・世代間・外国人等との交流活動に関する記述の例】

- ・同年代の人たちとお茶を飲む会などあるとうれしいです。
- ・英語、北京語ができるので海外の方々と多くの交流を持ちたいと思っています。
- ・子どもたちの学習指導（中・高）
- ・子どもたちに昔の遊び（竹馬等）を教えてみたい。

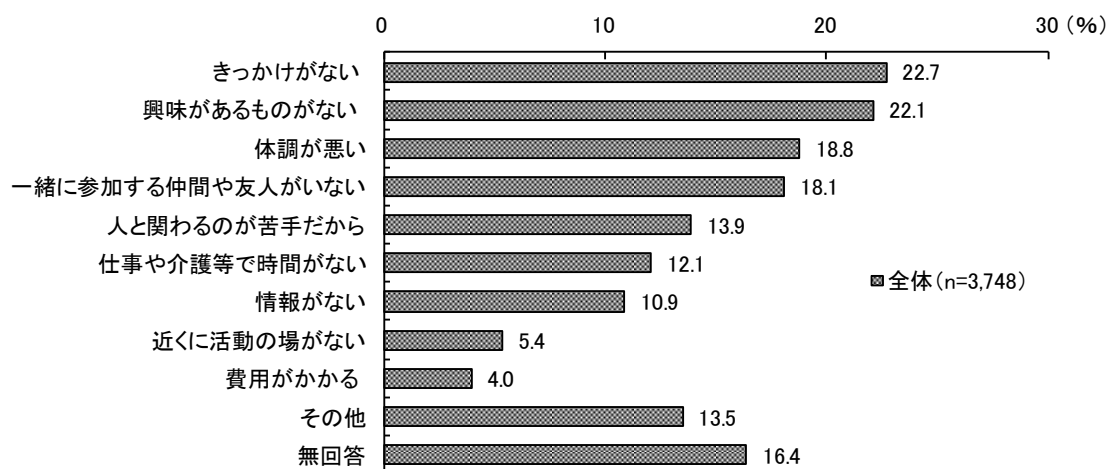
【自分の知識や経験を活かせる活動に関する記述の例】

- ・楽器をチームで組んで演奏し、老人ホームなどでボランティア演奏したい。
- ・吹き矢のインストラクターをしていたのでやりたいと思っている。
- ・外国人への日本語教育。現役時代の国際ビジネスの経験を生かしたい。
- ・40 年間茶懐石の勉強をしたのでレシピを作成して配布したい。
- ・プロとして報酬が支払われる仕事なら。

【IT 能力の向上に関する活動に関する記述の例】

- ・タブレット・スマホの使い方をおたがい教え合うサークルのようなもの。
- ・町会会館内でパソコンの講習会を開く。高齢者ほどネットの必要性を感じる。

(7) 地域活動に参加しない理由（問 13 ⑤）※複数回答



【「その他」の主な内容（順不同）】

仕事をしている、趣味やスポーツ等で忙しい、地域外で活動している、高齢である、介護を受けている、歩けない、目が悪い、体力的に無理がある、配偶者が参加している、めんどう、転居して日が浅い、など

◇男女別、年齢別、地域別、居住年数別、住宅の建て方別、世帯類型別、暮らし向き別：地域活動に参加しない理由（問 13 ⑤）

- ・前期高齢者では「興味があるものがない」、「仕事や介護で時間がない」、「きっかけがない」、後期高齢者では「体調が悪い」が全体より5ポイント以上高い。
- ・居住年数5年未満と5年以上～10年未満では「きっかけがない」が全体より5ポイント以上高い。
- ・暮らしむきに余裕がない人では「費用がかかる」、「体調が悪い」が全体より5ポイント以上高い。

(%)

		な興味があるものがない	費用がかかる	近くに活動の場がない	間一や一緒に参加する仲間がいない	仕事や介護等で時間がない	情報がない	きっかけがない	体調が悪い	人と関わるのが苦手	その他	無回答
全	体(n=3,748)	22.1	4.0	5.4	18.1	12.1	10.9	22.7	18.8	13.9	13.5	16.4
男女別	男性(n=1,834)	26.9	3.8	5.5	20.1	12.8	12.3	23.7	15.8	13.4	11.5	14.9
	女性(n=1,904)	17.5	4.2	5.4	16.2	11.4	9.6	21.8	21.6	14.3	15.6	17.8
年齢別	前期高齢者(n=1,784)	27.2	4.2	5.8	20.0	18.0	13.5	28.5	10.3	15.0	13.1	12.6
(2区分)	後期高齢者(n=1,942)	17.4	3.8	5.1	16.3	6.7	8.6	17.3	26.7	12.9	14.1	19.8
	65～69歳(n=972)	29.1	4.0	5.9	20.6	19.0	14.8	30.0	8.1	13.8	14.2	11.1
年齢別	70～74歳(n=812)	24.9	4.4	5.7	19.3	16.7	11.8	26.7	12.9	16.4	11.7	14.4
(5区分)	75～79歳(n=745)	22.0	5.5	6.0	19.5	8.1	11.4	23.2	18.9	12.5	11.9	19.5
	80～84歳(n=608)	18.4	4.3	5.4	15.6	7.7	8.7	16.8	26.8	13.8	12.2	19.2
	85歳以上(n=589)	10.5	1.2	3.6	12.9	3.9	4.9	10.4	36.3	12.4	18.8	20.9
地域別	京橋地域(n=863)	21.9	3.6	5.8	18.3	11.6	10.3	22.0	19.6	14.0	12.5	18.1
	日本橋地域(n=989)	21.3	3.0	5.9	18.0	13.2	10.6	22.2	17.3	12.8	14.4	18.2
	月島地域(n=1,826)	22.9	4.8	5.0	18.2	11.9	11.6	23.3	19.5	14.4	13.4	14.1
居住年数別	5年未満(n=530)	20.9	4.3	4.3	22.5	9.4	14.7	30.9	13.6	11.5	15.7	15.8
	5年以上～10年未満(n=466)	22.7	3.9	6.2	20.8	11.4	11.6	27.7	17.6	15.5	14.6	13.5
	10年以上～20年未満(n=861)	25.4	4.2	7.0	19.0	12.8	14.6	26.8	17.4	12.2	13.2	13.4
	20年以上(n=1,800)	21.1	3.9	4.9	15.6	12.7	8.1	17.6	21.2	14.8	13.1	18.3
住宅の建て方別	一戸建(n=1,454)	20.0	4.1	5.0	16.0	11.1	9.4	17.7	21.5	13.8	13.1	18.2
	集合住宅(n=2,288)	23.4	3.9	5.6	19.4	12.7	11.9	25.9	17.1	14.0	13.9	15.2
世帯類型別	ひとり暮らし(n=1,349)	21.3	4.6	5.6	17.9	10.2	12.2	23.6	21.3	14.5	15.2	15.0
	夫婦のみ(n=1,033)	24.5	2.4	5.6	19.9	14.4	10.8	22.9	16.1	12.8	12.4	15.6
	(2人)本人と親(n=26)	34.6	3.8	7.7	19.2	50.0	-	19.2	-	11.5	3.8	7.7
	(2人)本人と子ども(n=294)	13.6	5.1	2.7	16.7	6.1	9.9	23.1	20.4	18.0	14.3	19.7
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=6)	16.7	-	-	33.3	16.7	-	-	16.7	16.7	-	50.0
	(2人)本人と孫(n=9)	11.1	-	-	44.4	-	11.1	44.4	-	11.1	33.3	11.1
	(2人)本人とその他の続柄(n=98)	19.4	2.0	7.1	16.3	9.2	6.1	18.4	19.4	15.3	16.3	14.3
	(3人以上)その他(n=708)	25.6	4.7	5.5	16.2	15.0	10.3	22.0	17.8	12.0	13.1	16.8
暮らし向き別	余裕がある(n=2,554)	22.2	1.1	5.0	17.9	12.0	10.4	23.0	16.7	13.7	13.7	17.6
	余裕がない(n=1,103)	22.7	11.0	6.3	19.1	12.9	12.6	22.3	23.8	14.4	13.1	12.4

0.0 太字・太枠は、全体より5ポイント以上高い項目

7-4 孤立防止

- ・頼れる人について、7項目中6項目で「同居している家族・親族」、「同居していない家族・親族」が1位・2位を占めている。“さみしいときに話し相手になってもらう”では、「友人・知人・隣人」が36.9%と最も多い。
- ・10年前と比べて人づきあいの頻度は、「あまり変わらない」が47.5%。＜減った（「減った」、「かなり減った」）＞は35.1%、＜増えた（「かなり増えた」、「増えた」）＞は15.8%。
- ・現在の不安は、自分や家族の健康や介護、家計・経済、住まい、災害、もの忘れ・認知症、ひとり暮らし、親しい人の不在、死後の手続きなどとなっている。

(1) 頼れる人の有無（問14）

(%)

全体(N=6,325)	同居している家族・親族	同居していない家族・親族	友人・知人・隣人	おとしより相談センターなどの行政窓口	民生委員・自治会・町会	かかりつけ医・歯科医・薬局	ケアマネジャー・ホームヘルパー	頼れる人はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	52.2	34.8	7.7	10.0	2.1	11.6	9.8	9.1	5.3
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	40.8	31.5	11.4	2.9	0.6	0.2	2.1	13.7	11.5
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	35.8	27.4	12.9	13.5	2.3	29.0	8.7	5.6	9.8
◆愚痴を聞いてもらう	35.9	23.0	30.7	1.1	0.6	0.9	2.0	8.8	19.1
◆災害時に手助けをしてもらう	41.4	31.7	21.8	4.3	9.8	0.8	2.2	12.7	12.8
◆さみしいときに話し相手になってもらう	36.5	25.7	36.9	1.0	0.8	0.6	1.8	9.2	17.6
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	36.4	31.3	24.9	4.6	1.6	0.6	1.7	10.7	17.5

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

◇世帯類型別：頼れる人の有無（問14）

単身世帯は、7項目中5項目で「同居していない家族・親族」が最も多く、“愚痴を聞いてもらう”、“さみしいときに話し相手になってもらう”では「友人・知人・隣人」が最も多い。7項目中6項目で「頼れる人はいない」が全体より5ポイント以上高い。

(%)

世帯類型別 単身(n=2,169)	同居している家族・親族	同居していない家族・親族	友人・知人・隣人	おとしより相談センターなどの行政窓口	民生委員・自治会・町会	かかりつけ医・歯科医・薬局	ケアマネジャー・ホームヘルパー	頼れる人はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	3.8	51.9	12.8	12.5	2.6	10.6	12.3	19.2	7.5
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	3.3	41.1	16.4	4.6	0.9	0.3	3.7	24.2	14.5
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	2.7	38.0	16.9	15.5	3.0	27.0	9.5	10.1	10.7
◆愚痴を聞いてもらう	2.2	31.4	38.9	0.9	0.6	1.3	2.7	15.1	21.4
◆災害時に手助けをしてもらう	3.1	37.5	24.4	5.5	10.4	0.7	3.3	22.7	13.9
◆さみしいときに話し相手になってもらう	2.0	31.1	44.6	1.0	0.7	0.7	2.5	15.5	19.7
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	2.6	41.5	28.5	5.0	2.1	0.6	2.2	16.8	18.5

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

◇世帯類型別：頼れる人の有無(問 14)続き

夫婦のみ世帯は、7 項目中すべて「同居している家族・親族」が最も多い。“重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう”、“災害時に手助けをしてもらう”の2項目は、「同居していない家族・親族」の割合が全体より5ポイント以上高い。

(%)

世帯類型別 夫婦のみ(n=1,777)	同居して いる家族・ 親族	同居して いない家 族・親族	友人・知 人・隣人	おとしより 相談セン ターなど の行政窓 口	民生委 員・自治 会・町会	かかりつ け医・歯 科医・薬 局	ケアマネ ジャー・ ホームヘルパー	頼れる人 はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	83.1	28.8	3.5	7.6	2.0	12.4	7.8	2.6	2.3
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	53.6	36.6	8.5	2.5	0.8	0.2	1.1	9.7	8.8
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	55.0	25.5	9.6	12.8	1.9	33.1	7.9	3.2	7.0
◆愚痴を聞いてもらう	58.9	18.8	21.9	1.2	0.6	0.6	1.2	5.8	16.8
◆災害時に手助けをしてもらう	60.1	37.1	21.0	3.9	9.4	1.1	1.5	8.9	9.7
◆さみしいときに話し相手になってもらう	61.6	25.2	28.9	0.8	1.0	0.2	0.7	5.4	15.5
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	57.5	29.0	21.9	4.8	1.6	0.4	1.0	7.5	15.5

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

本人と親の世帯は、7 項目中5項目が「同居していない家族・親族」、3項目が「友人・知人・隣人」が最も多い。7項目中4項目で「頼れる人はいない」が全体より5ポイント以上高い。

(%)

世帯類型別 本人と親(n=35)	同居して いる家族・ 親族	同居して いない家 族・親族	友人・知 人・隣人	おとしより 相談セン ターなど の行政窓 口	民生委 員・自治 会・町会	かかりつ け医・歯 科医・薬 局	ケアマネ ジャー・ ホームヘルパー	頼れる人 はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	20.0	60.0	5.7	-	-	8.6	11.4	20.0	5.7
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	14.3	54.3	17.1	-	-	-	-	20.0	5.7
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	17.1	45.7	22.9	14.3	-	25.7	11.4	5.7	5.7
◆愚痴を聞いてもらう	17.1	51.4	51.4	-	-	-	-	8.6	11.4
◆災害時に手助けをしてもらう	11.4	45.7	25.7	2.9	5.7	-	-	22.9	14.3
◆さみしいときに話し相手になってもらう	17.1	42.9	51.4	-	-	-	-	11.4	11.4
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	14.3	42.9	48.6	5.7	-	-	-	17.1	5.7

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

◇住宅の建て方別：頼れる人の有無（問 14）

- ・一戸建は、7 項目すべてが「同居している家族・親族」が最も多くなっている。「頼れる人はいない」は全体よりやや低くなっている。

(%)

住宅の建て方別 一戸建(n=2,694)	同居して いる家族・ 親族	同居して いない家 族・親族	友人・知 人・隣人	おとし より 相談セン ターなど の行政窓 口	民生委 員・自治 会・町会	かかりつ け医・歯 科医・薬 局	ケアマネ ジャー・ ホームヘル パー	頼れる人 はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	55.2	34.0	7.2	9.9	2.6	12.2	10.2	7.9	5.6
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	43.7	31.0	11.5	2.5	0.6	0.3	1.7	10.7	12.7
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	37.4	26.7	11.9	13.0	2.9	27.9	8.9	4.5	11.3
◆愚痴を聞いてもらう	36.6	22.0	29.6	0.9	0.9	1.0	2.2	7.3	20.8
◆災害時に手助けをしてもらう	43.9	29.5	22.3	4.0	11.4	0.9	2.0	10.0	14.0
◆さみしいときに話し相手になってもらう	36.7	24.7	35.4	1.1	1.2	0.8	2.1	7.4	19.6
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	38.2	30.5	23.1	4.9	2.0	0.7	1.7	8.7	19.3

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

- ・集合住宅は、7 項目中 6 項目が「同居している家族・親族」で、“さみしいときに話し相手になってもらう”は「友人・知人・隣人」が最も多い。「頼れる人はいない」は全体よりやや高くなっている。

(%)

住宅の建て方別 集合住宅(n=3,617)	同居して いる家族・ 親族	同居して いない家 族・親族	友人・知 人・隣人	おとし より 相談セン ターなど の行政窓 口	民生委 員・自治 会・町会	かかりつ け医・歯 科医・薬 局	ケアマネ ジャー・ ホームヘル パー	頼れる人 はいない	無回答
◆自分が病気になったとき、自宅で身の回りの世話をしてもらう	50.1	35.4	8.1	10.0	1.7	11.2	9.6	9.9	4.8
◆重たい家具や家電の移動などを手伝ってもらう	38.7	32.0	11.4	3.2	0.7	0.2	2.4	16.0	10.5
◆健康、介護に関する相談に乗ってもらう	34.8	28.1	13.7	14.0	1.9	30.0	8.5	6.4	8.6
◆愚痴を聞いてもらう	35.4	23.7	31.7	1.2	0.4	0.9	1.8	9.9	17.7
◆災害時に手助けをしてもらう	39.6	33.4	21.5	4.6	8.6	0.8	2.4	14.7	11.7
◆さみしいときに話し相手になってもらう	36.4	26.5	38.2	1.0	0.6	0.4	1.6	10.5	15.9
◆仕事・住まいなど人生に関する相談に乗ってもらう	35.1	31.9	26.3	4.4	1.4	0.4	1.7	12.1	16.0

0.0 最も多い項目

0.0 太枠・太字は、全体よりも5ポイント以上高い項目

◇男女別、年齢別、地域別、居住年数別、住宅の建て方別、世帯類型別、暮らし向き別：頼れる人の有無（問 14）

「頼れる人はいない」という回答に着目すると、暮らし向きに余裕がない人で6項目、単身で5項目、本人と親世帯で2項目が、全体より5ポイント以上高い。

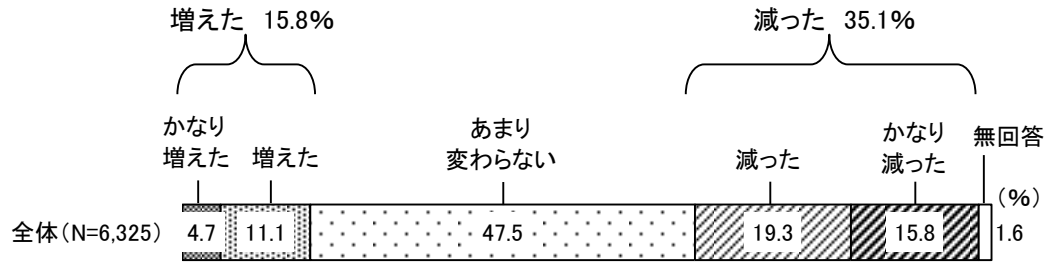
【「頼れる人はいない」と回答した人の割合】

(%)

		自分が病 気になっ たとき、自 宅で身の 回りの世 話をし てもらう	重たい家 具や家電 の移動な どを手 伝って もらう	健康、介 護に関す る相談に 乗って もらう	愚痴を聞 いてもら う	災害時に 手助けを してもら う	さみしい ときに話 し相手 になっ てもら う	仕事・住 まいなど 人生に関 する相談 に乗っ てもら う
全	体(N=6,325)	9.1	13.7	5.6	8.8	12.7	9.2	10.7
男女別	男性(n=3,002)	7.3	13.0	6.4	10.6	12.0	10.2	11.8
	女性(n=3,305)	10.7	14.4	4.8	7.1	13.3	8.2	9.6
年齢別 (2区分)	前期高齢者(n=3,019)	11.3	16.9	7.2	10.1	14.9	10.3	12.2
	後期高齢者(n=3,268)	7.0	10.9	4.0	7.5	10.6	8.1	9.3
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	11.4	16.6	7.6	9.6	14.6	9.6	11.4
	70～74歳(n=1,443)	11.3	17.2	6.9	10.7	15.3	11.1	13.0
	75～79歳(n=1,301)	9.8	14.8	6.1	8.8	13.1	9.5	11.7
	80～84歳(n=1,085)	6.4	10.6	3.7	7.5	11	8.1	9
	85歳以上(n=882)	3.6	5.4	1.5	5.7	6.6	6.1	6.1
地域別	京橋地域(n=1,442)	9.2	12.4	5.7	8.1	13.1	8.6	10.4
	日本橋地域(n=1,832)	7.6	13.3	4.5	7.6	10.9	7.9	9.6
	月島地域(n=2,950)	9.9	14.7	6.2	9.9	13.7	10.4	11.4
居住年数別	5年未満(n=721)	11.1	16.1	6.4	11.1	16.8	11.2	11.8
	5年以上～10年未満(n=660)	12.4	18	8.8	11.8	16.2	11.7	14.1
	10年以上～20年未満(n=1,314)	9.7	16.1	5.8	9.1	14.3	10	11.6
	20年以上(n=3,468)	7.8	11.7	4.8	7.8	10.8	8.1	9.6
住宅の 建て方別	一戸建(n=2,694)	7.9	10.7	4.5	7.3	10	7.4	8.7
	集合住宅(n=3,617)	9.9	16	6.4	9.9	14.7	10.5	12.1
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	19.2	24.2	10.1	15.1	22.7	15.5	16.8
	夫婦のみ(n=1,777)	2.6	9.7	3.2	5.8	8.9	5.4	7.5
	(2人) 本人と親(n=35)	20	20	5.7	8.6	22.9	11.4	17.1
	(2人) 本人と子ども(n=504)	5.8	6	3.4	6	6.5	7.7	8.9
	(2人) 本人と子どもの配偶者(n=9)	-	-	-	-	-	-	-
	(2人) 本人と孫(n=20)	5	5	-	5	5	5	5
	(2人) 本人とその他の続柄(n=160)	6.3	15.6	4.4	8.1	11.9	8.1	10
	(3人以上) その他(n=1,269)	1.2	3.8	2.3	3.8	3.6	4.5	5
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	7	11.4	3.8	6.7	10.2	6.9	8.1
	余裕がない(n=1,741)	14.3	19.9	10.1	14.4	19.4	15.2	17.3

0.0 太字・太枠は、全体より5ポイント以上高い項目

(2) 人づきあいの頻度の変化 (問 15)



◇男女別、年齢別、居住年数別、世帯類型別、暮らし向き別：人づきあいの頻度の変化 (問 15)

女性は「増えた（「かなり増えた」と「増えた」の合計）」、男性は「減った（「減った」と「かなり減った」の合計）」が全体より高くなっている。

年齢別では85歳以上、居住年数別では5年未満と5年以上～10年未満、世帯類型別では本人と親、暮らし向き別では余裕がない人で、＜減った＞が全体よりも5ポイント以上高い。

		(%)	
		え 増 た え + た 増へ えか たな り 増	か 減 な っ り た 減へ つ 減 た っ た +
全	体(N=6,325)	15.8	35.1
男女別	男性(n=3,002)	14.5	37.7
	女性(n=3,305)	16.9	32.8
年齢別 (5区分)	65～69歳(n=1,576)	17.6	31.4
	70～74歳(n=1,443)	17.1	31.8
	75～79歳(n=1,301)	18.0	32.3
	80～84歳(n=1,085)	14.6	37.2
	85歳以上(n=882)	9.0	48.6
居住年数別	5年未満(n=721)	10.8	43.6
	5年以上～10年未満(n=660)	15.8	42.3
	10年以上～20年未満(n=1,314)	16.3	34.4
	20年以上(n=3,468)	16.8	32.3
世帯類型別	ひとり暮らし(n=2,169)	15.6	37.2
	夫婦のみ(n=1,777)	15.1	35.6
	(2人)本人と親(n=35)	2.9	45.7
	(2人)本人と子ども(n=504)	13.3	33.5
	(2人)本人と子どもの配偶者(n=9)	11.1	44.4
	(2人)本人と孫(n=20)	10.0	30.0
	(2人)本人とその他の続柄(n=160)	12.5	33.8
	(3人以上)その他(n=1,269)	18.4	33.4
暮らし向き別	余裕がある(n=4,400)	17.5	31.5
	余裕がない(n=1,741)	11.8	44.7
		0.0	全体よりも5ポイント以上高い項目

(3) 現在不安に感じていること (問 16 自由記述)

現在不安に感じていることについて、4,146件の回答があった。主な内容は、自分や家族の健康や介護、家計・経済（年金、退職後や働けなくなった時の収入、介護保険の利用者負担など）、住まい（老朽化、耐震性、ローンの返済、年金で利用できる老人ホームの利用など）災害、もの忘れ・認知症、ひとり暮らし、親しい人の不在、死後の手続き（葬儀、相続など）などとなっている。

中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 報告書（案）

平成 28 年 6 月

中央区福祉保健部高齢者福祉課
東京都中央区築地一丁目 1 番 1 号
電話 03-3546-5353